

第六章 工場

第一款 工場法

●工場法施行細則

(大正十五年六月二十八日)
縣令第五十四號

昭和二年一月縣令第五八號、四年八月同第二
八號改正

工場法施行細則左ノ通定ム

工場法施行細則

第一條 本則ニ於テ法ト稱スルハ工場法、令ト稱スルハ工場法施行令、規則ト稱スルハ工場法施行規則ヲ謂ヒ工場法規則ト稱スルハ工場法、工場法施行令、工場法施行規則及本則ヲ謂フ

第二條 工業主ハ其ノ工場ニシテ法第一條又ハ規則第二十七條ノ規定ニ依リ工場法規ノ適用ヲ受クヘキ事由ヲ生シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十一編 警察 第六章 工場 第一款 工場法

一 工業主ハ住所氏名法人ニ在リテハ其ノ名稱事務所々在地及代表者ノ氏名生年月日

二 工場名及工場所在地

三 業務ノ種類

四 職工數(男女別)

五 適用ヲ受クヘキ事由

六 原動力ノ種類員數及力量

現ニ工場法規ノ適用ヲ受クル工場ニシテ其ノ適用ヲ受クヘキ事由消滅シタルトキハ十日以内ニ其ノ事由ヲ知事ニ届出ツヘシ

第三條 工業主ハ始業及終業ノ時刻並休憩時間及休日ヲ定メ之ヲ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四條 前條ノ休日ヲ輪番ニ與フル場合ニ於テハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 職工ノ氏名ヲ組別ニナシ就業者ト休業者トノ區別ヲ明瞭ナラシムル票札ヲ各作業場ノ見易キ場所ニ掲示スルコト

二 職工ノ氏名ヲ組別ニ依リ明瞭ニ記載シタル帳簿ヲ工場ニ備付タルコト

第五條 規則第十二條ノ二ニ依リ職工ニ明示スヘキ賃金ノ率

及計算方法ハ豫メ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六條 規則第十二條ニ依ル就業規則ノ周知及同條ノ二ニ依ル賃金ノ率及計算方法ノ明示ハ規則第十三條ニ依ル扶助ニ關スル事項ノ要領周知ノ方法ハ文書ヲ職工ニ交付シ其ノ主

旨ヲ懸示スヘシ

第七條 法第四條但書ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一 業務ノ種類

二 始業終業ノ時刻休憩時間休日ニ關スル事項

三 事由

四 期間

五 就業セシムヘキ女子ノ數及十六歳未満ノ男子ノ數

六 休憩時間中ニ於テ動力運轉休止ノ有無

七 賃金支給ニ關スル事項

第八條 法第七條第二項但書ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一 業務ノ種類

二 職工數(男女別)

三 交換休憩ヲ要スル事由及期間

六 始業及終業ノ時刻並休憩時間及休日ノ配置

第十一條 規則第四條ノ規定ニ依ル届出ハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一 事業ノ種類

二 急速ニ腐敗シ又ハ變質スル虞アル原料名

三 就業繼續日數並其ノ月日

四 就業時間ヲ延長シタルモノニ在リテハ其ノ一日ノ延長時間

五 十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメタルモノニ在リテハ其ノ就業時間及其ノ職工數

六 休日ヲ廢シタルモノニ在リテハ其ノ月日

第十二條 法第八條第三項ニ依ル届出ハ左ノ事項ヲ具備スヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 事業ノ種類

二 臨時就業ヲ必要トスル事由

三 期間

四 延長時間

五 始業及終業ノ時刻並休憩時間ノ配置

四 休憩方法

交替休憩ヲ要スル事由消滅シタルモノト認ムルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 法第七條第三項ニ依リ就業時間延長ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一 始業及終業ノ時刻

二 休憩時間及其ノ配置

三 延長スヘキ期間

四 延長スヘキ時間

第十條 法第八條第二項ニ依リ就業時間ヲ延長シ十六歳以上ノ女子ヲ就業セシム又ハ休日ヲ廢セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一 事業ノ種類

二 避クヘカラサル事由ニ依リ臨時ノ就業ヲ必要トスル理由

三 就業時間ヲ延長スルモノニ在リテハ其ノ一日ノ延長時間並其ノ期間

四 十六歳以上ノ女子ヲ就業セシムルモノニ在リテハ其ノ就業時間並其ノ期間及其ノ職工數

五 休日ヲ廢スルモノニ在リテハ其ノ月日

一 事業ノ種類

二 季節ニ依リ繁忙ナル事由及期間

三 延長スヘキ期間

四 延長時間

五 始業及終業ノ時刻並休憩時間ノ配置

第十四條 工業主、工場醫ヲ定メタルトキハ其ノ住所氏名手當又ハ報酬額ヲ具シ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十五條 工業主ハ工場毎ニ様式第一號ニ依リ負傷疾病出產死亡者名簿ヲ備ヘ職工疾病負傷出產又ハ死亡ノ都度之ヲ登錄スヘシ

前項ノ負傷疾病出產死亡者名簿ハ其ノ使用ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第十六條 令第七條ノ二ニ依リ職工ノ重大ナル過失ニ因ルコトノ認定ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一 職工ノ住所氏名生年月日

二 雇入年月日

三 當該職工ノ當時從事スル業務

四 負傷又ハ疾病發生ノ原因

第十一編 警察 第六章 工場 第一款 工場法

五三六

- 五 負傷又ハ疾病發生ノ日時場所及設備機械名稱位置
- 六 重大ナル過失ナルコトヲ證スル書類其ノ他證據物件
- 七 休業ノ見込日數
- 八 障害ノ程度
- 九 醫師ノ診斷書

一〇 其ノ他參考トナルヘキ事項

第十七條 令第十三條第二項ニ依ル障害扶助料及遺族扶助料

ヲ分割支給セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請ス

ヘシ

- 一 支給スヘキ職工又ハ遺族ノ住所氏名生年月日並遺族ニ在リテハ職工トノ續柄
- 二 扶助料ノ種類
- 三 支給スヘキ總金額
- 四 分割回數及各回ノ金額
- 五 分割支給ノ事由

第十八條 工場主令第十六條第四項但書ノ規定ニ依リ扶助料

及葬祭料ノ裁定ヲ必要トスルトキハ其ノ理由ヲ記載シ遲滯

ナク知事ニ申請スヘシ

第十九條 令第十八條ニ依リ知事ニ申請スルトキハ左ノ事項

ヲ具備スヘシ

- 一 就業日數
- 二 賃金總額
- 三 支拂年月日
- 四 支拂金額
- 五 受領者氏名印

第二十三條 工業主ハ各工場毎ニ賃金臺帳ヲ備ヘ少クトモ左

ノ事項ヲ具備シ毎月ノ賃金支拂ヲ明ニスヘシ

一 就業日數

二 賃金總額

三 支拂年月日

四 支拂金額

五 受領者氏名印

第二十四條 規則第二十條第三號ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂

ヒ又ハ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ

一 職工又ハ職工ノ扶養義務ニ屬スル者ノ療養費又ハ出産

費ニ充ツルトキ

二 職工又ハ職工ノ扶養義務ニ屬スル者不時ノ災害ニ罹リ

タルトキ

第二十五條 工業主令第二十四條但書ノ許可ヲ受ケムトスル

トキハ左ノ各號ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一 職工ニ貯蓄ヲナサシムル場合ニ在リテハ賃金ニ對スル

貯蓄金ノ割合並貯蓄方法

二 職工ノ利益ノ爲メ賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲナス場

合ニ在リテハ其ノ理由及給付スルモノノ種類並給付ノ方

法

第十一編 警察 第六章 工場 第一款 工場法

五三九

一 申請者ノ氏名及相手方ノ住所氏名生年月日

二 當該工場ニ入場年月日

三 當該職工ノ當時從事スル業務

四 審査又ハ事件ノ調停ヲ申請スル事項及事由

五 醫師ノ診斷書

六 負傷又ハ疾病發生ノ日時場所

前項ノ申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條 工業主工場法規ニ依リ職工又ハ其ノ遺族若クハ本

人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助シ

タルトキハ様式第二號ニ依リ其ノ月分ヲ取纏メ翌月十日迄

ニ知事ニ届出ツヘシ

第二十一條 工業主ハ各工場毎ニ様式第三號ニ依リ扶助簿ヲ

備ヘ扶助ノ都度之ニ記載スヘシ

前項ノ扶助簿ハ前條ニ依リ扶助月報ノ寫ヲ以テ之ニ代フル

コトヲ得扶助簿ハ其ノ使用ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保

存スヘシ

第二十二條 工業主ハ各工場毎ニ職工出勤簿ヲ備ヘ其ノ出勤

状態ヲ明ニスヘシ

前項ノ出勤簿ハ其ノ使用ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存

スヘシ

三 令第二十四條第二號ノ場合ニ在リテハ職工ヲ解雇スル

事由ノ種類

第二十六條 工業主令第二十五號ニ依リ認可ヲ受ケムトスル

トキハ貯蓄方法貯蓄金管理規程案ヲ具シ知事ニ申請スヘ

シ

貯蓄金管理規程ハ本則第六條ニ準シ之ヲ職工ニ周知セシム

ヘシ

第二十七條 工業主令第二十七條ニ依リ歸郷旅費ヲ支給ノタ

ルトキハ其ノ種別、氏名、歸郷地、金額、支給月日ヲ翌月

十日迄ニ知事ニ届出ツヘシ

第二十八條 工業主ハ工場毎ニ様式第四號ニ依リ解雇手當支

給簿ヲ備ヘ解雇手當支給ノ都度之ニ記載スヘシ

前項ノ解雇手當支給簿ハ其ノ使用ヲ終リタル日ヨリ三年間

之ヲ保存スヘシ

第二十九條 十四日ヲ超エル試ノ雇傭期間ヲ定ムトスルト

キハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一 業務ノ種類

二 延長セムトスル理由

前項ノ許可ニ關シ必要ト認ムルトキハ期限ヲ附スルコトア

ルヘシ

第三十條 工業主ハ工場毎ニ様式第五號ニ依リ職工雇傭證明書交付簿ヲ備ヘ令第二十七條ノ三ニ依リ職工ニ證明書ヲ交付シタル都度之ニ記載スヘシ

前項職工雇傭證明書交付簿ハ其ノ使用ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 工業主職工トノ共同出資ヲ以テ共濟組合ヲ設ケタル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ規約ヲ添ヘ遲滞ナク知事ニ届出ツヘシ

規約ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十二條 工場管理人選任ノ認可申請書ニハ工事管理人タルヘキ者ノ履歷書ノ外工業主ト連署シタル選任契約書ノ謄本ヲ添付スヘシ

選任契約書ニハ法第十八條及第十九條ニ依リ工業主ハ工場管理人ニ對シ管理ニ關スル一切ノ權限ヲ與ヘ工場管理人ハ工業主ニ代リテ工場法規ニ規定スル全般ノ責任ヲ負フコトヲ承諾スル旨ヲ明記スヘシ

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ法第十八條第一項及第二項ニ依リ工場管理人タル認可ヲ與ヘヌ又ハ其ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一 工場管理ニ實權ヲ附與セラレサルモノト認ムル者

二 未成年者及破産者、禁治産者、準禁治産者

三 懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル日ヨリ二年ヲ經過セサル者

四 工場管理人選任ノ認可ヲ取消サレタル日ヨリ二年ヲ經過セサル者

五 工場法規ニ違反シ處罰ヲ受ケタル日ヨリ一年ヲ經過セサル者

六 其ノ他工場管理人トシテ不適當ト認ムル者

第三十四條 職工及寄宿舎ニ使用スル者ニ對シテハ年四月及十月ノ兩月中ニ健康診断ヲ施行シ之ヲ第六號様式ノ健康診断票ニ登録シ其ノ都度第七號様式ニヨリ健康診断統計表ヲ作製シ翌月末日マテニ知事ニ提出スヘシ

第三十四條ノ二 法第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用ヒ織物又ハ燃絲ノ事業ヲ營ムモノニハ本則第二條乃至第四條第七條乃至第十三條第三十二條第三十三條第三十五條及第三十六條ノ規定ヲ適用ス

第三十五條 工場法規ニ依リ願届其ノ他知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

第三十六條 本則ニ依リ願届ニシテ虚偽ノ事項ヲ申請若ハ届

出タル者又ハ本則ニ依リ備付クヘキ簿冊ニ虚偽ノ事項ヲ記載シタル者ハ五拾圓未満ノ罰金ニ處ス

第三十七條 大正五年九月十日山梨縣令第二十二號工場施行細則ハ之ヲ廢止ス

第三十八條 令附則第三條第二項ニ依リ賃金支拂日ニ關シ令

第二十二條ニ異リタル慣習ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

- 一 契約ノ内容
- 二 支拂月日
- 三 従來ノ支拂方法

第三十九條 工業主ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ使用スル場合ニ於テハ遲滞ナク左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受ケヘシ

- 一 毎日ノ就業時間(何時ヨリ何時迄)
- 二 就學セシムヘキ場所ノ名稱及工場トノ距離(小學校又ハ小學校以外)
- 三 小學校以外ニ於テ就學セシムル場合ハ其ノ設備學齡兒童數、教授者ノ氏名及履歷、每週教授時數並毎日教授終始ノ時刻
- 四 其ノ他就學兒童ニ關スル事項ノ詳細

第四十條 本則中十六歳トアルハ本則施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

第十一編 警察 第六章 工場 第一款 工場法

様式第一號

負傷疾病出產死亡者名簿

氏名	別男女	生年月日	業務ノ種類	病名又ハ負傷ノ種類又ハ出產死亡ノ別	負傷疾病死亡ノ原因	發病負傷出產死亡ノ年	結治癒ノ年月日	末死亡ノ年月日	初診ノ年月日	醫師ノ氏名	備考

様式第二號

大正	年	月分	職工扶助月報	届出月日	工場ノ所在地	業主又ハ工場管理人	扶助金額	主治醫氏名	事由	由	附記

記載心得

- 職工ト遺族トノ關係ハ令第九條乃至第十二條ニ依リ記載スヘシ
- 扶助ノ種類ハ療養費、休業扶助料、障害扶助料、打切扶助料、遺族扶助料、葬祭料等ニヨリ區別記入スヘシ
但シ一人ニ對シ二種以上ノ扶助ヲナシタルトキハ各別欄ニ記入スルコト
- 事由欄ニハ扶助ヲナシタル事由ヲ詳記スヘシ
例一 療養費ニアリテハ職工カ何傷病ニ罹リタルニ付何日ヨリ何日迄ノ療養費ヲ支給ス云々
例二 休業扶助料ニアリテハ何傷病ノ爲メ勞務ニ服スルコト不能ニ因リ何日ヨリ何日迄一日ニ付賃金ノ何分ヲ支給ス云々(扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ令第十六條第十七條參照)
- 業務上ノ疾病負傷又ハ死亡ニアラスト雖扶助シタルモノハ本表ニ未記スヘシ

第十一編 警察 第六章 工場 第一款 工場法

様式第三號

扶助簿

考	備	職工ノ業務別	扶助ヲ受ケタル者ノ氏名	病名又ハ負傷ノ種類	死亡ノ種類	扶助ノ種類	扶助ノ年月日	扶助ノ金額	標準報酬日額	扶助ノ原因	關係醫師ノ氏名	別男女	
												同上ニシテ遺族ノ場	合ハ職工名竝ニ遺族ノ場

様式第四號

解雇手当支給簿

考	備	職工本籍住所	氏名男女別生年月日	解雇年月日	解雇ノ告知ヲ爲シタル年月日	解雇手当金額	標準報酬日額	解雇事由

第十一編 警察 第六章 工場 第一款 工場法

業務ノ種類	就學ノ場所	每週教授時數 每日始時刻	每週教授時數 終午後	教授者氏名		業名		業名		業名	
				考	備	考	備	考	備		
				氏名	生年月日	氏名	生年月日	氏名	生年月日	氏名	生年月日

様式第三號

就業時間延長名簿

業名	許可認可又ハ延長期間又ハ延長事由及條	工場所在地	工業主又ハ場管理人氏名	備考

工場名	職工數	疾病種類	同上月傷病者數	前月ヨリ患者繰越員數	結果	未治ノ爲メ(翌月ハ繰越)

様式第四號

職工負傷疾病者表

工場名	職工數		疾病種類	同上月傷病者數		前月ヨリ患者繰越員數	結果	未治ノ爲メ(翌月ハ繰越)
	男	女		男	女			

記載例

- (一) 當月中最モ多ク入場セシトキノ職工數ヲ計上ノコト
- (二) 當月發生數ヲ記入ノコト
- (三) 病傷名ヲ記入ノコト
- (四) 當月發生數ヲ記入ノコト
- (五) 當月分及前月分合計ノ結果ニ付キ記入ノコト

● 十名以上ノ同盟罷工報告ノ件

(明治三十六年七月十四日)
(訓示第六八號)

警察署長 (警察分署長)

爾今十名以上ノ同盟罷工起リタルトキハ左記ノ事項調査ノ上速ニ報告スヘシ

右訓示

左記

- 一 同盟罷工ノ起リタル時日
- 一 同盟罷工者ノ數並ニ同盟ニ加入セサルモノノ數
- 一 同盟罷工ノ原因及罷工者要求ノ要點
- 一 同盟罷工經過

- (イ) 運動ノ方法 雇主ニ對スルモノ
同盟罷工者以外ニ對スルモノ
- (ロ) 運動費ノ支出
- (ハ) 繼續日數及其ノ日數間ニ於ケル罷工者生計維持法
- (ニ) 協議、仲裁、其ノ他落著ニ至ル迄ノ顛末等
- 一 同盟罷工ノ結果
- 其ノ他主動者ノ重ナル者

第二款 製造所、汽

罐、汽機 及 發動機

● 諸製造所建設規則

(明治二十二年五月八日)
(縣令第三十二號)

第四節 大正七年五月縣令第三五號改正

諸製造所建設規則左ノ通相定メ即日ヨリ施行ス

但明治二十年五月縣令第四十七號同第四十九號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

諸製造所建設規則

- 第一條 職工十人以上ヲ使用スル製造所ヲ建設セントスルモノハ左ノ各項ヲ具シ所轄警察署(又ハ分署)ヘ願出許可ヲ受クヘシ其變更ヲ爲サントスルトキ亦同シ
- 一 建設地ノ郡町村名及地番
 - 二 製造品ノ種類並職工男女ノ區別及員數

第十一編 警察 第六章 工場 第二款 製造所、汽罐、汽機及發動機

三 建設地及近隣地所並建物ノ模様

四 建物ノ坪數及構造ノ模様

五 機械構造ノ模様

六 第三項以下ノ模様ヲ見得ヘキ圖面

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ建設ヲ竣リ事業ニ著手セントスルトキハ所轄警察署(又ハ分署)ヘ届出検査ヲ受クヘシ

第三條 警察署(分署)ハ既ニ許可シタル後ト雖トモ衛生上ノ障害アルカ若クハ危險ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ改造ヲ命シ且事業ヲ停止スルコトアルヘシ

第四條 製造所ヲ廢止シ又ハ賣買貸借讓與ヲ爲シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署(又ハ分署)ヘ届出ヘシ

且賣買貸借讓渡ノ届書ニハ双方ノ連署ヲ要ス

第五條 製造所ハ凡ソ左ノ各項ヲ標準トシテ建設スヘシ

- 一 但在來ノ建物ヲ充用スル場合ニ於テ標準ニ從フノ不便アルモノハ其ノ事由ヲ願書ニ詳具スヘシ
- 一 火力ヲ用ユル建物ハ他ノ建物及隣地境界ヨリ六尺以上ノ距離アルヲ要ス
- 二 職業場ノ屋上ニハ地盤ノ面積凡ソ十分ノ一ニ下ラサル空氣抜キヲ設クヘシ

- 三 三十人未満ノ職工ヲ使用スル工場ニハ高テ六尺以上幅五尺以上ノ出入口ニケ所以上ヲ設ケ其ノ三十人以上ヲ増ス毎ニ同シク一ケ所ヲ増設スヘシ
- 四 工場ニハ開閉自在ナル明リ口ヲ設ケヘシ
- 五 工場ノ地盤ハ濕氣ノ侵ササル様堅緻ノ構造ヲ爲スヘシ
- 六 汽罐湯沸場其ノ他猛火ヲ發スヘキ場所ハ煉瓦石造又ハ塗込造トシ高サ三丈以上ノ烟突ヲ設ケヘシ
但人家稀疎ノ地ニ於テハ烟突ノ高サ此限ニアラス
- 七 工場ノ厠ハ井戸飲用水路等へ接近スヘカラス其ノ糞尿池ハ漏泄透過ノ憂ナキ様構造スヘシ
- 八 工場ノ下水溝ハ堅實ノ材料ヲ以テ底面及周圍ヲ築造スヘシ

第六條 本則第一條第二條第四條第五條ニ違背シ又ハ第三條ノ命令ニ從ハサルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●學校幼稚園ト附近工場等ノ距離ニ關スル件

(明治四十年二月十九日)
縣令第十三號

明治三十四年十一月十一日縣令第六十一號左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ施行ス

學校幼稚園ヲ距ルコト直徑百二十間以内ノ地ニ於テ有毒ナル瓦斯、煤煙、塵埃等ヲ發生スル工場若クハ喧噪ナル工場又ハ劇場、寄席其ノ他興業場ヲ設クルコトヲ得ス但土地ノ狀況ニヨリ衛生及風紀上支障ナシト認ムルトキハ之ヲ斟酌スルコトアルヘシ
既設ノ工場又ハ劇場、寄席等ニシテ本令ニ適合セサルモノハ將來新築又ハ改築ヲ要スルニ至ルマテノ間之ヲ存置スルコトヲ得
本令ニ違背スルモノハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●諸製造所建設出願ノ際實地調査ノ件

(明治三十年六月)
示令第四六號

左ニ列記スル製造所ノ願出アリタルトキハ實地調査ヲ送ケ場所ノ圖面ヲ添ヘ意見ヲ具シテ稟議セラルヘシ

- | | |
|------------------|-------------|
| 一 製絲場 | 一 獸類脂肪筋 化製所 |
| 一 機織所 | 一 肥料製造所 |
| 一 紡織所 | 一 陶器製造所 |
| 一 紙漉所 | 一 煉化瓦類製造所 |
| 其ノ他汽機汽罐ヲ備ヘタル諸製造所 | 一 諸鑄造所 |
| 一 玻璃製造所 | 一 石灰製造所 |
| 一 マツチ製造所 | 一 煙草莖灰製造所 |
| 一 石膏石灰製造所 | 一 繪具製造所 |
| 一 産襪精化所 | 一 澱粉製造所 |
| 一 石鹼製造所 | 一 ペンキ製造所 |
| 一 蝸油製造所 | |
| 一 セメント製造所 | |

●諸製造所建設出願書ニ添附スル圖面作製ニ關スル件

(明治四十年六月八日)
梨保發第七七號依命通牒

明治三十年六月示令第四六號ニ依リ稟議スヘキ諸製造所建設願書ニ添附スル圖面ハ爾今左記標準ニ依リ作製添附セシメ御精査ノ上稟議相成度依命此段及通牒候也

左記

- 一 工場建設地盤ヨリ其ノ四隣人家其ノ他ノ模様若シ著シク高低ノ差アルモノハ其ノ高低ヲ知ルニ足ルヘキ模様及本年縣令第十三號中學校幼稚園ノ距離ヲ知ルニ足ルヘキモノヲ第一圖トシ建物構造ノ模様ヲ知ルヘキモノヲ第二圖トシ必要ニ應シテ第三圖又ハ第四圖等トシテ側面圖ヲ添附スルコト
- 一 一部ノ改築増築等ニシテ最初許可ヲ得タル地盤内ニ築造スル簡易ノ設計ニ付テハ第一圖ヲ添附スルニ及ハスト雖モ汽罐ヲ使用スル工場ニ在ツテハ必ス汽罐室トノ距離ヲ明記スルヲ要ス
- 一 出入口ニシテ非常用ノモノハ凡テ外開戸トナシ其ノ位置

●汽罐汽機取締規則

(明治三十八年六月十三日) 縣令第二十七號

明治四十二年二月縣令第一九號、四五年五月同第一號、大正一四年一月同第二號改正

汽罐汽機取締規則左ノ通り改正ス

汽罐汽機取締規則

第一條 汽罐汽機ヲ設置セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ改造變更若クハ修繕セントスルトキ亦同シ但後段ノ場合ニ於テハ關係アル事項ノ外記載ヲ要セス

一 敷地ノ位置

郡市町村字地番

二 敷地附近ノ略圖

敷地建造物ノ坪數及建造物相互ノ距離並ニ周圍三十間以內ニ於ケル最近建造物トノ距離尙ホ三十間以外ト雖モ御料地官公署學校社寺公園火葬庫其ノ他危險物ノ製造所貯藏所アルトキハ之等建造物トノ距離ヲ記ス

三 汽罐汽機使用ノ目的及使用時間

四 工場ヲ設ケタルモノハ其ノ名稱

五 工事落成期日

六 汽罐明細書

イ 汽罐ノ種類及個數

(コルニツシユ、ランカシヤ) 直立又ハ管成罐ノ類

ロ 汽罐ノ寸法

罐胴長徑何呎何吋 何吋何吋 何吋何吋 何吋何吋 何吋何吋 何吋何吋 何吋何吋 何吋何吋 何吋何吋 何吋何吋

ハ 罐板ノ種類及厚サ

並鐵何吋何吋又ハ鋼鐵等ノ類 罐胴厚サ何吋 何吋何吋 何吋何吋 何吋何吋

ニ 支柱並鉄ノ種類寸法

支柱鐵質種類徑厚サ及幅 何吋何吋何吋何吋何吋何吋 種類徑何吋何吋何吋何吋何吋何吋

ホ 常用汽罐

(每平方吋) 上何封度

ヘ 安全瓣ノ種類、個數及寸法

(天秤發條等) 徑何吋何吋

ト 火床ノ面積

(長何呎幅何呎) (面積何平方呎)

チ 汽罐ノ履歷

(場名稱古罐ナルトキハ買受又ハ修繕ノ年月日所有者ノ住所氏名等)

七 汽機明細書

イ 汽管ノ種類及個數

(凝縮又ハ不凝縮横置又ハ直立單汽管又ハ複汽管等ニシテ何個)

ロ 汽管ノ寸法 徑何吋

ハ 衝程ノ寸法 長何吋

ニ 回轉數 一分間何回

ホ 實馬力 何馬力

八 燃料ノ種類

イ 煙突ノ種類及高サ

(煉瓦石造又ハ鐵板製) 高サ何呎徑何呎何吋

ロ 基礎ノ仕様

ハ 煉瓦石造ニ在テハモルタルノ調合底部頂部ノ寸法煉瓦石ノ厚サ

ニ 鐵板製ニ在テハ鐵板ノ厚サ支線ノ種類個數太サ及取附方法

第二條 汽罐汽機ヲ設置セントスル場所又ハ煙突ノ位置高サ等不適當ト認メタルトキハ適宜指示スルコトアルヘシ

第三條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者汽罐汽機ノ据付ニ著手セントスルトキ及工事落成シタルトキハ縣廳へ届出検査ヲ受クヘシ

第四條 汽罐ニハ安全瓣、檢水器、檢壓計各一個以上テストコック二個以上ヲ取附クヘシ

第五條 汽罐ノ検査ヲ了リタルトキハ検査證ヲ交付ス検査證

第十一編 警察 第六章 工場 第二款 製造所、汽罐、汽機及發動機

ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

汽罐汽機ハ検査證ニ表示スル常用汽壓ヲ超過シ使用スルコトヲ得ス

第六條 検査證ハ汽罐室ノ見易キ場所ニ掲ケヘシ

ノ三種ニ別チ定期検査ハ毎年一回以上特別検査ハ新ニ汽罐汽機ヲ設置セントスルトキ臨時検査ハ縣廳ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ行フ但臨時検査ニ於テ定期検査ノ手續ヲ行ヒタルトキハ之ヲ定期検査ニ代フルコトアルヘシ

前項ノ定期検査施行期日ハ毎年之ヲ告示ス

第七條 使用者ハ定期検査ノ通知アリタルトキハ汽罐ノ貯水ヲ排出シ罐體ヲ冷却セシメ人孔、泥孔ヲ開放シ火床、火橋、火爐ヲ取除キ罐體内外部ノ掃除ヲ爲サシメ置クヘシ

特別検査ニ在テハ汽罐ノ被覆ヲ取除カシメ又ハ罐體ヲ轉動若クハ運搬セシムルコトアルヘシ

臨時検査ニ在リテハ検査員ノ指示ニ從フヘシ

第八條 汽罐ヲ使用スル製作者、工場ノ持主又ハ其ノ代理者、會社ニ在テハ代表者及汽罐取扱主任者ハ検査及安全瓣ノ封鎖ニ立會フヘシ

第九條 汽罐検査上必要ト認ムル場合ハ水壓試験若クハ罐板

穿孔ヲ行ヒ又ハ安全瓣ノ封鎖ヲ施スコトアルヘシ安全瓣ノ封鎖ハ私ニ變更又ハ開封スルコトヲ得ス

検査ノ爲メ損失又ハ費用ヲ生シタルトキハ總テ設置者ノ負擔トス

第十條 汽罐其ノ他ニ障害ヲ生シタルトキハ其ノ事由個所ヲ詳記シ即時縣廳ニ届出検査ヲ受ケヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ更ニ検査ヲ受クルニアラサレハ汽罐ヲ使用スルコトヲ得ス

一 汽罐ヲ修繕シタルトキ
二 六ヶ月以上休業シタルトキ
三 第十六條ニ依リ改修ヲ命セラレ修理シタルトキ

第十二條 汽罐汽機使用者ハ主任者ヲ定メ之カ取扱ヲ爲サシムヘシ

前項ノ取扱主任者不適當ト認ムルトキハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 燃料ヲ變更シ又ハ使用器械ヲ増減シタルトキハ五日以内ニ縣廳ニ届出ヘシ

第十四條 検査證ヲ毀損亡失シ又ハ検査證面ニ異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ縣廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第十五條 第一條ニ依リ設置シタル汽罐汽機ヲ買受讓受若クハ相續ニ依リ之ヲ使用セントスル者ハ検査證ヲ添ヘ七日以内ニ縣廳ニ届出ヘシ其使用ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第十六條 汽罐ニ毀損ヲ生シ若クハ其他ノ施設ニシテ公安上障害ノ虞アリト認ムルトキハ改修撤去若クハ使用ノ停止禁止ヲ命スルコトアルヘシ

第十七條 正當ノ事由ナクシテ左ノ各號ノ一ニ觸ルモノハ許可ノ失効ヲ命スルコトアルヘシ

一 許可ヲ受ケタル日ヨリ二ヶ月以内ニ建設ニ著手セサルトキ
二 落成期日ニ落成セサルトキ
三 燒失若クハ崩壞等ノ後六ヶ月以内ニ再築ヲ願出サルトキ

四 休業一ケ年以上ニ及ヒタルトキ

第十八條 第一條、第三條、第四條、第五條、第七條第一項及第三項、第八條、第九條第一項、第十一條、第十二條、第十三條第一項、第十四條乃至第十五條ニ違背シ又ハ第十六條ニ依リ使用ノ禁止命令ニ背キタルモノハ三十日未満ノ拘留又ハ二十圓未満ノ料料ニ處ス

附則

前項ノ調査ニ依リ危險切迫ノ虞アルモノト認ムルトキハ一時使用ヲ停止シ其旨急報スヘシ
第四條 警察官署ハ規則第十六條第十七條ニ該當スルモノアリト認ムルトキハ速ニ其旨ヲ報告スヘシ
第五條 (削除)
第六條 検査員汽罐汽機ノ検査ヲ爲シ合格ト認ムルトキハ検査證ニ検査ノ年月日ヲ記入シ認印スヘシ
第七條 汽罐汽機ノ検査證ハ第一號様式ニ依ル但汽罐ノミノ使用者ニ對シテハ關係ナキ文字ニ消抹線ヲ施シ検査員之ニ認印シ交付スヘシ
第八條 (第四部)保安課ハ第二號及第三號ノ臺帳警察署ハ第四號ノ臺帳ヲ設ケ所定ノ記入ヲ爲スヘシ
第九條 汽罐汽機ノ検査成績ハ検査員ニ於テ速ニ復命スヘシ
第十條 警察官署ハ毎月二回以上汽罐汽機ノ設置場所ニ臨檢シ異狀ヲ認メタルトキハ速ニ其狀況ヲ報告スヘシ

第十九條 本則ニ依ル願届ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
第二十條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●汽罐汽機取締規則施行心得

(明治三十八年六月二十九日)
訓令甲第三十五號

明治四五年五月訓令甲第一六號、大正一四年九月第一五號改正

警察部 警察署
(警察分署)

汽罐汽機取締規則施行心得

汽罐汽機取締規則施行心得

第一條 警察官署ニ於テ規則第一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ場所ノ適否及同條規定ノ事項ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ

第二條 警察官署ニ於テハ検査員ノ汽罐汽機検査ニ警察官吏ヲ立會ハシムヘシ

第三條 警察官署ニ於テ規則第十條ニ依ル届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ進達スヘシ

第十一編 警察 第六章 工場 第二款 製造所、汽罐、汽機及發動機

五六三

九、製造所名及其ノ年月日並履歴

附則

第三條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本令施行以前ノ設置ニ係ル瓦斯、石油發動機及電動機ハ本令發布ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ届出ヘシ

●發動機設置願調査方ノ件

(明治四十三年六月十六日)
(梨警發第一四二號通牒)

(警務長)

發動機取締規則ニ依リ發動機設置願及届ヲ受理シタルトキハ汽罐汽機取締規則第一條第一號乃至第五號並發動機取締規則第二條各號ノ事項ヲ具備セルヤ否ヤ及設置場所ノ適否ヲ調査シ意見ヲ付シ進達スヘシ
右通達ス

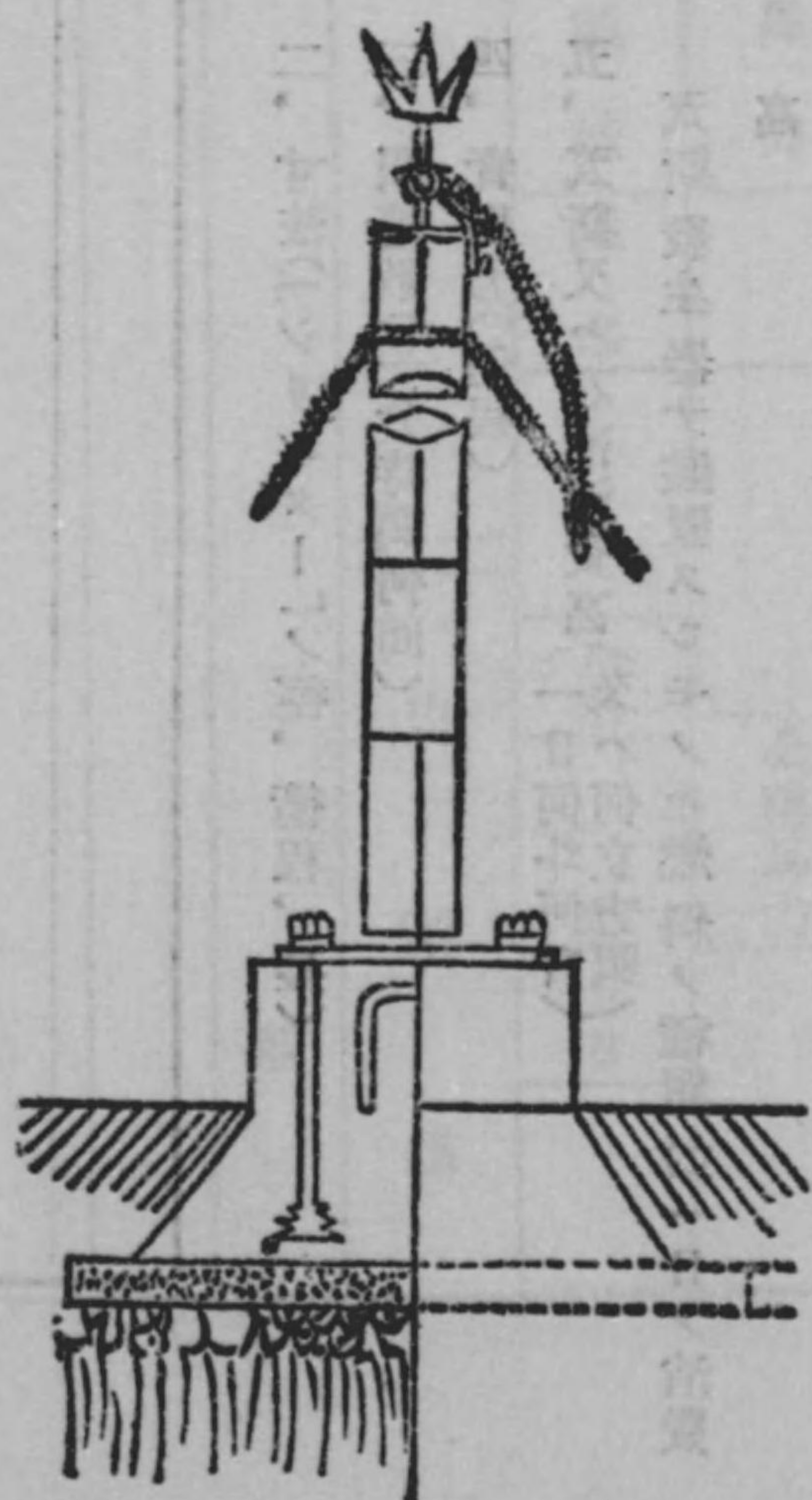
●煙突設計圖面添付方ノ件

(明治四十四年九月七日)
(指示梨警發第一七六號)

警察部長ヨリ各警察署長(分署長)

從來汽罐使用ノ工場若ハ新設工場ニ於テ出願ノ煙突設計圖面

ヲ見ルニ何レモ粗略ニシテ審査上支障不熟就テハ別紙設計圖面壹葉參考トシテ及送付候條自今之レニ準シ設計圖ヲ作製シ願書ニ添付セシムル様取計フヘシ
右指示ス



第三款 労働者募集

●労働者募集取締令施行規則

(大正十四年二月二十六日)
(縣令第七號)

労働者取締令施行規則左ノ通定ム

労働者募集取締令施行規則

第一條 労働者募集取締令(以下單ニ取締令ト稱ス)第三條ニ依リ當廳ニ届出ツヘキ書類ハ正副ニ通テ提出スヘシ

第二條 取締令第三條第一項及第二項ノ届出ハ募集開始五日以前ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 取締令第四條及第五條ニ依ル申請書ニ添付スヘキ寫眞ハ名刺型、半身、正面、脱帽、無蓋紙ニシテ三箇月以内ニ撮影シタルモノニ限ルモノトス

第四條 取締令第四條ニ依リ許可ヲ受ケタル募集従事者其ノ本籍住所職業ヲ變更シタルトキハ二日以内ニ之ヲ届出ツヘシ

第五條 取締令第三條第三項第五條第三項及第九條第二項ノ届出ノ期間ハ二日以内第七條及第八條ノ届出期間ハ五日以

第十一編 警察 第六章 工場 第三款 労働者募集

内トス

第六條 取締令第九條ニ依ル募集者手届ニ添付スヘキ就業案内、雇傭契約書案其ノ他ノ文書ハ取締令第三條ノ届出ト相違ナキ旨届出官廳ノ封印アルモノニ限ルモノトス

第七條 取締令第九條第一項第二號ノ事務所ヲ設ケタルトキハ門戸見易キ場所ニ別記様式ノ表札ヲ掲出スヘシ
居所ヲ設ケタル場合ニ於テハ前項ニ準シ表札ヲ掲出スヘシ

第八條 取締令第十八條第二項ニ依リ停止命令ヲ受ケタルトキハ直ニ募集従事者證ヲ募集地所轄警察官署ニ提出シ其ノ旨記入ヲ受ケヘシ

第九條 取締令及ハ本則ニ依リ當廳ニ提出スヘキ願届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十條 第四條第七條及第八條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本則ハ大正十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 出火ノ檢證ハ主トシテ警察官吏ニ於テ之ヲ行フコト
但其軍衛兵營ニ係ルモノハ憲兵主トシテ之ニ任ス
第十條 憲兵隊ヨリ行旅死者、病者其他救護ヲ要スト認ムヘ
キモノヲ引渡サレタルトキハ便宜之ヲ受ケ相當ノ取扱ヲ爲
スコト

第十一條 憲兵隊ヨリ遺失物、埋藏物、拾得物若クハ盜難ニ
關スル書類物件ヲ移送シ來リタルトキハ之ヲ受ケ相當ノ取
扱ヲ爲スコト

第十二條 憲兵隊ヨリ警察取締ニ屬スル諸營業ニ關シ取調方
其他照會囑託ヲ受ケタルトキハ之ニ應スルコト

第十三條 傳染病流行シ若クハ流行ノ兆アルトキハ便宜憲兵
隊ニ通報スルコト

第十四條 前各條ニ記載ナキ事項ニ付テハ臨時互ニ協商シテ
相當ノ取扱ヲ爲スコト

盜難届出方

(明治二十二年十月十二日)
縣令第七十四號

自今盜難ニ罹リ候者ハ其年月日時及被盜品ノ種類員數並見積
代價等書面又ハ口頭ヲ以テ迅速最寄警察署(分署)巡查駐在所

第二款 科 料

●非訟事件手續法ニ依ル過料事件

通知方ノ件

(明治四十五年五月二十日)
梨警發第九一號通達

警察 署 長 (分 署 長)

非訟事件手續法第二百六條ニ依リ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘ
キ過料事件通知方ニ關シ別紙寫ノ通り司法大臣ヨリ照會アリ
タル趣ヲ以テ内務省警保局長ヨリ通牒アリタルニ付該過料事
件アルコトヲ認知シタルトキハ通知方相當措置スヘシ
右通達ス

(別紙)

警保局長通牒山梨縣知事宛内務省警第二一八三號ノ内(明治
四十五年五月十四日)

非訟事件手續法二百六條ニ依リ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ
過料事件通知方ニ關シ別紙寫ノ通り司法大臣ヨリ照會有之候
條相當御措置相成度依命此段及通牒候也
(別紙)

若クハ巡行ノ警察官吏ハ届出ヘシ

但書面ハ郵送スルモ妨ケナシ

●在郷軍人ノ犯罪事實發覺ノ節通

報方

(明治四十五年二月)
梨警收第三五〇號ノ一通達

在郷將校以下監督指導上必要アル旨ヲ以テ聯隊區司令官ヨリ
依頼アリタルニ付在郷軍人ノ犯罪事實發覺(微罪解放ヲ含ム)
シタルトキハ捜査上差支ナキ限り左ノ事項ヲ甲府聯隊區司令
官ニ通報スヘシ
右通達ス

- 一、本人ノ現住所、徵集年、役種、官等、氏名
- 二、犯罪ノ種類其概況

司法大臣照會内務大臣宛司法省事第五八五號(明治四十五年
五月二日)

從來民事及商事ノ非訟事件ニ關シ過料ニ處スヘキ事件續發シ
ツツアルヘシト信スヘキ理由アルニ關セ裁判所ニ請求若ハ
通知ヲ爲サザルカ爲實際適當ノ處理ヲ施スニ由テク遺憾ナカ
ラ此種規定ヲ空文死法トシテ埋了シ來リタル現況ニシテ斯ノ
如キハ過料規定ヲ設ケタル本旨ヲ全然没却スルハ勿論延テ一
般法規ノ威信ヲ減損スルノ傾向隨伴スルノ虞ナキニアラス就
テハ將來貴省及貴省所管ノ官廳ニ於テ官吏力其ノ職務上民事
及商事ノ非訟事件ニ關シ非訟事件手續法第二百六條ノ規定ニ
依リテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ過料事件アルコトヲ認知
シタルトキハ其ノ都度管轄地方裁判所長ヘ通知セシメラレ候
様御取計相成度右ハ全國地方裁判所長ノ建議ノ次第モ有之候
ニ付此段及照會候也
追テ通知ニ依リ過料事件ヲ認知シタルバトテ固ヨリ必罰主義
ヲ主張セントスルニハアラス諸多ノ關係ヲ商量斟酌シ取捨加
減實際ノ必要ニ適應スルノ處分ヲ爲スヘキ趣旨ニ有之候爲念
此段申添候也

（大正十四年十二月一日）
 訓令乙第二四〇號

警察 署（警察分署）

検視規程左ノ通り相定ム

明治三十三年六月十五日訓第七十五號検視規程ハ之ヲ廢止ス

● 蘇 俄 兵 入 料
 ● 非 協 定 半 導 考 二 對 小 國 採 事 件

第二編 採 採

（大正十四年十二月一日）
 訓令乙第二四〇號

警察 署（警察分署）

検視規程左ノ通り相定ム

明治三十三年六月十五日訓第七十五號検視規程ハ之ヲ廢止ス

第三款 検 視

● 檢 視 規 程

（大正十四年十二月一日）
 訓令乙第二四〇號

警 察 署（警察分署）

第一條 變死者ノ檢視ハ別ニ規定アルモノノ外本規程ニ依リ取扱フヘシ

第二條 檢視ハ警察署長警察分署長之ヲ行フヘシ但己ムヲ得サル場合ハ所屬署員ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第三條 檢視ヲ行フトキハ可成親族又ハ關係人ヲシテ立會ハシムヘシ

第四條 犯罪ニ基因シ又ハ犯罪ニ基因スルノ疑アル變死者アルトキハ其旨警察部長ニ即報シ同時ニ所轄檢事ニ報告シ檢視ニ關シテ指揮ヲ請フヘシ

第五條 檢視ニ際シ必要アリト認ムルトキハ醫師ヲシテ死體ヲ檢案セシメ檢案書ヲ徴シ檢視調書ニ添付スヘシ

第六條 變死者ニシテ本籍氏名分明ナラサルトキハ寫眞ヲ撮影シ速カニ身元調ノ手配ヲ爲スヘシ

第七條 劇毒物又ハ火藥類等ニ因リ變死シタルモノニ對シテハ其ノ使用物ノ出所及使用ノ方法ヲ明カナラシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ家族又ハ關係人ヨリ始末書又ハ聽取書ヲ徴シ檢視調書ニ添付スヘシ

第八條 死亡届出義務者ヨリ檢視調書謄本ノ請求アリタルトキハ之ヲ交付スヘシ但死因ニ關シ取調ノ必要アル場合ニ於テハ捜査上秘密ニ屬スル事項ハ之ヲ削除スヘシ

第九條 引取義務者ヲキ死體ヲ市町村長ニ引渡シタルトキハ其遺留品モ共ニ交付シ受領證ヲ徴スヘシ

第十條 檢視了了リタル時ハ附録第一號式ニ依リ警察部長ニ電話即報シ且ツ第二號様式ニ依リ檢視調書ヲ作成スヘシ但第六條ニ該當スル場合ニ在リテハ即報後附録第三號様式ニ依リ警察部長ニ報告スヘシ

第十一條 變傷事件ニシテ其ノ原因犯罪ニ關係シ且ツ死ニ致ルノ虞アリト認ムル傷者ニ對シテハ檢視ヲ行フヘシ

前項ノ檢視ニ關シテハ本規程ヲ準用ス

右檢視了了此ノ調書ヲ作ルモノナリ

於何所

何警察(分)署

官氏

名

附錄第三號樣式

身元不詳變死人報告

月 日

警察(分)署

變死者ノ相貌著衣ノ

詳細

遺留品ノ品實模範及

其措置

變死月日

變死場所

檢視官ノ氏名

參考事項

右及報告候也

第四款 雜

●不良少女取締ニ關スル件

(大正十五年七月十七日)
刑親發第二十四號

警察學務兩部長ヨリ縣下各中等學校長各小學校長宛

不肖少女ハ都鄙共ニ逐年其數ヲ増加スルノミナラズ近時益々惡化ノ傾向ヲ示シ強竊盜詐欺恐喝傷害等各種ノ犯罪ヲ敢行シ而モ其方法手段頗ル巧妙ヲ極メ識者ヲシテ聳蹙セシムルモノアルハ社會政策上誠ニ遺憾トスル所ニ有之警察當局ニ於テモ相當之レカ指導矯正ニ留意スル所ナルモ今尙ホ隔靴搔痒ノ感ナキ能ハス元來之レカ感化矯正ニ就テハ學校ト警察トハ恰モ唇齒輔車ノ關係ヲ有シ學校當局ノ努力ニ俟ツモノ尠カラス依テ兩者相呼應シ協調的態度ヲ以テ之レニ臨マバ其效果一層大ナルモノアリト思料候條常ニ各地方警察當局ト聯絡ヲ保チ相提携共助シ以テ不肖少女ノ取締リニ努メラレ度此段及通牒候也

及此等時
 其時對其共以不其手文之...
 額大...
 八...
 九...
 十...
 十一...
 十二...
 十三...
 十四...
 十五...
 十六...
 十七...
 十八...
 十九...
 二十...

第四章 雜

●不貞心平心文... 二關スル...

第八章 衛生

第一款 通則

●行幸啓ニ關スル衛生上注意事項

(大正元年十月二十九日) (新第二二二七號)

警察部長ヨリ各警察署長(分署長)

- 一 御昇降驛、行在所、御駐泊所、御小憩所及其ノ附近ニ對シ豫メ臨時清潔方法ヲ施行セシメ御通過沿道ハ清掃セシムルコト
- 二 御昇降驛、行在所、御駐泊所及御小憩所附近ニ對シ一週日前ヨリ時々檢病的戸口調査ヲ行フコト
- 三 行在所、御駐泊所、御小憩所々在地及御通過沿道ニ於テハ交通遮斷若ハ隔離ヲ施行セサル傳染病患者又麻疹、流行性感冒及流行性腦脊髄膜炎患者アル家ニ對シテハ當該吏員ヲシテ豫防措置ヲ指導監督スルコト
- 四 行在所、御駐泊所、御小憩所ノ消毒ヲ宮内官ヨリ依托セラレタルトキハ可成アルコホル、加熱加里石鹼水又ハ同

第十一編 警察 第八章 衛生 第一款 通則

- 五 綠石鹼水ノ類ヲ以テ拭淨シ若シ「フオルムアルデヒド」消毒ヲ必要トスルニ當テハ可成一週日前ニ行フコト
- 六 行在所及御駐泊所ニ出入スルモノニ對シテハ宮内傳染病豫防令及同施行規則ヲ遵守セシムルコト
- 七 御料水ヲ宮内官ニ於テ撰定シ設備方ヲ依托セラレタルトキハ「ポンプ」裝置トスルヲ可トス但シ其ノ設備ナキトキハ車釣瓶ニシテ繩ハ鐵鎖トナスコト
- 八 御料水、御料牛乳及御料食品ノ取扱人及其ノ家人ニ對シテハ健康診斷ヲ施行シ當該地方ノ病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ細菌検査ヲ行フコト
- 九 宮廷列車内又ハ御小憩所等ニ於テ供奉諸員ニ賜ハルヘキ飲食品ノ調達方ヲ依托セラレタルトキハ調理人及其ノ家人ノ健康狀態ニ注意シ且ツ原料品ノ精撰容器ノ清潔ニ注意セシムルコト
- 十 獻納豫定品ノ製作ニ從事スル者ニ就テハ豫メ其ノ健康狀態ニ注意シ又獻納品ノ消毒等ニ關シテハ主任宮内官ニ協議スルコト
- 十一 供奉諸員ノ旅館ニ對シテハ豫メ其ノ家人及使用人ノ健康狀態ニ注意シ特ニ庖廚、浴室、便所等ノ清潔保持ニ注意スルコト

六五二

- 十一 供奉諸員ノ旅館ノ水質不良ナル家ニ對シテハ他ノ其水ヲ代用セシメ必要ト認ムルトキハ煮沸水ヲ使用セシムルコト
- 十二 行在所、御駐泊所、御小憩所ノ用務ニ従事スル職工人夫ノ類及供奉員用ノ車夫ニ付テハ豫メ健康状態ヲ検査シ傳染病其ノ他ノ疾病ノ有無ニ注意スルコト
- 十三 行幸啓地ノ當該地方廳ニ於テハ少クモ東京御發一週日前ヨリ關係アル郡市區ノ傳染病及麻疹流行性感冒流行性腸脊髄膜炎ノ日報ヲ當該地御發ノ當日迄行幸啓ニ關シテハ行幸主務官、行啓ニ關シテハ行啓主務官及内務省ニ報告スルコト

保健調査職員職務規程

(大正八年五月一日訓令甲第十一號)

内務部 警察部 町村役場

- 保健調査職員職務規程左ノ通相定ム
- 保健調査職員職務規程
- 第一條 保健衛生ニ關スル事項ヲ調査スル爲警察部ニ左ノ職

模範衛生市町村設置獎勵規程

(昭和二年十一月七日縣令第六十號)

模範衛生市町村設置獎勵規程左ノ通定ム

- 第一條 模範衛生市町村ヲ設置セシムル爲本規程ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ハ市、町、村又ハ衛生組合ニ於テ左記各號ノ一ニ該當スル事業ヲ實行シ其ノ成績優良ト認ムルモノニ對シ事業費精算額三分ノ一以内ノ額ヲ交付ス但シ精算額過當ト認ムルモノハ之ヲ査定シ精算額ヲ定ム
- 一 窒拱斯ノ根絶
- 二 結核及「トラホーム」ノ豫防及治療
- 三 寄生虫ノ驅除
- 四 便所ノ改善
- 五 蠅及蚊ノ驅除
- 六 清潔ノ保持
- 七 母性及乳幼ノ保護
- 第三條 第二條ノ事業ヲ爲サントスル團體ハ事業開始前左記
- 第十一編 警察 第八章 衛生 第一款 通則

員ヲ置ク

- 委員長 一名
- 委員 若干名
- 書記 若干名
- 第二條 委員長ハ警察部長幹事ハ衛生課長ヲ以テ之ニ充ツル委員及書記ハ警察部員又ハ其ノ他ノ者ニツキ知事之ヲ命シ又ハ囑託ス
- 第三條 委員長ハ事務ヲ統理ス
- 第四條 委員長ハ必要ニ應シ委員會ノ開會ヲ命スルコトアル
- 第五條 委員長必要ト認ムルトキハ委員外ノ職員ニ對シ委員會ニ參與ヲ求ムルコトヲ得
- 第六條 職員出張ノ場合ニ於ケル旅費ハ官公職ニアルモノハ其旅費規程ニ依リ相當額ヲ支給シ其ノ他ノ者ニ對シテハ相當手當ヲ支給ス

書類ヲ添ヘ知事ニ届出ツヘシ

- 一 事業ノ種類及計劃
- 一 團體ノ名稱及代表者氏名
- 一 經費豫算書
- 一 決議書或ハ規約書
- 一 其ノ他必要ノ書類
- 第四條 市、町、村及衛生組合ニ於テ第二條ノ事業實行上必要アル場合ハ其ノ事由ヲ具シ衛生技術員ノ派遣ヲ知事ニ申請スルコトヲ得
- 第五條 第二條ノ事業施行團體ニ對シテハ必要ニ應シ其ノ内容ヲ調査シ又ハ經過ノ報告ヲ徴スルモノトス
- 第六條 本規程ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ
- 第七條 警察署長前條ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ内容ヲ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ
- 附則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●衛生上取締ヲ要スル諸營業者ノ

設備事項標準

(明治三十五年六月二日)
訓示第六三號

警察署長(分署長)

衛生上取締ヲ要スル諸營業者ノ業務上ニ於ケル衛生的設備ハ各署ノ注意ニ依リ稍改善ノ域ニ赴ケルモノナキニアラスト雖トモ概シテ等閑ニ付セラレ居ルモノノ如シ疾病ヲ既發ニ防壓セシヨリハ未發ニ之カ原因ヲ除去スルヲ以テ衛生警察ノ要義トセサルヘカラサルハ言ヲ待タス苟モ疾病ノ原因ニシテ衛生上設備ノ不完全ニ基スルカ如キアラハ速ニ其改善ヲ促シ以テ傳染病其他ノ疾病ノ誘發ヲ防止シ公衆ノ健康ヲ保持セサルヘカラサル義ニ付此際左ニ列記シタル標準ニヨリ各營業者ノ注意ヲ喚起シ設備ヲ完成セシメ豫メ其危害ヲ除去スルコトニ勉ムヘシ

右訓示ス

設備事項標準
宿屋貸座敷營業者ニ對シテハ左記各項ノ全部料理店飲食店貸席待合茶屋業者ニ對シテハ左記第一乃至第三號第八乃至第十六號浴場ニ對シテハ左記第一乃至第三號菓子其他ノ飲食物製

造所ニ對シテハ左記第一第九第十第十二乃至第十四號

- 一 室内ヲ清潔ナラシメ日光ノ射入ヲ充分ニシ空氣ノ交換ヲ適度ナラシムルコト
- 二 井戸端流シ場浴場下水雨落等ハ清潔ニシテ疏通ヲ可頁ナラシムルコト
- 三 大小便所ハ糞尿ノ充溢セサル様時々汲取リ踏板踏石等ハ不潔ナラサル様時々掃除シ其破損シタルモノハ直ニ改修セシメ且消毒藥若クハ防臭藥ヲ撒布セシメ且ツ便所ノ手洗水及手拭ニシテ客用ニ供スルモノハ常ニ清潔ヲ保タシムルコト
- 四 洗面所ハ常ニ清潔ニシテ洗面器ハ可成金屬製又ハ陶磁器ヲ用キ時々研磨シ含嗽水ハ必ス飲用水(可成煮沸水)ヲ用ユルコト
- 五 敷蒲團ハ白色ノ敷布ヲ以テ被ヒ著蒲團ニハ白色ニテ廣キ襟ヲ附シ枕ハ白布ヲ以テ覆ヒ是等ノ白布ハ少ナクモ每週一回取替洗濯セシムルコト
- 六 夜具及敷物ノ類ハ時々日光ニ曝シ乾燥セシムルコト
- 七 寢衣又ハ浴衣ハ清潔ナルモノヲ用ヒ時々洗濯セシムルコト
- 八 生ニシテ食スヘキモノ(例ヘハ刺身漬物ノ類)ヲ洗フニハ

飲用水(可成煮沸水)ヲ用キシムルコト

九 飲用水ハ可成化學的分析試驗ヲ經テ飲用ニ堪ユルモノヲ用キシムルコト

所轄警察官署ハ警察官吏ヲシテ立會採酌セシメ封印ノ上營業者ノ費用ヲ以テ送付スルトキハ検査料ヲ要セス其成績ヲ通知スヘシ

十 飲食物器具ハ明治三十三年內務省令第五拾號飲食用器具取締規則第二條乃至第五條ニ違背シテ製造又ハ修繕シタルモノ及第七條ニ該當スルモノヲ使用セサル様常ニ注意シ且ツ飲食物器具ハ使用ノ都度煮沸シ又ハ沸湯ヲ以テ洗滌スルコト

十一 箸ハ可成着色セサルモノヲ用キ(可成割箸)食事ノ都度交換スルコト

十二 飲食物調製用ニ供スル布巾ハ清潔ナル白布ノモノヲ用キ時々洗濯スルコト

十三 調製シタル飲食物及飲食器具ハ常ニ塵埃又ハ昆蟲類ノ付著セサル様蓋ヲ設ケ又ハ蠅張中ニ格納スヘシ

十四 料理人給仕人其他ノ雇人ハ身體衣類ヲ清潔ニ爲シテ結核、癩病、黴毒、疥癬、其他ノ傳染性疾病ニ罹リタル者ヲ使用セサルコト

十五 前項ノ疾病ニ罹リタル客ノ使用シタル衣類臥具其食器ハ他客ノ分ト混セサラシメ直チニ消毒スルコト

十六 前項衣類臥具ハ二十倍石炭酸水ニ十二時間以上浸漬スルカ又ハ煮沸若クハ汽熱消毒ヲ爲シ食器ハ煮沸又ハ汽熱消毒ヲ爲スコト

一、醫師法施行規則第七條ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ具備ス
一 原籍族稱住所氏名生年月日
一 前住居地
一 免狀寫
一 官公署及官公立ノ病院ニ奉職スル者ハ其奉職官公署病院名

第二款 醫師、齒科醫師及藥劑師

師

●醫師法施行細則

(明治四十年一月二十六日)
縣令第四號

附首 大正一五年六月縣令第六五號改正

醫師法施行細則左ノ通定ム

醫師法施行細則

第一條 醫師法施行規則第七條ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ具備ス

- 一 原籍族稱住所氏名生年月日
- 一 前住居地
- 一 免狀寫
- 一 官公署及官公立ノ病院ニ奉職スル者ハ其奉職官公署病院名

第二條 醫師法施行規則ニ據リ當廳ヲ經テ內務大臣ニ提出ス
ヘキ書類ニハ別ニ甲號書式ノ進達願ヲ添附スヘシ
第三條 醫師法施行規則ニ據リ提出スヘキ書類ハ總テ市町村長ヲ經由スヘシ
附則
第四條 明治三十四年九縣令第三十九號醫師藥劑師獸醫贈職工開業及出張所設置並其他異動届出規則中醫師ニ關スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
甲號書式
進達願
原籍族稱住所
氏名
右ハ別紙何々(內務大臣ニ提出スヘキ書類ノ名稱ヲ記ス)願屆書其筋ヘ御進達相成度此段奉願候也
年月日
知事宛
氏名

●醫師法施行細則ニ關スル書類取扱手續

(明治四十二年三月八日)
(訓令甲第十一號)

大正一五年七月訓令甲第八七號改正

(郡 役 所) 市 役 所

町 村 役 場

醫師法施行細則ニ關スル書類取扱手續左ノ通り定ム

醫師法施行細則ニ關スル書類取扱手續

第一條 醫師法施行規則第一條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ各號具備ノ上進達スヘシ

一 醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格ハ事實相違ナキヤ否ヤ之レヲ證スヘキ本證書ト對照シ其正當ナルコトヲ認定シタルトキハ申請書ノ餘白ニ資格取得ノ年月日ヲ記入シ且資格證書檢閱済ノ旨ヲ記シ主任者捺印スルコト

二 醫師法第二條第三條ニ該當スル者ナルトキハ該當事項ニ關スル調査書ヲ添付スルコト

第二條 醫師法施行規則第三條第一項ノ申請書ニハ戶籍抄本ヲ添付セシメ同條第二項ノ申請ニ付テハ其變更ニ對スル新

資格證書ト申請書トヲ對照シ第一條第一號ニ準シ取扱フヘシ

第三條 醫師法施行規則第一條第三條第四條ノ申請書ニハ同則第五條規定ノ收入印紙ヲ貼用シタルモノニアラサレハ進達スヘカラス

第四條 醫師法施行細則第一條醫師法施行規則第八條ノ屆書ヲ受理シタルトキハ記載事項相違ノ有無ヲ精査シ他管下ヨリ新ニ轉住シ來リ若クハ他府縣ト居住者ニシテ縣内ニ診察所又ハ治療所ヲ設クル者ニ付テハ免狀寫ト本免狀トヲ照査シ相違ナキコトヲ確認シタル上本證書ト對照調査済ノ旨ヲ記載シ主任捺印ノ上進達スヘシ

第五條 醫師法施行規則第十二條第十三條ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ同則處定ノ期間内ニ規定ノ手續ヲ履行セシムルコトニカムヘシ

第六條 本手續ニ依ル書類ヲ受理シタルトキハ適宜ノ簿冊ニ其異動ノ要領ヲ記シ動態調査ノ資料ニ供スヘシ

第七條 齒科醫師ノ申請書並ニ願屆ニ關スル書類ハ總テ前手續ニ準シ取扱フヘシ

●醫師會令施行細則

(大正八年十二月八日)
(縣令第四十九號)

大正一五年六月縣令第六七號改正

醫師會令施行細則左ノ通定ム

醫師會令施行細則

第一條 郡市醫師會又ハ縣醫師會ノ設立認可申請書ニハ會則案ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一、設立總會ノ會議錄謄本

二、會員又ハ委員全部ノ住所氏名ヲ記載シタル書類

第二條 醫師會ハ其ノ設立後五日以内ニ事務所ノ位置ヲ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタル場合亦同シ

第三條 醫師會ハ總會ヲ開會セムトスルトキハ開會七日前ニ其ノ日時場所及議案ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

臨時總會又ハ議案ニシテ前項ノ期間内ニ届出ツルコト能ハサル場合ハ其ノ決定ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第四條 醫師會令第十一條ノ規定ニ依ル會則變更ノ認可申請ニハ會議錄ノ謄本ヲ添付スヘシ

第五條 醫師會ニ於テ其ノ財産又ハ營造物ノ處分ヲ爲サムトスル場合ハ其ノ決議錄ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 醫師會ニ於テ藥價、診察料、檢案料、手術料其ノ他業務上ノ報酬ニ關スル事項ヲ決議シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第七條 醫師會令第十三條ノ規定ニ依リ縣醫師會議員及豫備議員ヲ選舉シタルトキハ速ニ其ノ氏名ヲ知事ニ届出ツヘシ異同ヲ生シタルトキ亦同シ

第八條 醫師會令第二十二條ノ規定ニ依リ懲戒ノ議決ヲ爲シタルトキハ五日以内ニ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

一、被處分者ノ住所氏名

一、懲戒ノ種別

一、過怠金額又ハ停止期間

第九條 醫師會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

第十條 醫師會令第二十六條ノ規定ニ依リ届出ツヘキ豫算ハ第一號、第二號様式ニ依リ議決後十日以内ニ決算ハ第三號、第四號様式ニ依リ認定後十日以内ニ會務ノ狀況ハ四月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第十一條 醫師會ハ醫師會令又ハ本則ニ依リ認可申請若ハ届出ヲ要スルモノヲ除ク外總會ノ狀況及議決シタル事項ノ要領ヲ十日以内ニ知事ニ報告スヘシ

第十二條 醫師會ハ左記各號ノ書類簿冊ヲ備ヘ所要ノ事項ヲ

遺漏ナク記入又ハ編綴スヘシ

一、例規書類

二、往復書類

三、收入支出豫算整理簿

四、備品及消耗品受拂簿

五、郵便電信發送簿

收入支出豫算整理簿ハ第五號様式ニ備品及消耗品受拂簿ハ第六號様式ニ依ル

附則

本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年山梨縣令第五十三號ハ之ヲ廢止ス

第一號様式

大正何年度何々醫師會收入豫算書

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
	豫 算	豫 算		
第一款 財產收入				
第一項 基金利子				
第一目 預金利子				
第二目 何々				
第二款 會費				
第一項 會費				
第一目 會員納入金				
第二目 寄附金				
第三目 補助金				
第二項 雜收入				
第一目 過怠金				
第二目 不用物品賣金				
第三目 何々				
第三款 繰越金				
第一項 繰越金				
第一目 繰越金				
收入合計				

第二號様式

大正何年度何々醫師會支出豫算書

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
	豫 算	豫 算		
第一款 事務費				
第一項 事務費				
第二款 事務費				
第三款 事務費				
第四款 事務費				
第五款 事務費				
第六款 事務費				
第七款 事務費				
第八款 事務費				
第九款 事務費				
第十款 事務費				
第十一款 事務費				
第十二款 事務費				
第十三款 事務費				
第十四款 事務費				
第十五款 事務費				
第十六款 事務費				
第十七款 事務費				
第十八款 事務費				
第十九款 事務費				
第二十款 事務費				
第二十一款 事務費				
第二十二款 事務費				
第二十三款 事務費				
第二十四款 事務費				
第二十五款 事務費				
第二十六款 事務費				
第二十七款 事務費				
第二十八款 事務費				
第二十九款 事務費				
第三十款 事務費				
第三十一款 事務費				
第三十二款 事務費				
第三十三款 事務費				
第三十四款 事務費				
第三十五款 事務費				
第三十六款 事務費				
第三十七款 事務費				
第三十八款 事務費				
第三十九款 事務費				
第四十款 事務費				
第四十一款 事務費				
第四十二款 事務費				
第四十三款 事務費				
第四十四款 事務費				
第四十五款 事務費				
第四十六款 事務費				
第四十七款 事務費				
第四十八款 事務費				
第四十九款 事務費				
第五十款 事務費				
第五十一款 事務費				
第五十二款 事務費				
第五十三款 事務費				
第五十四款 事務費				
第五十五款 事務費				
第五十六款 事務費				
第五十七款 事務費				
第五十八款 事務費				
第五十九款 事務費				
第六十款 事務費				
第六十一款 事務費				
第六十二款 事務費				
第六十三款 事務費				
第六十四款 事務費				
第六十五款 事務費				
第六十六款 事務費				
第六十七款 事務費				
第六十八款 事務費				
第六十九款 事務費				
第七十款 事務費				
第七十一款 事務費				
第七十二款 事務費				
第七十三款 事務費				
第七十四款 事務費				
第七十五款 事務費				
第七十六款 事務費				
第七十七款 事務費				
第七十八款 事務費				
第七十九款 事務費				
第八十款 事務費				
第八十一款 事務費				
第八十二款 事務費				
第八十三款 事務費				
第八十四款 事務費				
第八十五款 事務費				
第八十六款 事務費				
第八十七款 事務費				
第八十八款 事務費				
第八十九款 事務費				
第九十款 事務費				
第九十一款 事務費				
第九十二款 事務費				
第九十三款 事務費				
第九十四款 事務費				
第九十五款 事務費				
第九十六款 事務費				
第九十七款 事務費				
第九十八款 事務費				
第九十九款 事務費				
第一百款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				
第一百零七款 事務費				
第一百零八款 事務費				
第一百零九款 事務費				
第一百十款 事務費				
第一百零一款 事務費				
第一百零二款 事務費				
第一百零三款 事務費				
第一百零四款 事務費				
第一百零五款 事務費				
第一百零六款 事務費				

各品目別ニ口座ヲ設ケ記入スルコト

●醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書死體檢案書及醫師又ハ產婆ノ作爲スヘキ死産證書死胎檢案書ノ樣式並ニ其記載方

(明治三十三年十二月二十八日) (縣令第五十七號)

明治三十三年九月內務省令第四十一號ニ依リ醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書死體檢案書及醫師又ハ產婆ノ作爲スヘキ死産證書死胎檢案書ノ樣式並ニ其記載方ハ左ノ各項ニ準據スヘシ

第一 死亡診斷書。死體檢案書

樣式

一	氏名
二	男女ノ別
三	出生ノ年月日
四	職業 死亡者ノ職業 家計ノ主ナル職業
五	病死自殺其他ノ變死中毒ノ別

死亡診斷書(死體檢案書)

ヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ在テハ不詳ト記スヘシ

五病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スヘシ

六病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ胎後病ナル時ハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ

全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ

自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段假令縊死及傷入水等ノ別ヲ記スヘシ

自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類假令ハ溺死壓死

- 六 病名 (自殺者ニ手段及中毒者ニ在テハ種類) (在テハ)
 - 七 發病ノ年月日 (變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)
 - 八 死亡ノ年月日時
 - 九 死亡ノ場所
- 右證明(檢案)候也

年 月 日	住 所
	醫師 何 某 印

記載方

一 戶籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

二 經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

三 自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齡何歳ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

四 死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ死亡者若シ幼者老者婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ

燒死他殺河豚中毒「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ

七 病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

八 病死自殺變死中毒ニ拘ラス死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者變死者等ニ在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

九 死亡ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地(番戶番屋敷)ヲ記スヘシ若シ自殺者變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス

樣式

第二 死産證書、死胎檢案書

- 一 父ノ氏名 (私生子ノ場合ニ在テハ母ノ氏名)
- 二 父ノ出生ノ年月日 (私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク)
- 三 母ノ出生ノ年月日
- 四 父ノ職業 (私生子ノ場合ニ在テハ母ノ職業)
- 五 妊娠ノ月數

死産證書(死胎檢案書)

六分娩ノ年月日
 七分娩ノ場所
 八 死胎ノ男女ノ別
 九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別
 右證明(檢案)候也

住 所
 醫師(産婆)何
 某印

年 月 日

記載方

- 一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ
- 二 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 四 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ
- 五 嫡子職業者ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
- 六 五妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト數シタル第幾月日ニ該當スルカヲ記スヘシ

中毒患者發病届

中毒者ノ住所	氏名	年齢	健康状態	中毒ノ日	中毒ノ場所	中毒ノ原因	毒物ノ名稱	毒物ノ用法	主徴
府縣 市郡 町村	戸主何某何男(何女)	年 月 日	(中毒ノ際(直前)病氣ニ罹リ居リシヤ否ヤ) (チ記ス若シ罹病者ナラハソノ病名及程度)	大正 年 月 日	府縣 市郡 町村	(甲) 一、自爲ニ、他爲ニ、他ノ物ト間違ヘテ四、食用上ノ不注意 (乙) 藥用中毒 (一) 醫師ノ藥名ノ誤記 (二) 調劑師ノ藥品ノ錯誤 (三) 過失ノ用法ノ錯誤 (可成正確ニ記入シ若シ數名アラハ之ヲ列記ス)	(イ) 液體ナラハ其儘ナリシカ或ハ水(其他ノ物)ヲ加味シテ幾倍ニ稀釋セルカ (ロ) 固形體ニ於テモノノ儘ナリシカ或ハ水(其他ノ物)中ニ幾倍ニ溶解セルカ (ハ) 皮下注射、内服、灌腸、點眼、吸入、洗滌等ノ別ヲ記入ス	渴、吐瀉、腹痛、出血、痙攣、痲痺、苦悶、眩暈、人事不省、耳鳴、發熱、皮膚ノ變色、咳嗽、嘔聲 其他ノ知り得タル丈ノ徴候ヲ記入ス	

六分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

七分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ

八 死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ

九 死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ

醫師中毒患者ヲ診斷シ若ハ其ノ屍體ヲ檢按シタルトキ届出方ノ件(大正二年一月九日)

縣令第二號

醫師中毒患者ヲ診斷シ若ハ其ノ屍體ヲ檢按シタルトキハ左記様式ニ依リ即時所轄警察官署ニ届出ヘシ

本令ニ違背シタル者ハ貳拾圓未満ノ料料ニ處ス

附 則

明治三十五年一月縣令第六號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

毒物名	用法	毒物		主要な徴候	轉歸	備考	注意
		量	用				
(イ) 液体ナラハ其儘ナリシカ或ハ水(其他ノ物)ヲ加味シテ幾倍ニ稀釋セルカ (ロ) 固形體ニ於テモノノ儘ナリシカ或ハ水(其他ノ物)中ニ幾倍ニ溶解セルカ (ハ) 皮下注射、内服、灌腸、點眼、吸入、洗滌等ノ別ヲ記入ス		(可成正確ニ記入シ若シ數名アラハ之ヲ列記ス) (量ノ名稱ハ瓦、匁、分、合、勺、一滴、一盃等隨意トス)		渴、吐瀉、腹痛、出血、痙攣、痲痺、苦悶、眩暈、人事不省、耳鳴、發熱、皮膚ノ變色、咳嗽、嘔聲 其他知り得タル丈ノ徴候ヲ記入ス	全治 大正 年 月 日 略全治 大正 年 月 日 死亡 大正 年 月 日	毒物ヲ得タル顛末並其出所及服用當時ノ狀況其他參考トナルヘキ事項 本表ハ一人ニ一葉ヲ用ヒ有用ノ文字ヲ存シ不用ノ文字ヲ消ス	
					治後 異常 アラ 概要		

● 齒科醫師會令施行細則

(大正十五年七月十二日)
縣令第六六號

齒科醫師會令施行細則左ノ通定ム

齒科醫師會令施行細則

第一條 齒科醫師會ノ設立認可申請書ニハ會則案ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一、設立總會ノ會議錄謄本
- 二、會員ノ住所氏名及總會ニ出席シタル會員ノ氏名ヲ記載シタル書類

第二條 齒科醫師會ハ成立後五日以内ニ事務所ノ位置ヲ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタル場合亦同シ

第三條 齒科醫師會總會ヲ開會セムトスルトキハ七日前ニ其ノ日時、場所及議案ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ
緊急ニ依リ前項期間内ニ届出ツルコト能ハサル場合ハ其ノ決定ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第四條 齒科醫師會令第十一條ノ規定ニ依ル會則變更ノ認可申請書ニハ會議錄謄本ヲ添付スヘシ

第五條 代議員、議員、豫備議員及役員ヲ選舉セムトスル場合ハ期日十日前ニ左ノ事項ヲ知事ニ届出ツヘシ

第十一編 警察 第八章 衛生 第二款 醫師、齒科醫師及藥劑師

一、日時、場所

二、選舉スヘキ代議員、議員、豫備議員、役員ノ員數

三、選舉人ノ員數

前項ノ選舉終リタルトキハ選舉錄謄本ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ五日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第六條 齒科醫師會令第二十一條ニ基キ意見ヲ具申セムトスル場合ハ其ノ事由ヲ詳具シタル書類ニ總會ノ會議錄謄本ヲ添付スヘシ

第七條 齒科醫師會令第二十二條ニ依リ懲戒ノ處分ヲ議決シタルトキハ左記各號ノ書類ニ總會ノ會議錄謄本ヲ添付シ知事ニ報告スヘシ

一、被處分者ノ住所氏名

二、懲戒ノ事由種別及其ノ内容

第八條 齒科醫師會令第二十六條ノ規定ニ依リ豫算ノ届出ハ別表第一號、第二號ニ決算ノ届出ハ第三號第四號ニ依リ決議又ハ承認後十日以内ニ會務狀況ノ届出ハ四月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第九條 會員ニ對シ業務ニ關スル規定ヲ設クムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 財産及營造物ヲ處分セムトスル場合ハ其ノ處分方法

ハ病院名

第二條 藥劑師法施行規則第八條第二號ニ依リ藥局開設ヲ許可スル場合左ノ如シ

- 一、藥局開設者死亡シ直ニ藥局ヲ閉鎖スルトキハ其ノ遺族生活ニ苦シム等特別ノ事情アリテ相續人ニ對シ一定ノ期間繼續開始セシムル必要アリト認ムルトキ
- 二、公益ノ目的ヲ以テ藥局ヲ開設スル場合其ノ他公益上必要ト認ムル場合
- 三、土地ノ狀況ニ依リ公衆衛生上藥局ノ開設ヲ必要ト認ムル場合
- 四、法人ノ代表者藥劑師ノ資格ヲ有シ自ラ事業經營監督ノ任ニ當リ事實上藥劑師カ開局スルト同一視セラルヘキ場合

第三條

藥劑師法施行規則第十三條ノ規定ニ依ル調劑ニ必要ナル器具左ノ如シ但シ專門科醫師、齒科醫師、獸醫ノ調劑所ニ付テハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一、調劑臺
- 二、一〇cc 二〇cc 一〇〇cc 二〇〇ccノ各液量器五〇〇ccノ熱湯計三〇ccノ滴罐（口徑三ミリメートルノ滴下面ヲ有スルモノ）

第一條 藥劑師法施行規則第一條ノ申請書ヲ受理シタルトキ

ハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

- 一、藥劑師法第二條第二項規定ノ資格ヲ證スル爲本證書ト對照シ正當ナルモノト認定シタルトキハ申請書餘白ニ資格證書對照濟ノ旨ヲ附記シ取扱者捺印スルコト
- 二、藥劑師法第三條第四條ニ該當スル者ナルトキハ當該事實ヲ詳記シタル具申書ヲ添付スルコト

第二條 藥劑師法施行規則第三條第二項ノ申請アリタルトキハ其ノ變更ニ對スル新資格證書ト對照シ前條第一號ニ準シ取扱フヘシ

第三條 藥劑師法施行規則第一條、第三條、第四條ノ申請書ニハ同則第五條規定ノ收入印紙ヲ貼用シタルモノニ非サルハ進達スヘカラス

第四條 藥劑師法施行規則第一條ノ屆書ヲ受理シタルトキハ本免狀ト對照シ本手續第一條第一號ニ準シ取扱フヘシ

第五條 藥劑師法施行規則第十八條、第十九條ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ規定ノ期間内ニ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ

- 三、硝子製乳鉢（内用藥專用ノモノ）磁製乳鉢（外用藥專門ノモノ）
- 四、匙（金屬製、角製）筥（金屬製、角製）漏斗（硝子製、磁製）篩器（六ツ組日本藥局方規定ノモノ）藥研
- 五、滅菌器

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十四年縣令第三十九號藥劑師獸醫蹄鐵工開業及出張所設置並其他異動届出規則及明治三十四年縣令第三十八號醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工、開業試験及免狀下附替換願届ニ關スル手續中藥劑師ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●藥劑師法施行細則取扱手續

（大正十五年七月十九日）
訓令第八十七號

警察 署

藥劑師法施行細則取扱手續左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
藥劑師法施行細則取扱手續

明治四十二年三月訓令甲第十一號醫師法施行細則ニ關スル書類取扱手續及明治三十四年訓令甲第四十二號藥劑師、獸醫、蹄鐵工異動届出ニ關スル書類取扱手續中藥劑師ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●藥劑師會令施行細則

（大正十五年七月十二日）
縣令第七十七號

藥劑師會令施行細則左ノ通定ム

藥劑師會令施行細則

- 第一條 藥劑師會ノ設立認可申請書ニハ會則案ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ
 - 一、設立總會ノ會議錄謄本
 - 二、會員ノ住所、氏名及總會ニ出席シタル會員ノ氏名ヲ記載シタル書類
 - 第二條 藥劑師會ハ成立後五日以内ニ事務所ノ位置ヲ知事ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタル場合亦同シ
 - 第三條 藥劑師會總會ヲ開會セムトスルトキハ七日前ニ其ノ日時、場所及議案ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ
- 緊急ニ依リ前項期間内ニ届出ツルコト能ハサル場合ハ其ノ決定ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第四條 藥劑師會令第十二條ノ規定ニ依ル會則變更ノ認可申
請書ニハ會議錄附本ヲ添付スヘシ

第五條 代議員、議員、豫備議員及役員ヲ選舉セムトスル場
合ハ期日十日前ニ左ノ事項ヲ知事ニ届出ツヘシ

一、日時、場所

二、選舉スヘキ代議員、議員、豫備議員、役員ノ員數

三、選舉人ノ員數

前項ノ選舉終リタルトキハ選舉錄附本ヲ添ヘ當選者ノ住所
氏名ヲ五日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第六條 藥劑師會令第二十二條ニ基キ意見ヲ具申セムトスル
場合ハ其ノ事由ヲ詳具シタル書類ニ會議錄附本ヲ添付スヘシ

第七條 藥劑師會令第二十三條ニ依リ懲戒處分ヲ議決シタル
トキハ左記各號ノ書類ニ總會ノ會議錄附本ヲ添付シ知事ニ
報告スヘシ

一、被處分者ノ住所氏名

二、懲戒ノ事由種別及其ノ内容

第八條 藥劑師會令第二十七條ノ規定ニ依ル豫算ノ届出ハ別
表第一號、第二號ニ決算ノ届出ハ第三號、第四號ニ依リ決
議又ハ承認後十日以内ニ會務狀況ノ届出ハ四月末日迄ニ之
ヲ爲スヘシ

第九條 會員ニ對シ業務ニ關スル規定ヲ設ケムトスルトキハ
其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 財産及營造物ヲ處分セムトスル場合ハ其ノ處分方法
ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 藥劑師會總會ニハ當該官吏ヲ臨席セシムルコトア
ルヘシ

第十二條 藥劑師會ハ藥劑師會令又ハ本則ニ依リ認可若ハ届
出ヲ要スルモノヲ除キ總會ノ狀況及議決シタル事項ハ十日
以内ニ知事ニ報告スヘシ

(第一號) 大正 年度(何々) 藥劑師會收入豫算書

科 目	本年度 豫算高	前年度 豫算高	比 較		備 考
			増	減	
計					

(第二號) 大正 年度(何々) 藥劑師會支出豫算書

科 目	本年度 豫算高	前年度 豫算高	比 較		備 考
			増	減	
計					

事記動異	免狀	附免	事得免	除ルヲ	籍本	所住	族稱	名氏	年 月 日 生
	號	ノ	タ						
	第	月	日						

●醫師其他免狀、鑑札請書ニ貼用
セル印紙消印ノ件

(明治三十一年三月
衛發第四五號依命通牒)

醫師藥劑師獸醫師鐵工免狀新規下付書換再渡及賣藥營業鑑札
下付ニ對スル請書ニ(登記)印紙貼付並ニ消印ノ義ニ就テハ從

前依命夫々及御通牒置候次第モ有之且貼付印紙消印ノ義ハ總
テ當部ニ於テ調査之上決行可相成答ニ有之候處今尙往往過不
足ノ場合之レアリ處理上差支候ニ付テハ爾後本人ヲシテ請書
ニ印紙貼付セシムル場合ハ明治二十九年法律第二十七號登錄
稅法第八條ニ依ルノ外左ノ標準ニ依リ貼付セシメラレ尙其貼
付ニ先チ消印ノ義ハ前文ノ旨趣夫々御指示ノ上本人ヲシテ消

印セシメサル様御取計相成度依命此段更ニ及通牒候也

(登記)印紙貼付標準並ニ區別

- 一(登記)印紙貼付上種々區別アリ假令ハ其種類ノ何タルヲ問
ハス本免狀下付ヲ出願シ依テ免狀下付セラレタルモノハ内
務主管ト農商務主管トヲ問ハス先ニ願書提出ノ際稅法ニ則
リ相當ノ額ニ貼付シ差出セシムル例規ナルヲ以テ免狀接手
ノ場合ハ單ニ免狀ニ對スル受領書ノミ差出サシムル事
- 一其他假免狀下付ニ對シテハ前段ニ反シ本人其免狀接手ノ際
始メテ同法示ス處ノ印紙ヲ請書ニ貼付セシムル事
- 一(同法第一項中假免許踏鐵工ニ對スル稅額掲記シアラサル
モ右一種ニ限リ二十三年法律第三十一號免許規則第六條第
七條ニ依ルノ額ヲ貼付セシムル事)
- 一賣藥ニ付テハ新規下付一方ニ付(二十錢)水火盜難ニ因テ再
渡ヲ願出セシ者ハ其半額即チ十錢貼付セシムル事

●醫術開業及藥劑師免狀下附再下
附書換願書面記載方ノ件

(明治三十八年二月二日
衛收第五三三號ノ一)

警務長ヨリ(各郡)市長宛

第十一編 警察 第八章 衛生 第二款 醫師、齒科醫師及藥劑師

六八三

從來醫術開業及藥劑師免狀下附再下附書換出願ノ場合ニ願書
面記載ノ族籍氏名年齢等戶籍面ト相違シ又ハ醫術開業及藥劑
師免許證書學校卒業證書ト其寫ト相違セルモノ往々有之今般
其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ付爾今願書面記載ノ族籍氏名
年齢等ハ戶籍簿ト對照シ其ノ相違ナキヲ認メタルトキハ願書
餘白ニ戶籍簿對照濟ノ旨ヲ記入シ且ツ主管者檢印シ又證書ノ
本書ト其寫トヲ對照シ其相違ナキヲ(證書ノ眞偽ヲ調査スヘ
キハ勿論トス)認メタルトキハ其ノ寫ニ本書對照濟ノ旨ヲ記
入シ是又主任者檢印ノ上進達ノ手續相成候様致度此段及通牒
候也

●醫術開業試驗願書ニ添付スヘキ
履歷書ノ保證ノ件

(明治三十九年六月十三日
梨衛收第一三七一號ノ一)

第四部長ヨリ(各郡)市長宛

本年四月十一日文部省令第五號ヲ以テ醫術開業試驗規則中改
正相成候處其ノ第九條中履歷書ノ保證ハ校長院長又ハ就學シ
タル教師ト定メラレ候ニ付今般廣島縣知事ヨリ學校、病院以
外ノ教師ニ就キ修業セシ者其ノ教師死亡シタル等ノ場合ハ何
人ヲ以テ之ニ代フヘキヤノ問合ニ對シ文部省專門學務局長ヨ

リ其ノ保證ヲ得難事由ヲ詳記シ添付セシメラレ度旨回答シタル趣通牒有之候條爲念此段及通牒候也

●醫事ニ關スル犯罪又ハ藥劑師ノ業務ニ關スル犯罪ノ有無照復ノ件

(明治三十九年七月六日) 梨衛發第八七號依命通牒)

衛生課長ヨリ各警察署長(分署長)宛

曩ニ醫術開業試験規則及藥劑師試験規則改正ノ結果試験願書ヲ受理シタルトキハ十五日以内ニ於テ其筋ヘ願書ヲ進達スルコトト相成候就テハ爾今醫事ニ關スル犯罪又ハ藥劑師ノ業務ニ關スル犯罪及不正行爲ノ有無調査方照會ニ接シタルトキハ至急回答相成候様御取計相成度依命此段及通牒候也

●醫師齒科醫師ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者等調査報告ノ件

(明治四十四年十二月十三日) (訓令乙第三三五號)

警察署長(警察分署長)

醫師齒科醫師ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若クハ不正行爲アリタルトキハ其都度左ノ各項調査報告スヘシ

- 一 住所氏名年齢
 - 一 行政處分要否ニ關スル意見
 - 一 其所爲ノ動機(例令ハ一定ノ報酬ヲ得ンカ爲ナ)ルカ又ハ情義ノ結果ナルカ等)
 - 一 其所爲ノ影響(主トシテ公衆衛生上ニ及ホシタル影響ヲ云フ、例令ハ傳染病ヲ隱蔽シタル爲メ一部落ニ傳播シタルカ如キ記事)
 - 一 素行
 - 一 附近同業者ノ有無多少等
 - 一 其他參考事項
- 藥劑師其業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ醫師齒科醫師ノ例ニ準シ其都度報告スヘシ
- 明治四十二年一月内示第三號ハ廢止ス

第三款 產婆及看護婦

●產婆名簿登錄出願手續

(明治三十二年十一月二十七日) (縣令第四十四號)

附則 明治三十四年一月縣令第五三號、四三年一月同第五號、大正一五年六月同第六〇號、昭和二年四月同第三〇號改正

產婆名簿登錄出願手續左ノ通相定ム

產婆名簿登錄出願手續

第一條 產婆名簿登錄規則ニ依リ其登錄ヲ受ケントスル者ハ

第一號様式願書ニ左ノ各條ヲ明記シ履歷書ヲ添ヘ住所地市町村長ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

一 產婆規則第十八條ニ依リ登錄スルモノハ其事由

二 開業地(住所以外ニ於テ開業スルモノ又ハ出張所ヲ設クルモノハ之ヲ記載ス)

三 產婆規則第五條第一項ノ該當者ハ其事由

前項ノ履歷書ニハ隨胎ノ罪其他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ

第十一編 警察 第八章 衛生 第三款 產婆及看護婦

刑ニ處セラレヘキ罪ヲ犯シタルコトノ有無產婆業ノ禁止停止解除ノ處分ヲ受ケタルコトノ有無及年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第二條 產婆名簿ノ登錄ヲ受ケタルモノニシテ產婆規則第四條第二號ノ登錄事項ノ訂正又ハ同則第五條及第六條ノ名簿取消ノ登錄ヲ願出ツル者ハ第二號様式ニ據リ市町村長ヲ經テ願出ヘシ

第三條 產婆名簿登錄規則第六條ニ依リ名簿ノ謄本ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ第三號様式願書ニ手数料金五十錢ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ提出スヘシ

第四條 (削除)

第五條 市町村長ニ於テ前各條ノ書類ヲ受理シタルトキハ直チニ縣廳ニ進達スヘシ

第一號様式

產婆名簿登錄願

本籍府縣郡市町村番地(外國人ナレ)

現住所府縣郡市町村番地

戸主トノ關係(某姉妹長次女ノ類)族籍

氏名

生年月日

氏 名印

右(何年月日何處施行)產婆試驗ニ合格候何年月日何府縣ニ於テ產婆免狀(鑑札)相受ケ現ニ何地ニ於テ開業致居候ニ付テハ產婆名簿ニ登錄被成下度履歷書及試驗合格證書又ハ產婆免狀(鑑札)相添ヘ此段相願候也

年 月 日

氏

名印

知 事 宛

第二號様式

產婆名簿訂正願取消

本籍府縣郡市町村番地(外國人ナレハ其國籍)

現住所府縣郡市町村番地

戸主トノ關係(某姉妹長次女ノ類)族籍

氏 名

生年月日

右何年何月何日登錄願濟ノ者ニ候處何々ノ廉何々ニ付登錄取消正

方登錄被成下度此段相願候也

右

年 月 日

氏

名印

第三號様式 產婆名簿本下付願

本籍府縣郡市町村番地(外國人ナレハ其國籍)

現住所府縣郡市町村番地

戸主トノ關係(某ノ姉妹長次女ノ類)族籍

氏 名

生年月日

右何々ノ必要有之候間本御下附被成下度此段相願候也

右

年 月 日

氏

名印

知 事 宛

●產婆名簿登錄願書進達方

(明治四十年五月二十三日)訓令甲第二十四號

(郡 役 所) 市 役 所

町 村 役 場

產婆規則第四條所定ノ產婆名簿登錄願書ヲ受理シタルトキハ

●產婆試驗委員組織權限

(明治三十三年三月九日)訓令第三〇號

明治三三年一〇月訓令第一一四號改正

第一條 產婆試驗委員ハ知事ノ指揮ヲ受ケ試驗ヲ行フモノトス

第二條 產婆試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

一 委員長 一人

一 委員 若干人

一 書記 一人

第三條 委員長ハ警察部長トシ委員ハ警部、警察醫、縣立病院醫員中ヨリ選任シ書記ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 委員長ハ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ委員ハ試驗ノ成績ヲ審査評定シ書記ハ雜務ニ服ス

第五條 委員及ヒ書記ハ委員長ノ申請ニ依リ知事之ヲ任免ス

第六條 委員長事故アルカ又ハ缺員アリシ場合ハ知事其代者ヲ定ム

第七條 委員長ハ試驗當日ヨリ三日前ニ試驗問題ヲ定メ知事ノ認定ヲ請フヘシ

●產婆名簿謄本ノ件

(明治三十四年八月十七日)制定

產婆名簿謄本左記之通り相定ム

產婆名簿

一 登錄番號

一 登錄年月日

一 族 籍

一 氏 名

一 年 齡

一 住 所

一 產婆試驗ニ合格シタル地方廳名

一 右年月日

一 開業地

右產婆名簿ニ依リ此謄本ヲ交付スルモノナリ

第八條 委員長ハ試験後二日以内ニ合格者ヲ定メ證書交付ノ申請ヲ爲スヘシ

第九條 合格證書及證明書ハ左ノ書式ニ依リ調製スヘシ

合格證書

族籍 氏名 生年月日

右産婆學說及實地試験ニ合格シタルヲ以テ此證書ヲ交付ス

年月日

山梨縣知事 氏名

曲尺九寸

寸六尺曲

證明書

族籍 氏名 生年月日

産婆學說試験ニ合格シタルヲ以テ此證明書ヲ交付ス

年月日

山梨縣知事 氏名

曲尺九寸

寸六尺曲

●産婆試験出願手續

(明治三十二年十一月二十七日) (縣令第四十二號)

明治三十四年一月縣令第五一號、四三年一月同第六號、大正元年八月同第八號、昭和二年四月同第二九號改正

- 産婆試験出願手續左ノ通相定ム
- 産婆試験出願手續
- 第一條 産婆試験ヲ施行セムトスルトキハ其ノ日時及場所ハ一ヶ月前之ヲ告示ス
- 第二條 産婆試験ヲ受ケムトスル者ハ産婆試験規則第五條ニ該當スル卒業證書、修業證書又ハ修業履歷書(其ノ實地試験ノミヲ受ケムトスル者ニ在リテハ學說試験合格證明書)及履歷書並戸籍謄本若ハ抄本ヲ添ヘ第一號様式ニ據リ知事ニ願出ヘシ
- 第三條 産婆試験ヲ願出ツル者ハ試験手数料金一圓ヲ納付スヘシ但シ納付シタル手数料ハ之ヲ還付セス
- 實地試験ノミヲ願出ツル者ト雖亦前項ニ同シ
- 第四條 受験人心得其他試験場ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第一號様式

産婆學說實地試験願

本籍府縣郡市町村番地(外國人ナレハ其國籍)

現住所府縣郡市町村番地

戸主トノ關係(某姉妹長次女ノ類)族籍

氏名

生年月日

右何年月施行ノ産婆學說實地試験相受度候間御試験被成下度(産婆學校産婆養成所ノ卒業證書修業證書又ハ修業履歷書又ハ學說試験合格證明書)及自己ノ履歷書相添ヘ此段相願候也

年月日

氏名印

●産婆受験人心得及試験場條規

(明治三十三年三月八日) (告示第七十三號)

明治三十二年十一月縣令第四十二號産婆試験出願手續ニ依リ産婆受験人心得及試験場條規左ノ通相定ム

産婆受験人心得及試験場條規

- 第一條 産婆試験ハ當廳ヨリ告示シタル試験場ニ於テ之ヲ受ケヘシ
- 第二條 試験ヲ受ケントスルモノハ試験當日午前八時迄ニ試験場ニ出頭シ名刺ヲ差出スヘシ
- 病氣其他ノ事故ニ依リ當日出頭シ難キモノハ前日迄ニ届書ヲ差出スヘシ
- 第三條 受験人ハ委員ヨリ番號札ヲ受取り控所ニ集合スヘシ
- 第四條 試験ハ午前九時ニ開始シ午後四時ニ閉止ス
- 第五條 受験人ハ豫メ渡シ置キタル番號札ニ依リ順次著席スヘシ
- 第六條 番號札ヲ所持セサルモノハ場内ニ入ルヲ許サス
- 第七條 受験人ハ書籍又ハ書類ヲ携テ入場スルコトヲ得ス
- 第八條 受験人ハ答案ヲ作ルニ用キル爲メ筆墨ヲ携帯スヘシ
- 第九條 著席シタルトキハ互ニ談話スヘカラス
- 第十條 許可ナクシテ席ヲ離ルヘカラス
- 第十一條 學說試験ハ一問題一時間トス但問題ニ對シテハ質問スルコトヲ得ス
- 第十二條 學說試験ノ答案ハ筆答トシ實地試験ノ答案ハ口頭トス

第十三條 答案ハ片假名交リ文ヲ以テ作り答案ヲ付シ難キ間

題ハ其旨ヲ付記スヘシ

答案ニハ番號ヲ記シ姓名ヲ記スヘカラス

第十四條 答案終リタルトキハ直チニ委員ニ差出シ復席スヘシ

第十五條 本規程ニ違背シタル者ハ委員長ニ於テ退場ヲ命スルコトアルヘシ

●產婆業免許ノ件

(明治三十二年十一月二十七日) 縣令第四十三號

附註

明治三十四年一月縣令第五二號、大正一五年六月同第六六號改正

明治三十二年七月勅令第三百四十五號產婆規則第十九條ニ依リ產婆業ノ免許ヲ受ケントスルモノハ其履歷業務ノ地域及年限ヲ記載シ住所地市町村長ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ
市町村長ニ於テ前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ直ニ當廳ニ進達スヘシ

●看護婦規則施行細則

(大正四年十月十四日) 縣令第三十八號

附註 大正一一年三月縣令第一三號改正

看護婦規則施行細則左ノ通定ム

看護婦規則施行細則

第一條 看護婦ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左記各號ヲ具シ知事ニ申請スヘシ

一 原籍、住所、族籍、氏名、生年月日

二 看護婦規則(以下單ニ規則ト稱ス)第二條ノ資格ヲ證スヘキ證書又ハ其寫

三 戶籍謄本若ハ抄本

四 精神病及傳染病疾患ナキコトヲ證明シタル醫師ノ診斷書

第一條ノ二 看護婦免許ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金五十

錢ヲ納付スヘシ

第二條 看護婦本縣内ニ於テ住所ヲ變更シタルトキハ十日内ニ後ノ住所地ノ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ

第三條 看護婦ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 故ナク業務上ノ依頼ヲ拒マサルコト

四 會則又ハ組合規約

五 看護料其他料金ニ關スル規程

六 會員ノ住所氏名

第九條 看護婦會又ハ看護婦組合ニ於テ役員ヲ選定シタルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 當廳ニ於テ必要ト認メタルトキハ會則又ハ規約ノ變更役員ノ改選若クハ看護婦會又ハ看護婦組合ノ解散ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 看護婦ノ免許ヲ得タル者ハ第一號雜形ニ定ムル徽章ノ交付ヲ受クヘシ

他廳府縣ノ看護婦免狀ヲ有スル者本縣内ニ於テ從業スル場合亦前項ニ同シ

第十二條 徽章ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ願書ト共ニ徽章料金貳拾錢ヲ納付スヘシ毀損亡失ニヨリ其再下付ヲ受クルトキ亦同シ

第十三條 徽章ヲ毀損亡失シタルトキハ知事ニ届出ツヘシ

第十四條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ二十日内ニ徽章ヲ返納スヘシ

一 廢業又ハ免許ヲ取消サレタルトキ

二 亡失シタル徽章ヲ發見シタルトキ

二 從業中ハ必ス白色ノ被布ヲ着用シ其左胸部ニ徽章ヲ佩用スルコト

三 傳染病疾患者ト他ノ患者トヲ同時ニ看護セサルコト

第四條 精神病又ハ傳染性ノ疾患ニ罹リタルトキハ治療ニ至ルマテ業務ニ從事スルコトヲ得ス

第五條 警察官署ニ於テ前條ノ疾患ニ罹リタル疑アリト認メタルトキハ指定シタル醫師ノ健康診斷書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 規則第十條ニ依リ業務ノ停止又ハ免許取消ノ處分ヲ受ケタルトキハ二十日内ニ免狀ヲ知事ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ停止處分ニ係ルモノハ其要旨ヲ免狀ニ裏書シ期間滿了ノ後之ヲ還付ス

第七條 看護婦ハ看護婦會又ハ看護婦組合ヲ設クルコトヲ得

第八條 看護婦會又ハ看護婦組合ヲ組織セムトスルトキハ其發起人ヨリ左ノ各號ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ其

事項中第三號乃至第五號ヲ變更セムトスルトキ亦同シ其他

ノ事項ノ變更ハ十日内ニ知事ニ届出ツヘシ

一名稱

二 目的

三 事務所ノ位置

第十一編 警察 第八章 衛生 第三款 產婆及看護婦

六九二

第十一編 警察 第八章 衛生 第三款 產婆及看護婦

三 他廳府縣ニ住所ヲ移シタルトキ

四 失踪又ハ死亡シタルトキ

前項第四號ノ返納ハ戶籍法ニ依ル届出義務者之ヲ爲スヘシ
第十五條 看護婦試験ヲ受ケムトスルモノハ本籍、住所、族籍、氏名、生年月日ヲ記シタル願書ニ學校病院講習所若クハ醫師ノ證明シタル修業履歷書及戶籍謄本又ハ抄本ヲ添付シ知事ニ提出スヘシ

第十六條 試験ハ毎年二回之ヲ行フ其期日及場所ハ其都度告示ス

第十七條 看護婦試験ヲ願出ツル者ハ試験手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

第十八條 試験ニ關シ不正行爲アル者ハ受験ヲ停止シ又ハ其ノ試験ヲ無効トス

第十九條 試験ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ交付ス

第二十條 本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ試験ニ關スルモノヲ除クノ外所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十一條 第二條、第三條、第六條第一項、第八條、第九條、第十一條、第十三條、第十四條ニ違背シタル者又ハ第五條第十條ノ命令ニ從ハサルモノハ科料ニ處ス第八條、第九條ノ違反行爲ニ付テハ看護婦會又ハ看護婦組合ノ發起人

之處罰ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ看護婦徽章ニ關スル規定ハ大正五年四月一日ヨリ施行ス
明治三十六年五月山梨縣令第二十三號看護婦取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

規則附則第四項第六項ノ願書ハ本則第一條各號ニ準シ履歷書ヲ添付提出スヘシ

準看護婦及男子タル看護人ハ第二號雜形ニ定ムル徽章ノ交付ヲ受ケヘシ

第一號雜形



●看護婦法令執行手續

(大正四年十月二十一日)
訓令甲第二十號

大正 年三月訓令甲第一〇號改正

警察 署 (警察分署)

看護婦法令執行手續左ノ通之ヲ定ム

看護婦法令執行手續

第一條 看護婦規則(以下單ニ規則ト稱ス)看護婦規則施行細則(以下單ニ細則ト稱ス)ニ依リ當廳ニ進達スヘキ書類ヲ受理シタルトキハ調査ノ上欄外ニ年月日ヲ記載捺印シ尙意見アルモノハ具申書ヲ添ヘ進達スヘシ

第二條 規則第九條第二項ニ該當スルモノアルトキハ其旨報告スヘシ

第三條 規則第十條ニ依リ業務ノ停止又ハ免許ノ取消ヲ必要トスル場合ハ其實質、性質、素行ノ精査ヲ遂ケ報告スヘシ

第四條 公私立病院ニ專屬シ醫師監督ノ下ニ入院患者ノ附添看護ニ従事スル者ニ限り規則ニ依ル看護婦ト認メサルヘシ

第五條 細則第二條ノ届出ヲ受理シタルトキハ前住地所轄警察官署ニ通報スヘシ

第六條 警察官署ハ看護婦名簿(第一號樣式)看護婦會又ハ看

第二號雜形



ニッケル打出

一號、二號、裏



銀色

護婦組合名簿(第二號様式)ヲ備ヘ置キ異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

第七條 免許手数料及徽章料納付ハ郵便爲替又ハ小切手ノ類ヲ以テセシムヘシ

第八條 徽章交付願ヲ受理シタルトキハ調査ノ上不都合ナキモノニ對シテハ直チニ徽章ヲ交付シ徽章受拂簿(第三號様式)ニ登載シ願書餘白ニ交付月日番號ヲ記載進達スヘシ

第一號様式

解 禁	取 止 又 消	徽 章 下 付	免 許 證 付	試 驗 合 格 又 ハ 卒 業	所 現 住	地 本 籍	族 籍	氏 名	生 年 月
								證 書 番 號 ノ	免 許 證 番 號
大 正 年 月 日	大 正 年 月 日	大 正 年 月 日	大 正 年 月 日	大 正 年 月 日					
同 上 事 由	同 上 事 由	同 上 事 由	同 上 事 由	同 上 事 由					

第二號様式

要 摘	記 載 例	設 立 年 月 日	認 可 番 號	廢 止 年 月 日
		名 稱	位 置	
摘 要				
會 員				
免 許 證 番 號 及 下 付 年 月 日	認 可 又 ハ 入 會 年 月 日	退 會 年 月 日	役 名	住 所 氏 名
			生 年 月	備 考

一、免狀ヲ得タル事由カ試験合格又ハ養成所卒業ニアラサルトキハ其旨摘要欄ニ記入スヘシ
 一、停止及取消ノ年月日事由ハ朱書スルコト
 一、他管ニ轉住其他ノ異動ハ勿論身分ニ關スル事項ハ總テ摘要欄ニ記入スルコト

八寸

合格證書

合格證書	氏名	生年月
族籍	氏名	生年月
知事	知事	知事
年印月日	年印月日	年印月日

看護婦受験人心得

(明治四十年十一月四日 告示第二百四十八號)

明治三十六年五月告示第六十八號看護婦試験規則ニ依リ看護婦受験人心得左ノ通り相定ム

- 第一條 看護婦試験ハ當廳ヨリ告示シタル試験場ニ於テ之ヲ受クヘシ
- 第二條 試験ヲ受ケムトスル者ハ試験當日午前八時三十分迄ニ試験場ニ出頭シ名刺ヲ差出スヘシ但病氣其他ノ事故ニ依リ當日出頭シ難キ者ハ前日迄ニ編書ヲ差出スヘシ

第三條 受験人ハ委員ヨリ番號札ヲ受取り控所ニ集合スヘシ

第四條 試験ハ午前九時ニ開始シ午後四時ニ閉止ス

第五條 受験人ハ豫メ渡シ置キタル番號札ニ依リ順次著席スヘシ

第六條 番號札ヲ所持セサル者ハ場内ニ入ルヲ許サス

第七條 受験人ハ書籍又ハ書籍ヲ携帶シテ入場スルコトヲ許サス

第八條 受験人ハ答案ヲ作ルニ用ユル爲メ筆墨ヲ携帶スヘシ

第九條 著席シタルトキハ互ニ談話スヘカラス

第十條 許可ナクシテ席ヲ離ルヘカラス

第十一條 學術試験ハ一問題一時間トス但問題ニ對シテハ質問スルコトヲ得ス

第十二條 學術試験ノ答案ハ筆答トシ實地試験ノ答案ハ口答トス

第十三條 答案ハ片假名交リ文ヲ以テ作り答案ヲ付シ難キ問題ハ其旨ヲ付記スヘシ

第十四條 答案ニハ番號ヲ記シ姓名ヲ記スヘカラス

第十五條 答案終リタルトキハ直チニ委員ニ差出シ復席スヘシ

本規程ニ違背シタル者ハ委員長ニ於テ退場ヲ命ス

ルコトアルヘシ

看護婦養成所指定ノ件

(大正五年三月三十一日 告示第六十一號)

山梨縣病院產婆看護婦養成所看護婦部

右看護婦規則第二條ニ依リ指定ス

但シ指定ノ效力ハ聽講生ニ及ハス

(大正五年五月十五日 告示第百號)

日本赤十字社山梨支部救護員養成所看

看護婦ノ部

右ハ大正四年^六内務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ指定ス

(昭和二年二月二十四日 縣告示第三十號)

大正四年^六内務省令第九號看護婦規則第二條ニ依リ左記ノ通指定ス

種類	指定年月日	所在地	名	稱	效力
看護婦	昭和二年二月二十二日	甲府市百石町	私立山梨縣衛生會看護婦產婆養成所	產婆養成所	昭和三年三月以降卒業ノ者ヨリ

第九條 第三條乃至第六條ニ違背シ又ハ第七條ノ診斷書提出

ノ命ニ從ハス若ハ警察醫ノ診斷ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

規則發布ノ際現ニ按摩術(按摩、採療治ノ類ヲ含ム)又ハ「マツサーシ」術營業ヲ爲ス者ニシテ免許證札ヲ受ケムトスルモノハ願書ニ本籍、住所、族籍、氏名、生年月日ヲ記載シ規則第二條ノ疾患ナキコトヲ證明シタル醫師ノ診斷書ヲ具シ履歷書ヲ添ヘ明治四十五年三月三十一日迄ニ知事ニ願出ヘシ盲人ニシテ一ケ年以上修業履歷ヲ有スル者ニ限り當分ノ内其履歷ヲ審査シ試験ヲ要セス免許證札ヲ交付スルコトアルヘシ

前項ノ證札ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ履歷書ノ外規則第二條ノ疾患ナキコト視力ニ關スル醫師ノ診斷書並教師ノ證明書ヲ添ヘ知事ニ願出ヘシ

本令ノ規定ハ柔道整復術營業ニ之ヲ準用ス
柔道整復術試験ハ現ニ一定ノ道場ニ於テ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニシテ四箇年以上柔道整復術ヲ修業シタル者ニアラザレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

●鍼術灸術營業取締規則施行細則

(明治四十五年二月十日)
縣令第十號

鍼術灸術營業取締規則施行細則左ノ通相定ム

鍼術灸術營業取締規則施行細則

第一條 鍼術又ハ灸術營業免許證札ヲ受ケムトスル者ハ鍼術灸術營業取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)第一條ニ依ルノ外願書ニ本籍、住所、族籍、氏名、生年月日ヲ記載シ規則第二條ノ疾患ナキコトヲ證明シタル醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二條 規則第三條ノ試験ヲ施行セムトスルトキハ其日、時、場所及受験手續等一ケ月前之ヲ告示ス

第三條 營業者本縣内ニ於テ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ

第四條 營業者ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

- 一 自宅外ニ在リ業務ニ從事スルトキハ免許證札ヲ携帯スルコト
- 二 免許證札ハ他人ニ讓渡又ハ貸與スヘカラサルコト
- 三 規則第二條ノ疾患ニ罹レルトキハ業務ニ從事スヘカラサルコト

附錄様式

山梨縣免許第	號
按摩術營業	住所
	氏名
	姓名
	曲尺縱二尺五寸
	寸八橫尺曲

●按摩術營業取締規則第一條ニ依ル指定

(大正十四年十月八日)
告示第二百號

明治四十四年八月内務省令第十號按摩術營業取締規則第一條ニ依リ左ノ通指定ス

種類	指定年月日	所在地	名稱
按摩術	大正十四年九月三十日	甲府市百石町一〇五番地	私立山梨盲啞學校

第五條 規則第五條ノ消毒ハ鍼及手指ハ石炭酸水若ハ「リゾール」水(二十倍)ヲ以テシ施術ノ局部ハ酒精(四十度以上ノモノ)ヲ用ユヘシ

第六條 營業者ハ門戶其他觀易キ場所ニ附錄様式ノ標札ヲ掲クヘシ

第七條 營業者ハ規則第十一條ニ依リ營業免許ヲ取消サレタルトキハ十日以内ニ免許證札ヲ知事ニ返納シ營業停止ノ處分ヲ受ケタル者ハ直ニ免許證札ヲ所轄警察官署ヘ提出スヘシ

第八條 所轄警察官署ハ營業者ニシテ規則第二條ノ疾患ニ罹レル疑アリト認ムルトキハ醫師及期限ナ指定シ診斷書ノ提出ヲ命シ又ハ警察醫ヲシテ之カ診斷ヲナサシムルコトアルヘシ

第九條 本則ニ依リ知事ニ提出スヘキモノハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十條 第三條乃至第七條ニ違背シ又ハ第八條ノ診斷書提出ノ命ニ從ハス若ハ警察醫ノ診斷ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治十八年七月甲第六十五號布達針灸治療營業取締規則ハ本令

施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
附錄樣式

山梨縣免許第 號	住所
鍼術(灸術)營業	氏 名
曲尺縱二尺五寸 寸八橫尺曲	

●按摩術營業取締規則並鍼術、灸術營業取締規則取扱手續

(明治四十五年二月十日)
(訓令甲第五號)

警察 部 警察 署
(警察分署)

按摩術營業取締規則並鍼術、灸術營業取締規則取扱手續左ノ通相定ム

第一條 按摩術營業取締規則並鍼術、灸術營業取締規則取扱手續

規則第一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左記各號ノ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

- 一、本籍、住所、族籍、氏名、生年月日ノ正否
 - 二、試験合格證書若ハ修業證書又ハ卒業證書ヲ檢閲シ寫ト對照シ其ノ正否
 - 三、履歷書ノ正否
 - 四、性質業行ノ正否
 - 五、前科ノ有無並其種類
 - 六、其他許否上參考スヘキ事項
- 按摩術營業者ヨリ提出セル同取締規則附則第三項ニ依ル免許鑑札下附願書ニ對シテハ前項ノ外本則施行ノ際現ニ業務ヲ營ミ居タルヤ否ヲ審査スヘシ
- 第二條 按摩術並鍼術、灸術營業者名簿ハ附錄樣式ニ據リ調製シ各口座ヲ施シ其異動アル毎ニ之ヲ整理スヘシ
- 第三條 按摩術營業取締規則第九條及鍼術、灸術營業取締規則第十一條ニ依リ處分ノ必要ヲ認メタルトキハ其事由ヲ具シ詳細内申スヘシ
- 第四條 按摩術營業取締規則施行細則第三條及鍼術、灸術營業取締規則施行細則第三條ノ届出ヲ受理シタルトキハ其旨前住地ノ警察官署ニ通知スヘシ

第五條 按摩術營業取締規則施行細則第六條及鍼術、灸術營業取締規則施行細則第七條ニ依リ免許鑑札ノ提出ヲ受ケタルトキハ營業免許ノ取消處分ニ對シテハ直ニ知事ニ進達シ停止ノ場合ハ之ヲ領置シ期間滿了ノ時處分ノ事實ヲ裏書シテ還付スヘシ

附錄樣式 (用紙美濃紙)

鑑札ヲ得タル事由	鑑札下附年月日	明治 年 月 日	籍本	籍族
鑑札番號	第 號	所 住	日 月 年 生 名 氏	
異動記事				

●按摩術鍼術灸術試驗委員組織權限

(大正四年一月)
(訓令乙第三號)

第一條 按摩術、鍼術、灸術試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 委員長 一名
- 一 委員 若干名

第十一編 警察 第八章 衛生 第四款 按摩、鍼灸、入拔齒、接骨

●按摩術、鍼術、灸術試驗規則

(大正四年一月十八日)
(縣令第二號)

按摩術、鍼術、灸術試驗規則左ノ通相定ム

- 一 書記 一名
- 第二條 委員長ハ警察部長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ技師、警察醫、警部、縣立病院醫員ヨリ任用スル者ノ外按摩術、鍼術灸術等ノ専門家中ニ於テ之ヲ囑託スルモノトス
- 第三條 専門家タル委員ハ試驗施行ノ都度之ヲ囑託スルモノトス
- 第四條 委員長ハ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ委員ハ試驗ノ成績ヲ審査シ書記ハ庶務ニ從事ス
- 第五條 委員長ハ試驗期三日迄ニ試験問題ヲ編製シ知事ノ決裁ヲ受クヘシ
- 第六條 試験ハ各滿點ヲ百點トシ各科四十點以上平均六十點以上ヲ得タル者ヲ以テ合格トス
- 第七條 委員長ハ試験終了後三日以内ニ各受験者ノ成績ヲ調査シ知事ニ報告スヘシ

西曆 大正一〇年二月縣令第四號改正

按摩術、鍼術、灸術試験規則

第一條 按摩術、鍼術、灸術試験ハ毎年一回以上之ヲ施行ス
 第二條 試験ヲ受ケムトスル者ハ各術試験ノ種類（按摩術ニ在リテハ甲種又ハ乙種ノ區別）ヲ記シタテ願書ニ醫師ノ健康證明書、修業證書、履歷書及戸籍謄本若ハ抄本ヲ添ヘ試験期日十日前迄ニ知事ニ提出スヘシ

第三條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ試験ヲ受ケルコトヲ得ス
 一、精神病者又ハ傳染性疾患アル者若ハ素行不良ト認ムル者
 二、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ改悛ノ情顯著ナル者ハ此ノ限ニ在ラス
 三、禁治産者、聾者、啞者又ハ年齢十五歳未滿ノ者
 四、公安、風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル者

第四條 試験ハ左ノ順序ニ依ルモノトス

- 第一、體 格
 - 第二、學 說
 - 第三、實 地
- 學說試験ハ體格検査ニ合格シ實地試験ハ學說試験ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ

第五條 按摩術試験ハ左記標準ニ依リ之ヲ施行ス但シ乙種試験ハ實地ヲ主トシ學術ハ簡易ナル試問ニ止ムルモノトス

- 一、人體ノ構造及主要器官ノ機能
- 人體ノ骨格、筋、臟器ノ構造概要及筋、臟器ニ於ケル血管神經ノ分布、神經ノ中樞並腦脊髓神經ノ機能及血行、呼吸、營養、排泄、五管、生殖及妊娠等ノ生理
- 二、按摩方式及身體各部ノ按摩術
 按摩ノ方式、（マッサージ術ヲ含ム）應用概則及頭、首、咽喉、胸、背、腹部、腰部、四肢等ノ按摩術要項並按摩術ノ效用、適應症、禁忌症其ノ他施術上ノ注意
- 三、消毒法大意
- 消毒ノ意義、消毒藥ノ種類及消毒ノ方法
- 四、按摩術ノ實地（マツサージ術ヲ含ム）
 頭、首、咽喉、胸、背、腹部、腰部、四肢等ノ身體各部ニ於ケル按摩術ノ實地
- 柔道整復術ノ試験ハ左ノ各號ニ依ル
- 一、人體ノ構造及主要器官ノ機能
- 二、柔道整復術ノ方式及身體各部ノ柔道整復術
- 三、消毒法大意
- 四、柔道整復術ノ實地

第六條 鍼術、灸術試験ハ左記標準ニ依リ之ヲ施行ス

一、人體ノ構造及主要器官ノ機能並筋ト神經、脈管ノ關係
 本則第五條第一項第一號ニ依ルノ外身體各部ノ筋、臟器ト神經、脈管ノ關係

二、身體各部ノ刺鍼法又ハ灸點法並經穴及禁穴

鍼術ニ在リテハ身體各部ノ刺方灸術ニ在リテハ身體各部ノ灸點法並經穴、禁穴ノ位置、名稱及筋、神經脈管、臟器等トノ關係、鍼灸術ノ適應症、禁忌症其ノ他施術上ノ注意

三、消毒法大意

消毒ノ意義、消毒藥ノ種類、鍼、手指及手術局部ノ消毒方法、順序

四、鍼術又ハ灸術ノ實地

身體各部ノ刺鍼又ハ灸點ノ實地

第七條 試験問題ハ各科二問以上ヲ課スルモノトス

第八條 按摩術、鍼術、灸術試験ニ合格シタル者ニハ合格證書（別紙様式）ヲ付與ス

第九條 一科目ノ試験ニ缺席シタル者ハ後ノ科目ニ對シ試験ヲ行ハサルモノトス

第十條 試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其ノ試験ヲ無効トス若シ己ニ合格證書ヲ附與シタル者ハ其ノ合格證書ヲ無効トス

第十一條 受験人心得ハ別ニ之ヲ定ム用紙ハ鳥ノ子ニ別紙様式 縦八寸五分

合格證書	族 籍
氏 名	年 月 日 生
按 摩 術 (鍼術又ハ灸術) (學說) 試験ニ合格シタルコトヲ證ス	年 月 日
知 事 印	

●按摩術、鍼術、灸術試験受験人心得

(大正四年一月十八日)
 (告示第八號)

按摩術、鍼術、灸術試験受験人心得左ノ通相定ム
 按摩術、鍼術、灸術、灸術試験受験人心得
 第一條 受験人ハ試験係員ノ指揮命令ヲ遵守スヘシ

- 第二條 試驗當日ハ定刻三十分前試驗場ニ出頭スヘシ但シ病氣其他ノ事故ニ依リ當日出頭シ難キ場合ハ前日マテニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第三條 受験人ハ試験係員ヨリ番號札ノ交付ヲ受ケ控所ニ集合スヘシ
- 第四條 番號札ノ交付ヲ受ケサル者及試験開始後到着シタル者ハ試験場内ニ入ルヲ許サス
- 第五條 受験人ハ豫メ交付ヲ受ケタル番號札ニ依リ順次著席スヘシ
- 第六條 試験ハ午前第九時ニ開始シ午後第四時ニ閉止ス但シ時宜ニ依リ時間ノ變更ヲ行フコト在ルヘシ
- 第七條 受験人ハ受験ニ要スル筆、墨、點字器具ノ外書籍其ノ他總テ書類ヲ携帯入場スヘカラス
- 第八條 試験場内ニ在リテハ専ラ靜肅ヲ旨トシ私語、談笑、喫烟等ナスヘカラス
- 第九條 受験中ハ許可ヲ受ケタルニ非ラサレハ其ノ席ヲ離ル、コトヲ得ス
- 第十條 學術試験ノ答案ハ筆答トシ實地試験ハ口答トス
- 第十一條 答案ハ配布ヲ受ケタル用紙ニ片假名交リ文ヲ以テ明瞭ニ記載スヘシ但シ盲人ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 答案ニハ自己ノ番號ヲ記シ氏名其ノ他ノ符號ヲ記載スヘカラス

第十三條 答案ハ受験時間盡クレハ直ニ擱筆スヘシ

第十四條 本規程ニ違背シ又ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ退場ヲ命スルコト在ルヘシ

●入齒拔齒口中療治接骨營業取締規則

規則

(明治十八年七月二十四日) (布達甲第六十四號)

明治二十四年四月縣令第四一號、二七年四月第二八號、四二年二月第二八號改正

入齒拔齒口中療治接骨營業取締規則別紙ノ通相定ム
右布達候事

入齒拔齒口中療治接骨營業取締規則

- 第一條 入齒、拔齒、口中療治、接骨ハ從前營業ノモノニ限リ今後仍ホ此規則ニ從テ營業スルコトヲ許スヘシ但以後新規營業ヲ許サス
- 第二條 前條營業ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ從前營業ノ履歷ヲ具シ縣廳ニ願出テ免許證札ヲ受ケ營業ノ爲メ居室ヲ出ツ

ルトキハ之ヲ携帯ス可シ

廢業又ハ他府縣へ移轉シタルトキハ十日已内ニ證札ヲ返納スヘシ但本人死亡シタルトキハ其家人若クハ親族ノ者ヨリ返納スヘシ

第三條 免許證札ハ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコトヲ得ス

第四條 水火盜難又ハ過誤ニ依リ證札ヲ毀損亡失シタルトキハ其事由ヲ具シ十日已内ニ更ニ證札ノ下付ヲ請フヘシ
轉籍又ハ改姓名等ニ由リ證札面ニ變更ヲ生シタルトキハ十日已内ニ證札書換ヲ請フヘシ但寄留ハ書換ヲ要セスト雖モ寄留後十日已内ニ縣廳へ届出ヘシ

第五條 他府縣ニ於テ免許ヲ得タル者當縣下ニ移轉シテ仍ホ其營業ヲ爲サントスルトキハ原管廳ノ證明書ヲ添へ當廳ニ願出テ免許證札ヲ受クヘシ

第六條 施術上如何ナル場合ト雖モ受療者ニ内服藥ヲ與フルコトヲ許サス且外用藥ト雖モ明治二十二年內務省令第五號ニ掲クル毒劇藥ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七條 左ノ各號ニ該當スルトキハ其業務ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
一 本則ニ違背シタルトキ

一 業務上不正ノ行爲アリ必要ト認メタルトキ

第八條 此規則ニ依リ縣廳ニ差出ス願書届書ハ純テ管轄警察官署ヲ經由スヘシ

第九條 本則第二條乃至第六條ニ違背シタル者ハ貳拾圓未満ノ科料ニ處ス

附則

本則第二條ニ依リ營業免許ヲ得ント欲スルモノハ本年九月三十日迄ニ管轄郡役所ヲ經テ願出ヘシ此期日ヲ過ルトキハ一切之ヲ免許セス

庶務部

第八條 內科部、外科部、眼科部、產科婦人科部、耳鼻咽喉科部、小兒科部、皮膚科花柳病科部ニ於テハ患者ノ診察治療ニ關スル事項ヲ掌理ス

第九條 調劑部ニ於テハ製藥調劑ニ關スル事項ヲ掌理ス

第十條 庶務部ニ於テハ庶務會計ニ關スル事項ヲ掌理ス

第十一條 部長ハ管掌ノ事務ヲ處辨シ所屬部員ヲ指揮監督ス

第十二條 部長事故アルトキハ上席部員其職務ヲ代理ス

第十三條 醫員ハ各其所屬部其主務ニ從事ス

第十四條 調劑員ハ調劑部ニ屬シ其主務ニ從事ス

第十五條 事務員ハ庶務部ニ屬シ其主務ニ從事ス

山梨縣病院診療規程

(大正十年三月二日) 告示第四十五號

大正十一年六月告示第九一號改正

明治二十八年三月三日 山梨縣告示第二十八號 山梨縣病院診療規程左ノ通改正シ大正十年三月七日ヨリ之ヲ施行ス

山梨縣病院診療規程

第一條 本院ハ內科、外科、眼科、產科婦人科、耳鼻咽喉科、

小兒科、皮膚病科、花柳病科等諸般ノ患者ヲ診療スル所トス

第二條 外來患者ノ診察時間ハ左ノ如シ但シ急症重症等ハ此ノ限ニアラス

診察時間

自四月一日至六月三十日午前八時ヨリ正午迄

自七月一日至八月三十一日午前七時ヨリ正午迄

自九月一日至十月十五日午前八時ヨリ正午迄

自十月十六日至三月三十一日午前九時ヨリ正午迄

第三條 重症患者ニシテ參院シ難ク往診ヲ請フトキハ其ノ求ニ應ス

往診ハ毎日午後ヨリトス但シ急症患者ハ此ノ限ニアラス

第四條 入院治療ヲ請フ者アルトキハ一應診察ノ上之ヲ承認シ左記區別ニ依リ保證金ヲ納メシム但シ保證金ハ退院ノトキ還付スルモノトス

一等入院 金參拾圓

二等入院 金貳拾圓

三等入院 金拾圓

入院ノ豫定日數三日ヲ踰エサル見込ノ者ハ場合ニ依リ保證金ヲ徵セサルコトアルヘシ

山梨縣病院諸收入定則

山梨縣病院諸收入定則

(大正五年二月二十九日) 縣令第五號

大正七年八月縣令第四八號、八年八月第四一號

九年三月第一八號、一〇年三月第二〇號、一五年四月第一四號改正

山梨縣病院諸收入定則左ノ通相定メ大正五年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

山梨縣病院諸收入定則

一 藥價其ノ他ノ價格左ノ如シ

藥價

內服藥

各種合劑 普通、水劑、煎劑 一日分 金貳拾錢

各種散劑 浸劑、乳劑、紙劑等 同 金貳拾錢

各種丸劑 同 金貳拾錢

各種頓服劑 一回分 金拾錢

外用藥 四百グラ 金貳拾錢

吸入劑 同 金貳拾錢

電法劑 同 金貳拾錢

含嗽劑 同 金貳拾錢

病舎滿員ノトキ又ハ治療上入院ヲ要セスト認メタルトキ若ハ「ペスト」虎列刺ノ如キ病症ニ在リテハ實際ヲ謝絶スルコトアルヘシ

入院患者ニ對シ必要アル場合ハ身元引受人ヲ定メシムルコトアルヘシ

第五條 入院患者ノ付添ヲ爲サルトスル者アルトキハ一患者ニ就キ二人以下ヲ限り之ヲ許容ス但シ付添人ニ關スル費用ハ自辨タルヘシ

第六條 入院患者ノ諸費ハ毎週日曜日ヨリ土曜日マテノ分ヲ其ノ翌週火曜日ニ納入セシメ退院者及外來患者ノ諸費ハ其ノ都度納入セシムルモノトス

第七條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ治療豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ救療ス

一 公費其ノ他救療ノ途ナキニ至リ市町村長又ハ警察官署長ノ證明ヲ有スル者

二 學術研究ノ資料トナルヘキ者

三 貧困者ニシテ急救治療ヲ要シ若ハ特別ノ事情アル者

第一號ニ該當スル者入院ヲ志望スルトキハ前日午前中ニ院長ノ承認ヲ受クヘシ但シ滿員ノ場合ハ入院ヲ拒絶スルコトアルヘシ

灌腸劑	同	金貳拾錢
洗滌劑	同	金貳拾錢
消毒劑	五百グラ	金貳拾錢
各種點眼點耳點鼻劑	十グラ	金貳拾錢
各種膏藥	十グラ	金貳拾錢
散布及塗布劑	十グラ	金貳拾錢
各種座藥	一箇	金拾錢
塗擦劑	五百グラ	金拾錢
浴湯劑	一回分	金貳拾錢
診察料	金壹圓	但ニヶ月間有效トス
レントゲン	一回	金壹圓以上
診察料	一回	金壹圓以上
レントゲン	一回	金壹圓以上
寫真料	一回	金貳拾錢以上
手術料	一回	金百圓以上
處置料	同	金貳圓以上
但シ分娩處置料ハ金貳拾圓以下トス		
特殊療治料	一回	金參拾錢以上
電氣浴等	一回	金五圓以下

防腐劑注入料	同	金五圓以上
諸検査料	同	金參拾圓以下
消毒料	一人	金拾圓以上
處方箋料	一通	金五圓以下
普通診斷書料	同	金貳圓
特殊診斷書料	同	金壹圓以上
及證明書料	同	金五圓以下
診斷書及證明書ハ同一ノモノヲ同時ニ二通以上ヲ要スル場合ハ一通ノ外毎通半額トス		
鑑定及檢案書料	一通	金五拾錢以上
體格検査料	同	金貳圓
入院料	同	同
壹等	一人一日	普通病
貳等	同	普通病
參等	同	普通病
療用品代	同	普通病
藥品容器代	同	普通病

但シ特別高價ノモノヲ要スルトキハ此ノ制限ニ拘ラズ相當ノ料金ヲ徴收ス

往診料	所要一時間迄	博士 金六圓
		部長 金四圓
		醫員 金貳圓
一時間ヲ超ユル場合ハ一時間博士金六圓、部長金四圓、醫員金貳圓ノ割合ヲ以テ増加スルモノトス		
車馬賃ハ患者ノ負擔トス		
附添看護料	一日	金五拾錢以上
附添人臥具貸渡料	一枚一夜	金五圓以上
附添人賄料	一食	金五拾錢
甲等	同	金參拾錢
乙等	同	同
菜	一皿	金五錢以上
飯	一食	金五錢以上
牛乳	一合	金五錢以上

- スリーブ其ノ他 實費
- 入院料ニハ普通藥價金參拾錢以下ノ小手術、小處置料及賄費ハ之ヲ含有ス但特別高價ナル藥品若ハ多料ノ藥劑ヲ要スルカ又ハ大中手術處置及特別ノ治療ヲ要スルモノヨリ入院料ノ外ニ相當ノ料額ヲ徴收ス
 - 入院料ハ入院及退院ノ當日ハ各一日ニ計算ス
 - 藥價中特別高價ノ藥品ヲ配伍スルモノハ定價ニ拘ハラズ相當ノ料額ヲ徴收ス
 - 體格検査中本縣巡查並ニ縣立學校生徒志願者ハ一人ニ付金拾錢、鐵道從事員ハ金貳拾錢ヲ徴收ス
 - 本縣巡查、縣立學校生徒、看守及鐵道從事員ノ普通診斷書及證明書ハ無料トス
 - 本縣巡查、縣立學校生徒、看守及鐵道從事員ノ藥價、手術料、處置料及入院料ハ定價ノ二割減トス
 - 各種膏藥、散布、塗布、洗滌及浴湯劑ニシテ一回ニ多量ノ使用ヲ爲ス場合ハ相當減額スルコトアルヘシ
 - 入院患者ニシテ煽風器其ノ他電流ノ供給ヲ受ケントスルトキハ相當ノ料金ヲ徴收シ其ノ需ニ應スルコトアルヘシ
 - 恩賜財團濟生會及日本赤十字社委託患者ニ關シテハ各其ノ所定ノ額ニ依リ徴收ス

●山梨縣病院看護婦產婆養成規則

(大正八年二月二十七日)
(縣令第十一號)

附則 大正九年一月縣令第五號、一〇年四月同第二五號、昭和二年三月同第一五號改正

山梨縣病院看護婦產婆養成所規則左ノ通改正ス

山梨縣病院看護婦產婆養成規則

第一條 山梨縣病院內ニ看護婦產婆養成所ヲ設置ス

第二條 看護婦產婆養成所ハ看護婦產婆ニ須要ナル學科及技術ヲ授ク且實務ヲ練習セシムル所トス

第三條 看護婦產婆養成所ニ左ノ職員ヲ置ク

一、所長 一人

二、講師 若干人

三、書記 一人

四、舍監 一人

五、生徒取締 二人

所長ハ山梨縣病院院長、講師ハ同院職員及囑託員ヲ以テ之ニ充テ書記舍監及生徒取締ハ同院事務員又ハ同院雇員ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 所長ハ所務ヲ統理シ職員ヲ指揮監督ス

第五條 講師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ教務ニ從事ス

第六條 書記ハ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 舍監ハ所長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ノ取締ニ任ス

第八條 生徒取締ハ所長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ品行其ノ他總テ身上ヲ監督ス

第九條 生徒ノ修業期限ハ看護婦產婆トモ各二ケ年トシ毎年四月ニ授業ヲ開始ス

看護婦又ハ產婆ノ資格ヲ有シ更ニ他ノ學科ヲ修メムトスル者ニシテ當養成所一學年修業程度ノ試験ニ合格スルトキハ直ニ二學年ニ入學セシムルコトアルヘシ

第十條 年中休暇日左ノ如シ

一、祝日

二、大祭日

三、日曜日

但シ休暇日ト雖モ實務ヲ練習セシムルコトアルヘシ

第十一條 教授科目ハ左ノ如シ

產婆學科

一、修身

二、國語作文

三、解剖學

一〇、患者運搬法

一一、衛生學

一二、調劑學

一三、マツサイジ術

一四、諸法規大意(傳染病豫防法、消毒方法)

一五、作法及禮式等

第十二條 入學試験ハ毎年三月山梨縣病院內ニ於テ之ヲ行フ

其ノ日時ハ豫メ之ヲ告示ス

第十三條 入學セシムヘキ生徒ノ定員ハ毎回各科二十人以内トス

第十四條 入學志願者ハ第一號様式ノ願書ニ第二號様式ノ履歴書ヲ添ヘ所長ニ差出スヘシ

第十五條 本縣內ニ住所ヲ有シ且ツ左ノ資格ヲ具スル者ニアラサレハ入學スルコトヲ得ス

一、年齡滿十五歲以上四十歲未滿ノ女子ニシテ身體強健品行方正ナル者

二、高等小學校卒業又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者但シ後者ニ在リテハ試験ヲ行フ

三、看護婦產婆ノ業務ニ關スル罪ヲ犯シ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第十一編 警察 第八章 衛生 第五款 病院

四、生理學

五、衛生學

六、器械學

七、救急處置法

八、產婆學

九、マツサイジ術

一〇、治療介補、手術介補及消毒法

一一、模型並實地演習

一二、諸法規大意(傳染病豫防法、消毒方法)

一三、作法及禮式

看護婦學科

一、修身

二、國語作文

三、解剖學

四、生理學

五、看護法

六、治療介補、手術介補及消毒法

七、縫帶學及器械學

八、救急處置法

九、傳染病學

第十六條 所長ハ體格検査ヲ行ヒ合格者ニ限り入學ヲ許可スヘシ但シ合格者定員ヲ超過スルトキハ國語作文算術ニ就キ選拔試験ヲ行フモノトス

前項ニ依リ入學ヲ許可シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ直チニ知事ニ報告スヘシ

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ五日以内ニ保證人ヲ定メ第三號様式ノ誓約證ヲ所長ニ差出スヘシ

前項ノ保證人ハ本縣内ニ於テ一家計ヲ立ツル成年者ニシテ保證ノ責ニ任シ得ヘキ者タルヲ要ス但シ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ變更セシムルコトアルヘシ

第十八條 保證人管外ニ轉居其ノ他ノ事由ノ爲メ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ直チニ其旨ヲ届出同時ニ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 生徒又ハ保證人ノ本籍、住所、族籍身分氏名等ニ異動ヲ生シタルトキハ直チニ所長ニ届出ツヘシ

第二十條 生徒ハ總テ之ヲ寄宿舎ニ入ラシメ通學ヲ許サス
第二十一條 生徒歸省又ハ外泊セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上所長ニ願出許可ヲ受クヘシ但シ特別ノ事情ニ依リ連署ヲ得ルノ違ナキトキハ此ノ限ニ在ラス
第二十二條 生徒缺席セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證

人連署ノ上豫メ所長ニ届出ヘシ但シ病氣ノ爲メ引續キ七日以上缺席ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ附添スヘシ
第二十三條 生徒退學セムトスルトキハ其事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ所長ニ願出許可ヲ受クヘシ
第二十四條 所長ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノニ對シ退學ヲ命スルコトヲ得
一、傷疾、疾病ノ爲メ又ハ課業成績不頁ニシテ成業ノ見込ナキ者
二、性行不頁ニシテ生徒タル本分ニ背戾シ毫モ改悛ノ見込ナキ者
三、正當ノ事由ナクシテ七日以上引續キ缺席シタル者
前項ニ依リ退學ヲ命シタルトキハ其ノ狀ヲ具シ直チニ知事ニ報告スヘシ
第二十五條 前條ニ依リ退學ヲ命セラレタル者ニシテ第二、第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二十九條ノ食費其他ヲ辨償セシムルコトアルヘシ
第二十六條 課程ノ終了ヲ認ムルニハ平素ノ成績操行及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム但シ所定ノ學科竝ニ實務練習授業時中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ者ハ進級若ハ卒業セシメサルモノトス

第二十七條 試験ヲ分チテ學期試験及卒業試験ノ二種トス

學期試験ハ修業時間内ニ二回以上之ヲ行ヒ卒業試験ハ修業ノ終リニ於テ之ヲ行フ

卒業試験ニ及第シタル者ニハ第四號様式ノ卒業證書ヲ授與ス

第二十八條 卒業試験ノ成績優長ナルモノニ對シテハ第五號様式ノ優等證書ヲ授與ス

第二十九條 生徒ニハ在學中必要ノ書籍及食事を支給ス但シ第九條第二項ニ依リ入學シタル生徒ハ此ノ限ニアラス

第三十條 生徒卒業ノ上ハ其ノ修業年限同一ノ期間内山梨縣病院ニ就職スル義務アルモノトス但シ一學科修了後引續キ他ノ學科ヲ修メタル者ハ最後卒業ノ時ヨリ二箇年トス

前項義務年限内又ハ在學中自己ノ便宜ヲ以テ退職スルモノニ對シテハ前條ノ食費其ノ他ヲ辨償セシム但シ第九條第二項ニ依リ二學科ヲ修了シタル者ハ其ノ義務ヲ免除ス

第三十一條 本所ヲ卒業シタル者本縣内ニ於テ看護婦ノ業ヲ營ムトキハ知事ノ指定シタル看護婦組合ニ加入スルノ義務アルモノトス

第三十二條 本則施行上必要ナル事項ハ所長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

附則

本則ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際在所スル生徒ハ本則第二十九條第三十條ノ規程ニ依ラサルコトヲ得

○昭和二年縣令第十五號附則

本則第三十條第一項ノ規定ハ昭和二年四月以降入學者ヨリ之ヲ準用ス

第一號様式

入學願

本籍	府縣	郡市	番地
住所	府縣	郡市	番地
族籍	某長女(姉、妹、姪)		
志望學科何々	氏名	年月日生	

右ハ今般貴所ニ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歴書及戶籍謄本相添此段相願候也

年月日 氏名

山梨縣病院看護婦產婆養成所長氏名殿

第二號様式

履歷書

族籍

氏名

年月日生

學事

一、何年何月何日何學校卒業

一、何年何月何日何學校入學何年何月何日家事ノ都合ニ依リ退學

職業

一、何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何々

賞罰

一、何年何月何日何々ニ依リ何々ヲ賞與セラル又ハ罰セラル

右ノ通り相違無之候也

年月日

氏名

名印

第三號様式

誓約證

本籍 府縣

郡市

番地

住所 府縣

郡市

番地

族籍 某長女(次女)(姉・妹・姪)

族籍

氏名

年月日生

卒業試験ノ成績優等ナルコトヲ證ス

年月日

氏名

名印

●私立病院取締規則

(大正七年一月十日 縣令第一號)

大正九年一月縣令第二號改正

私立病院取締規則左ノ通定ム

私立病院取締規則

第一條 私立病院(以下單ニ病院ト稱ス)ヲ設立セムトスル者

ハ左記各號ヲ具シ知事ニ願出テ許可ヲ受クヘシ第三號以下ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一、本籍住所氏名生年月日

二、法人ニ在リテハ其ノ定款又ハ寄附行爲ノ寫

三、病院ノ名稱、專門科名

四、設置ノ場所及敷地坪數

五、敷地内建物ノ位置及其ノ坪數並各建物ノ距離病室間取

ヲ見得ヘキ圖面

氏名

年月日生

右貴所ニ入學御許可相成候上ハ御規則堅ク可相守ハ勿論一

身上ニ關スル事故ハ保證人ニ於テ一切引受ク可申以連署此

段誓約仕候也

年月日

右

氏名

名印

本籍 住所

保證人 氏名

名印

山梨縣病院看護婦產婆養成所長氏名殿

第四號様式 (用紙鳥ノ子)

第 號

卒業證書

族籍

氏名

名印

年月日生

右本所規定ノ看護婦(產婆)學科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ

仍テ茲ニ之ヲ證ス

第五號様式 (用紙奉書四ツ切)

所長位勳 氏名

名印

六、構造仕様書及設計書

七、火災其他非常時ニ於ケル患者救護ノ方法

八、用水ノ區別及其ノ位置並水質試驗成績書

九、院則並入院患者ノ定員

十、職員ノ名稱及其ノ員數

十一、工事落成期日

第二條 設立者ハ管理人ヲ選任シ病院ニ關スル一切ノ事項ヲ

管理セシムルコトヲ得

前項ノ管理人ヲ選任シタルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ之

ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三條 病院ノ構造設備ハ左ノ各號ニ據ルヘシ但シ石煉瓦其

ノ他不燃質ノ材料ヲ以テ建設スルモノ又ハ土地ノ狀況ニ依

リ本條ノ規定ニ據リ難キモノハ之ヲ斟酌スルコトアルヘシ

一、建物ハ平家又ハ二階建トシ其ノ屋根ハ不燃質ノ材料ヲ

以テ覆葺スルコト

二、病室ハ其ノ周圍ニ三間以上ノ空地ヲ存シ二棟以上ノ病

室又ハ病室ト他ノ建物ヲ並列シテ建設スルトキハ相互

ノ距離ヲ建物ノ高さニ比例シ一倍以上タラシムルコト

但シ建物ニシテ高低アルトキハ一方ノ高キニ據リ算定

- 三、病室ハ床ノ高サヲ地盤ヨリ一尺八寸以上トシ天井ハ床上八尺以上ト爲スコト
- 四、病室ニハ採光換氣ノ爲メ適當ノ窓ヲ設クルコト
- 五、病室ノ廣サハ患者一人ニ付一坪半以上ノ割合トナスコト但シ一室ニ二人ヲ收容スルモノニ在リテハ二坪以上トス
- 六、病室ノ廊下ハ幅員四尺五寸以上ト爲スコト但シ中廊下ナルトキハ其ノ幅員六尺以上トス
- 七、病室ノ階段ハ其ノ幅員ヲ四尺五寸以上傾斜三十五度以下踏面八寸以上蹴上六寸以下トシ堅牢ナル手摺ヲ付スルコト但シ二階病室ニシテ患者十人以上ヲ收容スルモノハ二箇所以上ニ階段ヲ設クルコト
- 八、病室ノ保温裝置及燈火設備ハ危險ノ虞ナキ裝置ヲ爲スコト
- 九、病室及外牆ニハ適當ナル非常口ヲ設ケ其ノ扉ハ外開キト爲スコト
- 十、消火栓又ハ消火器ヲ備フルコト
- 十一、排水溝ハ石煉瓦土管セメント「コンクリート」漆喰敲ノ類ヲ以テ構造シ適當ノ勾配ヲ付シ汚水排泄ニ便ナラシムルコト

盤ハ不透過質ノ材料ヲ以テ築造スルコト

- 五、消毒所ノ建物ハ未消毒物置場、消毒室、洗濯所、既消毒物置場ニ區劃スルコト
- 六、什器隊具便器豫防衣消毒器具防蠅具ノ類ハ専用トスルコト

第五條 傳染病室ノ管理ニ關シテハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

- 一、傳染病患者ニアラサル者ヲ收容セサルコト
- 二、異種ノ傳染病患者ヲ同一室内ニ收容セサルコト
- 三、病室ニハ一定ノ看護婦ヲ置クコト
- 四、病室ニハ醫師看護婦付添人ノ外濫リニ交通セシメサルコト
- 五、病室ニ入ル者ニハ白色ノ豫防衣ヲ著セシムルコト
- 六、患者ニ接觸シ又ハ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ取扱ヒタル者ハ消毒ヲ行フニ非サルハ他ニ交通セシメサルコト
- 七、病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品又ハ汚水糞便其ノ他ノ排泄物ハ消毒ヲ行ヒタル後ニ非サルハ搬出セシメサルコト

第六條 第一條ノ許可ヲ受ケタル工事落成シタルトキハ知事ニ届出テ使用ノ認可ヲ受クヘシ

- 十二、汚水溜及汚物溜ハ不透過質ノ材料ヲ以テ衛生上障害トナラサル場所ニ之ヲ設ケ其ノ周邊ハ地盤ヨリ高サ五寸以上ト爲シ臭氣ノ發散ヲ防クニ足ルヘキ裝置ヲ爲スコト
- 十三、便所ノ蓋池ハ内外ニ釉藥ヲ施シタル甕又ハ不透過質ノ材料ヲ以テ築造シ其ノ周邊ハ漏斗狀ニシテ厚サ二寸以上ノ「コンクリート」若クハ漆喰敲ト爲シ適當ノ臭氣抜ヲ設クルコト
- 十四、浴場及炊事場ノ火焚場周圍ハ不燃質物ヲ用キテ危險ノ虞ナカラシムルコト

第四條 傳染病豫防法第一條ノ傳染病及其ノ疑似症患者ヲ收容スル病室ノ構造設備ハ前條ニ據ルノ外尙左ノ各號ニ據ルヘシ

- 一、傳染病室ハ別棟ト爲シ他ノ建物トノ間ニ高サ六尺以上ノ牆壁ヲ設クルコト
- 二、傳染病室ハ平家建トナスコト
- 三、傳染病室ノ床下及消毒所ノ地盤ハ厚サ二寸以上ノ「コンクリート」若クハ漆喰敲ト爲シ其ノ床板ハ消毒洗滌ニ便ナラシムルコト
- 四、傳染病室専用ノ浴室及便所ヲ設クルコト但シ浴室ノ地

第七條 病院ニハ專屬ノ醫師二名以上藥劑師一名以上ヲ置クヘシ但シ患者定員二十名以下ノ病院ニ在リテハ藥劑師ヲ置カサルコトヲ得

第八條 醫師ノ診察所治療所若ハ其ノ出張所ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルニアラサルハ病院ノ名稱ヲ用キ又ハ患者ヲ收容スルコトヲ得ス但シ患者三名以下ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 傳染病室ノ設備ナキ病院ニ在リテハ傳染病患者ヲ收容スルコトヲ得ス但シ所轄警察官署ノ承認ヲ受ケテ假リニ之ヲ收容スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ據ル病室ノ管理ニ關シテハ第五條ヲ準用ス

第十條 左ノ各號ハ病院開始前知事ニ届出ツヘシ

- 一、職員ノ本籍住所氏名及履歷
- 二、入院料診察料手術料藥價等ニ關スル規程
- 第十一條 相續又ハ讓渡ニ依リ病院ヲ繼承シタル者ハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ但シ讓渡ノ場合ニ在リテハ當事者ノ連署ヲ要ス
- 第十二條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以内ニ知事ニ届出ツヘシ但シ第二號ノ届出ハ戸主家族又ハ同居人ヨリ第六號ノ届出ハ精算人ヨリ之ヲ爲スヘシ

キハ隨時巡查部長以上ヲシテ設立者又ハ管理人ヲ立會セ巡視スヘシ

第九條 病院並ニ其ノ職員ハ別紙様式簿冊ニ登載整理スヘシ規則施行ノ際現存セル病院ハ此際調査ヲ遂ゲ前項簿冊ニ登載スヘシ

(一) 病院臺帳

設置場所及敷地坪數	名稱	設立者 本籍住 所氏名 生年月 日	許可年月日	指令番號	病室數		入院患者數	
					普通病	傳染病	普通病	傳染病
					管理人 本籍住 所氏名 生年月 日 立許 可年月 日			

備考	繼承年月日	工事變更許可年月日及其ノ事項	休業年月日	廢止年月日	使用ノ制限變更、改修、許可取消、治療停止年月日及其事由概要

(二) 職員名簿

屆出年月日	解任年月日	職名	本籍氏名	生年月日

第六款 健康診斷

● 娼妓健康診斷施行規則

(明治三十三年十月二十日) 縣令第四十九號

附則 明治四十二年二月縣令第三一號改正

娼妓健康診斷施行規則左ノ通定ム

娼妓健康診斷施行規則

第一條 娼妓ハ其寄寓貸座敷所在地ノ検査所ニ於テ本則ニ從ヒ検査醫員ノ健康診斷ヲ受クヘシ

第二條 健康診斷ヲ分チテ定日及臨時ノ二種トス

第三條 定日健康診斷ハ每週一回土曜日(當日大祭日ナルトキハ其前日)ニ

之ヲ行フ

第四條 臨時健康診斷ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ行フ

- 一 新ニ稼業ニ就カムトスルトキ
- 二 疾病又ハ事故ノ爲メ定日健康診斷ヲ受クル能ハサリシ者疾病治癒又ハ事故止ミテ稼業ニ就カムトスルトキ
- 三 入院シタル者退院セムトスルトキ
- 四 疾病ニ罹リタルコトヲ自覺シタルトキ

第十一編 警察 第八章 衛生 第六款 健康診斷

五 當該官吏又ハ検査醫員ニ於テ必要ト認メタルトキ

第五條 娼妓名簿登錄申請者ハ所轄警察官署ノ指示ニ從ヒ検査醫員ノ健康診斷ヲ受クヘシ

第六條 健康診斷ノ時間ハ午前十時ヨリ午後三時マテトス但時宜ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第七條 寄寓貸座敷ニ在ル者ハ休業中ト雖トモ本則ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘシ

第八條 疾病ノ爲メ定日健康診斷ノ當日検査所ニ出頭シ能ハサル者ハ主治醫ノ診斷書ヲ午前十一時マテニ検査醫員ニ差出シ寄寓貸座敷ニ於テ健康診斷ヲ受クヘシ

第九條 娼妓ハ第一號様式ノ受檢簿ヲ受領シ受檢ノ都度検査醫員ノ健康證印ヲ受クヘシ

第十條 傳染性疾患アリト認メラレタル者ハ直チニ寄寓貸座敷所屬病院ニ入院スヘシ但第八條ノ受檢者ニシテ直チニ入院スルコト能ハスト認メラレタル者ハ其輕快ヲ待テ入院スヘシ

第十一條 寄寓貸座敷所屬病院ヨリ退院セムトスルトキハ院長ニ不在ノトキハ之ノ診斷書ヲ添ヘ検査醫員ニ差出スヘシ

第十二條 本則第九條乃至第十一條ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

第七款 藥品及賣藥

●藥種商並製藥者取締細則

(明治二十三年二月二十五日)
縣令第十一號

明治二十七年四月縣令第二八號改正

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第四十二條ニ依リ藥種商並製藥者取締細則左ノ通相定ム

第一條 藥種商並製藥者取締細則

第一條 藥種商並製藥者ノ免許證札ヲ得ントスル者ハ族籍住所氏名ヲ詳記シ當廳ヘ願出ヘシ

第二條 藥種商並製藥者免許證札ヲ毀損亡失シ又ハ族籍氏名ヲ變換シ證札面ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ其事由ヲ記シ證札ノ再下附又ハ書換テ當廳ヘ願出ヘシ

第三條 藥種商並製藥者廢業若クハ他管下轉住シタルトキハ十日以内ニ其旨届出免許證札ヲ當廳ヘ返納スヘシ
藥種商製藥者死亡シタルトキハ其家人若クハ親族ノ者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 藥種商並製藥者管内ニ於テ轉住シタルトキハ十日以

第十一編 警察 第八章 衛生 第七款 藥品及賣藥

内ニ其旨當廳ヘ届出ヘシ

第五條 藥種商並製藥者支店等ヲ設ケ別所ニ於テ營業セントスルトキハ管理人ヲ定メ當廳ヘ届出ヘシ

第六條 藥種商並製藥者ノ免許ヲ受ケタル者ハ後ニ示ス雛形ニ倣ヒ看板ヲ製シ店頭又ハ見易キ場所ヘ掲ケヘシ

第七條 藥種商並製藥者ハ藥品ヲ醫家用ト醫家用外トニ區別シ置クヘシ

第八條 藥種商ニ於テ一藥品ノ容器又ハ包紙ヲ更ニ數個ニ分チタルトキハ其分チタル容器又ハ包紙ニ自己ノ氏名及ヒ製造者ノ住所氏名若シ其藥品ノ外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名其製造會社ニ係ルモノハ會社所在地名會社名ヲ併記スヘシ

毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キ小分スルヲ得ス

第九條 藥種商ニ於テ數個ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ一定ノ印紙ヲ以テ封緘スヘシ

第十條 藥種商製藥者ニ於テ貼付スル藥品封緘用印紙ノ衛生試驗所検査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 製藥者ハ毎年其製造セシ藥品ノ名稱量數ヲ統計製表シ翌年一月三十一日限リ當廳ヘ差出スヘシ

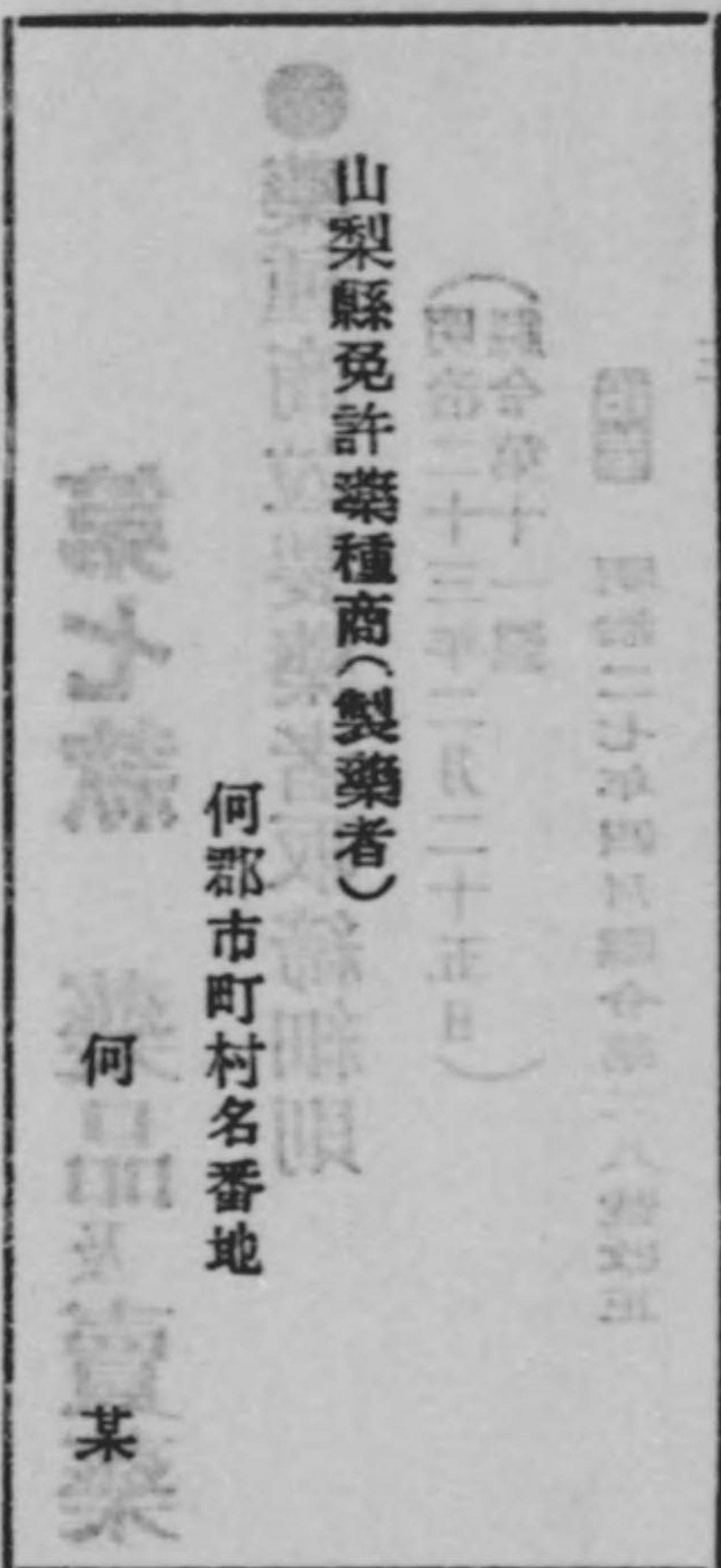
第十二條 本則ニ依リ要スル願屆書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十三條 本則第二條第三條第一項第四條第五條第七條第八條第九條ニ違背シ又ハ第十條ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十四條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營マントスル者ハ本則第一條ノ免許證札ヲ受クルニ及ハスト雖トモ其旨當廳ヘ届出尙第四條第五條第七條第八條第一項第九條第十條第十一條第十二條ヲ遵守スヘシ第十五條 本則施行以前ニ於テ內務省ヨリ製藥免許證ヲ受ケタル者ト雖トモ本則ニ依リ當廳ノ免許證札ヲ受クヘシ

看板雜形 曲尺二尺五寸



寸六尺曲

●藥種商製藥業者出願ノ場合副申ノ件

(明治三十五年一月十六日) (衛第九一號依命通牒)

從來藥種商製藥業者出願アル場合ニ身元取調ヘ副申ノ規定無之爲メ往々照會往復ヲ重ネ自然處理ノ簡捷ヲ缺クノミナラス不適當ノ者ニ營業ヲ許可スルコト有之結果規則違犯者多クテ公衆ニ危害ヲ及ス事跡カラス候ニ付自今右等出願者ニ對シテハ左記事項調査許可ノ意見ヲ附シ副申候様御處理相成度依命此段及通牒候也

左記

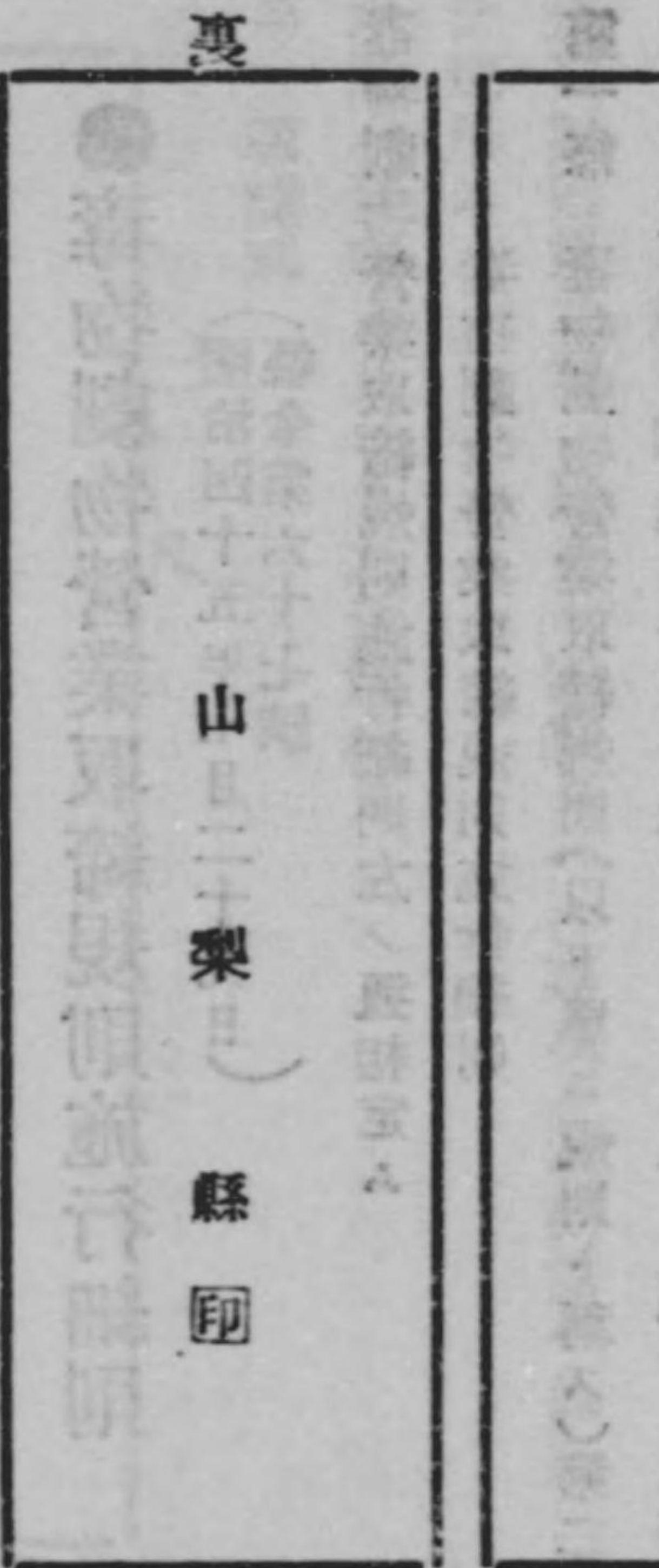
- 一 藥學ヲ學ヒタル事アルカ又ハ藥品ノ名稱及之ニ關スル法規ニ付相當ノ辨識力アリテ營業許可ヲ與フルモ危險ノ虞ナキヤ否
- 二 曾テ調劑若クハ藥品ノ取扱ヲ爲シタル經歷アリテ營業許可ヲ與フルモ危險ノ虞ナキヤ否
- 三 神經性疾患アリ又ハ平素常識ヲ逸スルノ言行アルモノニ非ルヤ否
- 四 出願者未成年ノ場合ニハ法定代理人ノ身上ニ付前各項調査スルコト

●藥品監視員ノ證票樣式

(明治二十六年八月二十八日) 告示第七十二號

明治二十二年三月二十七日 內務省令第四號藥品巡視規則ニ依リ監視員巡視ノ際ハ左ノ證票ヲ携帯ス

表 藥品監視之證



●藥品營業及取扱規則違反者報告樣式

(明治三十八年十一月二十四日) (衛發第二五五號)

衛生課長ヨリ各警察署長(分署長)宛

第十一編 警察 第八章 衛生 第七款 藥品及賣藥

本年藥品巡視施行ノ結果違犯行爲アリタルモノニ對シ左記樣式ニヨリ一ケ年分ヲ取纏メ翌年一月十五日迄ニ報告シ爾後毎年同様御取扱相成度依命此段及通牒候也

(樣式)

藥品營業藥品取扱規則違反表

違反條項	有罪無罪ノ別	罰金額	職業	別住所氏名
調劑錄ニ關スル件有罪	金何圓	藥劑師製藥者、藥種商	何郡何村何之誰	
第十二條 違犯無罪	無罪		醫師病院等	同
第十三條 違犯未決	未決			同
第二十二條 違犯				
第二十六條 違犯				
第二十七條 違犯				
第二十八條 違犯				
第二十九條 違犯				
第三十六條 違犯				
第三十七條 違犯				

計
備考

一 判決未了ノ者ハ有罪無罪ノ別欄ニ記入シ規則違反者中
告發シタルモノノ總數ハ備考ニ記入スヘシ

●毒物劇物營業取締規則施行細則

(明治四十五年七月二十九日)
縣令第六十七號

毒物劇物營業取締規則施行細則左ノ通相定ム

毒物劇物營業取締規則施行細則

第一條 毒物劇物營業取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)第二條
第一項ニ依リ營業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ本籍、
住所、氏名、生年月日、營業所所在地(法人ニ在リテハ其
ノ名稱事務所所在地、代表者ノ氏名)ヲ記シ履歷書(法人ニ
在リテハ定款)ヲ添付スヘシ
規則第二條第二項ニ依ル營業屆書ニ記載スヘキ事項ハ前項
ノ外免狀又ハ鑑札ノ寫ヲ添付スヘシ
第二條 前條ノ出願者ニ對シ必要ト認ムルトキハ試驗ヲ行フ
コトアルヘシ

第三條 規則第三條ノ營業管理人ヲ置カムトスルトキハ願書
ニ管理人トナルヘキ者ノ本籍、住所、氏名、生年月日ヲ記
シタル履歷書ヲ添付スヘシ管理人ヲ變更セントスルトキ亦
同シ

前項ノ管理人ニ對シテハ本則第二條ヲ適用ス
第四條 毒物劇物ヲ取扱フ専用器具ハ他ノ物品ト置場ヲ區別
スヘシ

第五條 規則第八條第一項ノ證明ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第六條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
一 第一條ノ願書及屆書ニシテ記載事項ヲ變更シタルトキ
二 營業許可證ヲ亡失シ又ハ之ヲ發見シタルトキ

第七條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ許可證ヲ
返納スヘシ
一 廢業シタルトキ
二 營業者其ノ住所ヲ管外ニ移轉シタルトキ
三 營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ許
可證ヲ返納シ又ハ届出ヘシ
第八條 規則第二條第二項ノ營業者ニシテ廢業又ハ住所ヲ管
外ニ移轉シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨届出ヘシ

●毒物劇物營業取締規則施行細則 執行心得

(明治四十五年七月二十九日)
訓令甲第三十九號

警察 分署

毒物劇物營業取締規則施行細則執行心得左ノ通相定ム

毒物劇物營業取締規則施行細則執行心得

第一條 本心得ニ於テ規則ト稱スルハ毒物劇物營業取締規則
ヲ謂ヒ細則ト稱スルハ毒物劇物營業取締規則施行細則ヲ謂
フ

第二條 細則第一條第三條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左記各
號ヲ調査副申スヘシ

- 一 本籍、住所、氏名、生年月日ハ願書ノ通り相違ナキヤ
否
- 二 藥學ヲ學ヒ且ツ藥品ノ名稱及之ニ關スル法規ニ付相當
辨識力アリテ營業許可ヲ與フルモ危險ノ虞ナキヤ否
- 三 曾テ調劑若ハ藥品ノ取扱ヲナシタル履歷アリテ營業ヲ
許可スルモ危險ノ虞ナキヤ否
- 四 神經性疾患アリ又ハ平素常識ヲ逸スルノ言行アルモノ

前項ノ營業者ニシテ死亡又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ
戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ届出ヘシ
第九條 毒物劇物營業者ハ第一號様式ノ鑑札ヲ門戸ニ掲クヘ
シ
第十條 本則ニ依ル願書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
第十一條 本則第四條第六條第七條第八條第九條ニ違背シタ
ルモノハ科料ニ處ス

附則

規則附則第二項ノ届書ニ記載スヘキ事項ハ本則第一條第三條
ヲ準用ス

本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第一號様式

毒物(劇物)營業	住所
氏名	五寸

二 尺

年 月 日	受		拂		殘		受入先又ハ賣渡人 住所職業氏名 備名
	數量	定價	數量	定價	數量	定價	
計							

右之通相違無之候也

年 月 日

知 事 宛

醫藥用阿片販賣人

住 所 氏

名 印

●醫藥用阿片販賣人ノ定員及其配置表ノ件

(大正八年八月二十五日)
告示第百六十四號

大正八年八月 山梨縣令第四十號阿片法施行細則第三條ノ醫藥用阿片販賣人ノ定員其ノ配置別表ノ通之ヲ定ム
醫藥用阿片販賣人定員及配置表

警察署(分署)名	人員	警察署(分署)名	人員
甲府府	一	谷村	一
龍王	一	吉田	一
小笠原	一	猿橋	一
葦崎	一	上野原	一
日野春	一		
鯉澤	一		
南部	一		
市川部	一		
石和	一		

第十一編 警察 第八章 衛生 第七款 藥品及賣藥

●醫藥用阿片賣下請求書樣式

(大正九年二月十二日)
告示第二十號

阿片法施行規則第七條ニ依リ醫藥用阿片販賣人醫藥用阿片ノ賣下ヲ受ケムトスルトキハ毎年度前半年分ハ二月末日、後半分ハ七月末日マテニ左記樣式ノ請求書ヲ知事ニ提出スヘシ
醫藥用阿片賣下請求書

豫定數量	容器種類	箇數	賣下價格
何グラム	第何號	何個	何

右請求候也

年 月 日 醫藥用阿片販賣人

住所

氏名

知事 宛

備考

賣下價格ニ相當スル收入印紙ハ賣下ノ通知ヲ受ケタルトキ

上納スヘキモノニ付本書ニ貼用ヲ要セス

●賣藥法令施行細則

(大正三年十一月十九日) 縣令第三十四號

賣藥法令施行細則左ノ通相定ム

賣藥法令施行細則

- 第一條 賣藥法、賣藥法施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
- 第二條 規則第一條及第四條但書ニ依ル申請書ニ添付スヘキ資格ヲ證スル書面ハ左ノ各號ニ依ル可シ
 - 一、賣藥法第六條ノ規定ニ依ル藥劑師ハ藥劑師免狀ノ寫、醫師ハ醫師免許證ノ寫、藥劑師ヲ使用スル者ハ其旨ヲ記シ藥劑師ト連署シタル書面及藥劑師免狀ノ寫
 - 二、賣藥法第二十四條ノ規定ニ依ル者ハ賣藥法公布以前ニ受ケタル賣藥免許證ノ寫
- 第三條 賣藥免許ヲ讓受又ハ相續スル場合ニ於ケル申請書ニハ規則第一條ニ掲ケタル事項ヲ具スヘシ
 - 前項讓受ノ場合ハ讓渡人連署シ相續ノ場合ハ戶籍謄本又ハ抄本ヲ添付スヘシ
- 第四條 規則第五條ノ手数料ハ證書下附ノ際其領收書ニ收入

印紙ヲ貼付提出スヘシ

- 第五條 規則第七條第一項及第三項ノ屆書ニハ住所氏名又ハ法人ノ名稱及營業所ヲ記載スヘシ
- 第六條 規則第八條第一項但書ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ住所、氏名、調製所及申請ノ事由ヲ記載スヘシ
- 第七條 規則第十條但書ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ住所、氏名、調製所及使用スル藥劑師力賣藥營業者ノ營業所以外ニ於テ從事セントスル業務並業務所ヲ記載シ其ノ藥劑師ト連署スヘシ
- 第八條 規則第十一條第一項ノ申請書ニハ同項ニ掲ケタル外住所、氏名、營業所及方名ヲ記載スヘシ
- 第九條 規則第八條第二項及第九條ノ屆書ニハ藥劑師ト連署シ且藥劑師ノ免狀寫ヲ添付スヘシ
- 第十條 賣藥請賣、賣藥行商ニ關スル屆出ハ所轄警察官署ニ之ヲ爲スヘシ
- 第十一條 賣藥請賣、賣藥行商ノ屆出ヲ爲ストキハ賣藥營業者ノ住所、氏名、營業所、方名ヲ、賣子ヲシテ行商セシムル場合ハ賣子ノ原籍住所氏名生年月日及賣藥方名ヲ具スヘシ
- 第十二條 賣藥請賣、賣藥行商屆濟證ヲ毀損シ又ハ亡失シタ

ル時ハ其事由ヲ具シ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出テ再交付ヲ受クヘシ但シ毀損ノ場合ニハ毀損シタル屆濟證ヲ添付スヘシ

亡失シタル屆濟證ヲ發見シタル時ハ直ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十三條 賣藥行商屆濟證ハ行商ノ際携帶シ賣子ヲシテ爲サシムル場合ハ之ヲ携帶セシムヘシ

前項屆濟證ハ賣藥検査員若ハ警察官吏ノ請求アリタル時ハ之ヲ提示スヘシ

第十四條 規則第十四條ノ届出及同第十五條ノ賣藥行商廢止ノ届出ハ十日以内ニ屆濟證ヲ添ヘ之ヲ爲スヘシ但シ死亡又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタル場合ハ戶籍法ニ依ル届出義務者ニ於テ其手續ヲ爲スヘシ

第十五條 警察官署ニ於テ賣藥請賣ノ届出ヲ受理シタル時ハ別記雛形(第一號様式)ノ屆濟證ヲ交付スヘシ

賣藥行商ノ届出ヲ受理シタル時ハ別記雛形(第二號様式)ノ屆濟證ヲ交付スヘシ

第十六條 賣藥營業者免許ヲ取消サレタル時ハ十日以内ニ免許證ヲ返納スヘシ

第十七條 賣藥ヲ輸入又ハ移入シテ發賣セントスル者ハ免許

申請書ニ規則第一條ニ掲ケタル事項ノ外製造地、製造者ノ氏名又ハ法人ノ名稱ヲ記載スヘシ

第十八條 大正三年九月勅令第二百號第二條ノ輸出又ハ移出スル賣藥ノ營業ヲ相續若ハ讓受ノ屆書ニハ賣藥法第二條第一項ニ掲ケタル事項ノ外氏名、生年月、住所、營業所及輸出先又ハ移出先ヲ記載スヘシ

前項相續ノ場合ハ戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添付スヘシ

第十九條 本則第十二條第十三條第十四條第十六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

第二十條 従前ノ規程ニ依リ免許ヲ受ケタル賣藥請賣營業者及賣藥行商者ハ本則ニ手續ヲ爲シタルモノト看做ス但シ賣藥行商者ハ大正三年十二月二十日迄ニ本則第十一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記雛形第一號樣式) 用紙厚紙

堅四寸(曲尺) 横五寸(曲尺)

賣藥請賣屆濟證			
住 所		氏 名	
山 梨 縣		生 年 月	
左記ノ賣藥請賣屆濟ナルコトヲ證ス			
大正 年 月 日			
方 名	賣藥營業者	同上營業所	請賣 屆濟 年 月 日

(別記雛形第二號樣式) 用紙厚紙
堅四寸(曲尺) 横五寸(曲尺)

賣藥行商屆濟證			
住 所		氏 名	
山 梨 縣		生 年 月	
左記ノ賣藥行商屆濟ナルコトヲ證ス			
大正 年 月 日			
方 名	賣藥營業者	同上營業所	行商 屆濟 年 月 日

備考 行商者ノ種類ヲ明ニスル爲メ其氏名ノ上ニ賣藥營業者賣藥請賣營業者又ハ此等ノ者ノ賣子タルコトヲ記載スヘシ

方 名	賣藥營業者	同上營業者	請賣 屆濟 年 月 日

方 名	賣藥營業者	同上營業所	行商 屆濟 年 月 日

賣藥法令施行規程

(大正三年十一月 山梨縣訓令乙第一八九號)

- 第一條 賣藥法令ノ規定ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ヲ受理シタルトキハ相當調査ノ上當廳ニ進達スヘシ
- 第二條 賣藥請賣、賣藥行商ノ届出ヲ受理シタルトキハ別記第一號書式ノ臺帳ニ請賣、行商ヲ區別シ届出人別ニ(イロハ)順ニ記載スヘシ
- 第三條 賣藥請賣、賣藥行商ノ廢止其他異動ノ届出アリタルトキ全部ノ廢止ニ係ル場合ハ届濟證ヲ廢棄シ一部ノ廢止若ハ異動ニ係ル場合ハ便宜訂正主務者捺印ノ上交付シ同時ニ臺帳ノ整理ヲ爲スヘシ
- 第四條 届濟證ノ亡失届出アリタルトキハ該證ニ記載ノ事項ヲ具シ直ニ報告スヘシ
- 第五條 賣藥法第十三條ノ規定ニ依リ物品ヲ收去シタルトキハ收去證ヲ交付スヘシ
- 第六條 警察官署ハ賣藥請賣、賣藥行商ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ規則第十七條ニ該當スル事項ヲ所轄稅務署ニ通報スヘシ其廢止異動アリタル場合亦同シ

(別記第一號書式) (用紙半紙判)

備考	方名	請賣行商者原		行商届出年月日	摘要
		姓名	住所		
	賣藥營業者				
	同上營業所				

賣藥規則外藥劑販賣取締規則

(明治十九年六月二十六日 布達甲第四十四號)

明治二十七年四月縣令第二八號、三五年七月同令四六號、四二年一月同令第四號改正

- 賣藥規則外藥劑販賣取締規則ノ通相定メ本年八月一日ヨリ施行ス
- (別紙)
- 第十四條 賣藥規則外藥劑販賣取締規則
- 第一條 賣藥規則外藥劑トハ防臭及飲食物ノ防廢其他鼠取蠅取蚊遺棄等ノ如キ治病ヲ目的トセザル藥劑ヲ總稱ス
- 第二條 此藥劑ヲ調製發賣セントスルモノハ第一號樣式ノ書面ニ藥劑ヲ添ヘ縣廳ニ願出テ免許證札ヲ受クヘシ
- 但シテ所以上ニ於テ藥劑ヲ調製スルトキハ其箇所毎ニ免許證札ヲ受クヘシ
- 第三條 縣廳ニ於テ前條ノ藥劑ヲ検査シ衛生上障害ノ虞アリト認ルモノハ之ヲ免許セズ又已ニ免許シタルモノト雖モ更ニ障害ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ其發賣ヲ禁止シ免許證札ハ直ニ返納セシムヘシ
- 第四條 發賣ノ免許證札ヲ受タル藥劑ニシテ藥味分量效能製

法用分量等ヲ變更セントスルトキハ第二號樣式ノ書面ヲ以テ縣廳ニ願出テ免許ヲ受クヘシ

- 第五條 此藥劑ヲ請賣セントスルモノハ第三號樣式ノ書面ニ調劑人ノ所持スル免許證札ノ寫、調劑人ノ證印ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出テ請賣免許證札ヲ受クヘシ
- 他管下ノ調劑人ヨリ請賣セントスルトキ亦前項ニ進達スヘシ若シ其調劑人該管廳ノ免許ヲ受ケタルモノニ非サルトキハ請賣人ニ於テ第二條ニ依リ所轄警察官署ニ願出テ免許ヲ受クヘシ
- 第六條 他管廳ノ免許ヲ受ケタル調劑ヲ以テ當縣下ニ於テ販賣セントスルモノハ其免許證札若クハ指ヲ添ヘ當縣廳ニ届出テ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 調劑人又ハ請賣人ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲシテ行商セシメントスルトキハ所轄警察官署ニ願出テ行商免許證札ヲ受クヘシ
- 但行商免許證札ハ行商ノ際必ス携帯スヘシ
- 第八條 調劑人及ヒ請賣人廢業若クハ他管下ヘ轉籍寄留スルトキハ其旨届出テ該免許證札ヲ返納スヘシ
- 第九條 調劑人第三條ノ禁止ヲ命セラレタルトキ又ハ前條ニ依リ免許證札ヲ返納シタルトキ請賣人有之向ハ其旨請賣人

（通知シ且其請賣人ノ住所姓名等詳細届出ヘシ
請賣人前項ノ通知ヲ得タルトキハ其販賣ヲ止メ諸免許鑑札
ヲ返納スヘシ

第十條 免許鑑札ハ賣買貸借讓與譲受スルコトヲ許サス

第十一條 免許鑑札ヲ喪失毀損シタルトキ又ハ轉居改姓名又
ハ相續人ニ於テ營業ヲ繼續セントスルトキハ其旨申出テ鑑
札ノ再下付又ハ書換テ請フヘシ

第十二條 調劑人請賣人ハ第四號様式ノ看板ヲ其店頭又ハ門
戸ニ掲ケヘシ

第十三條 本則第二條ニ依リ縣廳ニ差出ス書面ハ所轄警察官
署ヲ經由スヘシ

第十四條 本則第二條第四條乃至第十二條ニ違背シ又ハ第三
條ニ依リ發賣ヲ禁止セラレタル藥劑ノ鑑札ヲ返納セサル者
ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

第十五條 第二條第四條第五條ニ違背シ處分ヲ受ケタルトキ
ハ犯則ニ係ル藥劑ハ縣廳ニ於テ之ヲ取上クルコトアルヘシ

第一號書式 (用紙美濃紙正副二通)

賣藥規則外藥劑調製願

一方名

藥味分量

右明治何年何月何日御検査済免許鑑札御下渡營業仕居候處
今般藥味分量用法用量製法效能左ノ通改正仕度候間御許可
被成下度依テ藥品相添此段奉願候也

一改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

何郡何町何番戶住寄留(寄留人ナレハ本
管ヲ記スヘシ)

族籍

年月日

(縣令)宛

前書出願ニ付奥印仕候也

何郡何町何番戶長

氏名印

第三號書式 (用紙同上)

賣藥規則外藥劑請賣願

一方名

右調劑者 何郡何町何番戶住寄留(寄留人ナレハ本
管ヲ記スヘシ)

右調劑者 族籍

氏名

一方名

右調劑者 肩書同上

第十一編 警察 第八章 衛生 第七款 藥品及賣藥

用法用量

右藥劑販賣仕度候間御検査ノ上免許鑑札御下渡被成下度藥
品相添此段奉願候也

何郡何町何番戶住寄留(寄留人ナレハ本
管ヲ記スヘシ)

族籍

年月日

(縣令)宛

前書出願ニ付奥印仕候也

何郡何町何番戶長

氏名印

第二號書式 (用紙同上)

賣藥規則外藥劑改正願

一方名

藥味分量

用法用量

製法

效能

右調劑藥何方請賣仕度依テ別紙調劑者所持ノ免許鑑札寫相
添此段奉願候也

何郡何町何番戶住寄留(寄留人ナレハ本
管ヲ記スヘシ)

族籍

年月日

(縣令)宛

前書出願ニ付奥印仕候也

何郡何町何番戶長

氏名印

第四號雜形

曲尺三尺

免賣藥規則外藥劑調製所

分五寸七

同右

免賣藥規則外藥劑請賣所

同右

●賣藥規則外藥劑請賣行商鑑札下付ニ關スル件

(明治三十五年七月十八日)
訓示第八五號

警察署長 (警察分署長)

賣藥規則外藥劑請賣行商鑑札下付ニ關シテハ左項ノ通り取扱フヘシ

右訓示ス

左項

- 一 賣藥規則外藥劑請賣及行商鑑札ハ警察部ニ於テ調劑シ各警察署分署ヘ送付スヘキヲ以テ毎年四月一日一ケ年間使用見積高ヲ請求スヘシ
- 但本年度使用見積書ハ來ル十日迄ニ當部ニ請求スヘシ
- 一 賣藥規則外藥劑請賣行商人免許臺帳ハ各種營業人名簿用紙ヲ用キ賣藥請賣行商名簿ノ記載例ニ依ルヘシ
- 但所轄内ニ郡市ニ互ルモノハ各別ニ調製若クハ看出テ付シ區別ヲ爲スヘシ
- 一 賣藥規則外藥劑請賣鑑札ハ第一號様式ニ行商鑑札ハ第二號様式ニ倣ヒ記入下付スヘシ
- 但方數ハ賣藥規則外藥劑調製人異ナラサルモノハ何方記

載スルモ妨ケナシ

- 一 賣藥規則外藥劑請賣及行商免許鑑札紛失ノ届出アリタルトキハ其時々警察部ヘ報告スヘシ
- 一 賣藥規則外藥劑請賣人及行商人廢業シ鑑札ヲ返納シタルトキハ鑑札ハ之ヲ棄却シ其旨届書ノ欄外ニ記載シ主任者捺印スヘシ
- 一 毎年十二月三十一日現在請賣行商者ノ員數ハ第三號様式ニ倣ヒ各郡市別ニ區分製表シ翌年一月三十一日限り報告スヘシ

第一號様式

賣藥規則外藥劑請賣鑑札書式

第 號	住 所	賣藥規則外藥劑營業者 氏 名
一方 名	住所 族籍戶主非戶主別	同請賣人 氏 名
右請賣免許候事	同請賣人 氏 名	生年月日 名
明治年月日	山 梨 縣	

裏

一 免許鑑札ハ賣買貸借讓與讓受スルコトヲ許サス
一 免許鑑札ヲ喪失毀損シタルトキハ其旨申出テ鑑札ノ再下付ヲ請フヘシ
一 轉居改姓名又ハ相續人ニ於テ營業ヲ繼續セムトスルトキハ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第二號様式

賣藥規則外藥劑行商鑑札書式

其一 賣藥規則外藥劑營業者自ラ行商スルモノノ例

賣藥規則外藥劑行商許可證	住 所	賣藥規則外藥劑營業者 氏 名
一方 名	住所 族籍戶主非戶主別	生年月日 名
一方 名	賣藥規則外藥劑請賣業	
右行商開届候事		

表

其二 賣藥規則外藥劑營業者賣子ヲシテ行商セシムルノ例	賣藥規則外藥劑行商許可證	住 所	賣藥規則外藥劑營業者 氏 名
一方 名	同賣子 氏 名	同賣子 氏 名	生年月日 名
一方 名			
右行商開届候事			

其三 賣藥規則外藥劑請賣者自ラ行商スルモノノ例

賣藥規則外藥劑行商許可證	住 所	賣藥規則外藥劑請賣業 氏 名
一方 名	住所 族籍戶主非戶主別	生年月日 名
一方 名	賣藥規則外藥劑請賣業	
右行商開届候事		

本表ハ明治三十三年法律第一五號ニ基キ處分シタルモノノ内衛生技術員ノ行ヒタル化學的試驗ノ結果ヲ掲表スルモノトス

巡查ヲシテ簡易ノ試験ヲ行ハシメタルモノハ本表ト同式ニテ別ニ製表スルモノトス

記載例

一 類別ハ乳及乳製品類、氷雪類、清涼飲料水類、酒類、菓子類、罐詰類、獸肉類、其他飲食物類、飲食物用器具類、玩具類、化粧品類、着色料類、防腐劑類、雜類ニ分チテ記入スヘシ
一 物品名ハ例令ハ乳及乳製品類ニ於テ牛乳(全乳脫脂乳)山羊乳煉乳粉乳等氷雪類ニ於テハ天然氷人造氷雪ノ如ク成ルヘク細別シテ其品名ヲ記入スヘシ但品名ヲ現ハスニ方言ヲ以テスル場合ニハ一般ニ通スヘキ註譯ヲ附記スヘシ又飲食物用器具ノ如キ同一品ニシテ其實質ヲ異ニスルモノニ於テハ其物質名例ヘハ銅、鐵、陶、磁、土等ニ區別シ及琺瑯引鍍錫等ノ別ヲ記入スヘシ

一 試験ノ目的ハ人工甘味質含有、防腐劑使用、有害性着色料使用飲食物ノ適否等各其試験ヲ行ヒタル目的ヲ記入スヘシ又同一物品トシテ試験ノ目的ヲ異ニシタル場合ニハ各其目的毎ニ一項ヲ設クヘシ

處分別ノ欄 (1)ニハ飲食物又ハ飲食物用器具等ニシテ有害ト認メ其製造販賣授與使用ヲ禁止又ハ停止シタルモノヲ記入スルモノトス但禁止停止ノ後其物品ノ廢棄又ハ衛生上危害ナキ方法ニヨリ處置シタルモノノ數ハ此項ニ記入ヲ要セス

(2)ニハ飲食物及飲食物用器具ノ廢棄ヲ命シタルモノノ數ヲ記入スルモノトス

(3)ニハ衛生上危害ナキ方法ニヨリ處置シタル飲食物及飲食物用器具ノ數ヲ記入スルモノトス

(4)ニハ試験ノ結果有害ナリト確定シタルモノ其確定時ニ物品ノ現存セサル爲メ處分シ能ハサルカ又ハ他ノ事故ニ

ヨリテ廢棄ヲ要セスト爲シタルモノノ數ヲ記入スルモノトス

一 處分欄内ノ數量ハ其單位ヲ一定スル爲メ氷雪肉類ハ斤ヲ乳、酒、醬油、酢類ハ合ヲ其他ノ液體ハ瓶數ヲ其他物品ハ個數ヲ記入スルモノトス若シ特別ノ單位ヲ以テ表章スル場合ニ於テハ其單位ヲ記入シ成ルヘク計算シ得ヘキ様注意スヘシ又斤量ニ於テ百六十匁一斤ヲ用キサル場合及瓶數ハ容器ヲ判リ易キ様備考欄ニ掲記スヘシ

物品集散ノ狀況

例ヘハ管内ニ於テ製造採取シ消費スルモノハ其管内ニ於ケル集散ノ狀況管外ヘ輸出スルモノハ何港又ハ重ニ何驛ヨリ他管何々地ヘ輸出管内ヘ輸入スルモノニ付テハ管外何々地ニテ製造又ハ採取シタルモノヲ主トシテ何港又ハ何驛ヨリ輸入シ多分ハ何々地ニ集マリ夫ヨリ何々地及何々地方ヘ散シ又一部ハ直ニ何々地ヘ行ク等ノ如シ

製造又ハ販賣所ヘ臨檢ノ狀況及度數

例ヘハ何々ニ付テハ巡查ノミ或ハ巡查ト技術員ト或ハ技術員ノミ臨檢シ又其臨檢ハ月何回之ヲ行フ或ハ隨時之ヲ行フ又其臨檢度數ハ巡查ノミ爲シタルト技術員ノミ爲シタルト或ハ技術員ト巡查ト同行シテ爲シタルトヲ分子記載スルコト

試験ノ狀況

例ヘハ何々中何々ニ付テハ技術員之ヲ行ヒ又ハ警察官署ニ

第十一編 警察 第八章 衛生 第八款 飲食物

於テ巡查ヲシテ之カ豫備試驗ヲ爲サシムルノ類若シ巡查ヲシテ確定試験ヲサシムルコトアルトキハ之ヲモ記載スルコト

飲食物具其他ノ物品收去ニ關スル様式ノ件

(明治三十四年五月三十一日) 訓示第六三號

警察 署 (警察分署)

明治三十三年法律第拾五號第二條ニ依リ飲食物具其他ノ物品ヲ收去スル場合ニ於テ同年內務省令第拾號第三條ニ依リ交付スヘキ證書式ハ左記様式ニ準據スヘシ

様式 (常用半紙) 收去證

一 品目 數量

右物品ハ明治三十三年法律第拾五號第二條ニ依リ收去スル

者也

年、月、日
住所
氏名宛
警察官署名印

飲食物其他收去ニ關スル件

(明治三十五年十一月二十七日)
訓示第一一五號

各警察署長 (分署長)

明治三十三年法律第十五號及同年內務省令第十七號ニ依リ收去スヘキ飲食物或ニ有害性著色料其他ノ物件ニシテ製造ノ縣内ニ係ルモノニ對シテハ最モ嚴量ニ縣外ニ係ルモノニ在リテハ需用ノ途多キ物件ヲ撰ヒ之ヲ收去シ其處分ノ情況及處分シタル物件製造者ノ住所氏名ハ其都度報告スヘシ
右訓示ス

酒類釀造用ニ供スル器具收去ニ關スル件

(明治三十五年三月二十日)
願示第三一號

警察署長 (警察分署長)

明治三十三年內務省令第五十號飲食物器具取締規則執行ニ際シ稅務官吏ニ於テ封緘ヲ施セル酒類釀造用ニ供スル器具ヲ試驗ノ爲メ收去スル場合ハ左記各項ニ依リ處置スヘシ
右訓示ス

- 一 稅務官吏ノ封緘ヲ施セル酒類釀造用ニ供スル器具ヲ試驗ノ爲メ收去スル場合ハ所轄稅務署ヘ通知スルコトヲ直チニ之ヲ開緘收去シ收去ノ後ハ其要部ニ收去シタル吏員ニ於テ封緘ヲ施スヘシ其全部ヲ收去シタルトキハ單ニ第三項ノ通知ヲ爲スヘシ
- 二 封緘ニハ一定ノ署印ヲ押捺シ其用紙ハ西ノ内四ツ切ヲ用牛豫メ之ヲ所轄稅務署ニ通知シ置クヘシ
- 三 前項ノ手續ヲ了シタルトキハ其都度酒類釀造者ノ住所氏名年月日器具ノ名稱封印ノ個數等ヲ所轄稅務署ヘ通知スヘシ
- 四 警察官吏ニ於テ施シタル封緘ニ對シ稅務官吏ニ於テ收封ヲ爲スコトアルモ稅務署ヨリ別ニ通知ヲ爲ササルモノトス

清涼飲料水營業取締規則施行細則

(明治三十六年五月十八日)
縣令第二十四號

明治四十二年二月縣令第二七號、四三年七月同令五七號、大正元年八月同令第四號改正

清涼飲料水營業取締規則施行細則左ノ通り改正ス

清涼飲料水營業取締規則施行細則

- 第一條 清涼飲料水製造營業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左記各號ノ事項ヲ具シ原料品ヲ添ヘ知事ニ差出ヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ營業所ヲ借受、讓受又ハ相續ニ依リ既ニ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セシテ營業セムトスル者ハ第二號以下ヲ具スルヲ要セス
- 一 住所氏名生年月日但シ法人又ハ組合ニアリテハ其ノ代表者ヲ記載シ定款又ハ規約ヲ添付スヘシ
- 二 清涼飲料水ノ種類、名稱
- 三 製造所ノ位置(地名番號)坪數及圖面
- 四 製造所ノ構造仕様書及圖面
- 五 調製器ノ構造名稱及其ノ個數
- 六 原料品名配合分量及製造方法
- 七 容器量器ノ種類及其ノ品質

第十一編 警察 第八章 衛生 第八款 飲食物

八 瓦斯洗濯ニ用ナル機械、名稱、個數、洗濯用藥品及其ノ調製方法

九 用水ノ種類(汲取場ノ位置構造及周圍ノ狀況)

第二條 清涼飲料水製造場ノ構造及設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 製造場ハ一定ノ區劃ヲ設ケ採光及空氣ノ流通ヲ圖リ塵埃其ノ他不潔物ノ侵入ヲ防クニ足ルヘキ裝置ヲ爲シ炭酸瓦斯ヲ發生セシメ之ヲ使用スル製造場ニ在テハ坪數八坪以上其ノ他ノ製造場ニ在テハ四坪以上ト爲スコト
 - 二 製造場ノ周圍及天井ハ板張トナシ床ハ石、煉瓦、漆喰、敲又ハ一寸以上ノ厚板ヲ以テ敷設シ適當ノ傾斜ヲ付シ排水ヲ一定ノ汚水溜ニ導ク裝置ヲナスコト
 - 三 フラム製造場ハ特ニ炭酸瓦斯中ニ混入スル有害瓦斯酸類金屬等ヲ除却スル爲メ除害器及水槽ヲ備付シ且ツ除害器械ニ用フル藥品及洗濯水ハ製造ノ都度交換スルコト但シ器械ヲ用ヒサルモノニアリテハ水槽ノミヲ備フルコト
 - 四 清涼飲料水ハ總テ冷暗所ニ貯藏スルコト
- 第三條 製造場ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ其検査以前ニ在テハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項検査以前ノ製造場ニ於テ製造シタル清涼飲料水ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第四條 清涼飲料水製造ニ關スル用水ハ新ニ蒸溜シタルモノ又ハ左ノ各號ニ適合スルモノニアラサレハ之ヲ用フルコトヲ得ス

一 無色澄明ニシテ微弱「アルカリ性」若ハ中性ノ反應ヲ有シ且異臭味ナキモノ

二 直ニ「アンモニヤ」亞硝酸ノ反應ヲ呈セサルモノ

三 「リットル」中蒸發殘渣二百ミリグラム、「クロール」二十ミリグラム、硝酸（無水物）十ミリグラム、硫酸（無水物）五十ミリグラム、過マンガン酸カリウム脱色量五ミリグラム以下ノモノ

四 重金属、有害瓦斯等ヲ含有セサルモノ

第五條 清涼飲料水營業者住所氏名ニ變更ヲ生シ又ハ廢業シタルトキハ營業者ヨリ其死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ十日以内ニ縣廳ニ届出ツヘシ

第六條 清涼飲料水ノ營業者其調製又ハ小分ニ從事スル者ヲ置キタルトキハ三日以内ニ其住所氏名年齢ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ其異動アリタルトキ亦同シ

第七條 雇人又ハ營業上使役スル者ヲシテ清涼飲料水ノ調製

及小分ニ從事セシムルトキハ清潔ナル白色ノ作業衣ヲ着用セシムヘシ清涼飲料水營業者自ラ從事スルトキ亦同シ

第八條、第九條（削除）

第十條 清涼飲料水ノ容器ノ種類又ハ販賣ノ方法ニ依リ容器ニ封緘ヲ施サスシテ販賣セムトスル者ハ縣廳ニ願出認可ヲ受クヘシ

第十一條 本則ニ依リ縣廳ニ差出スヘキ願届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第十二條 本則第三條乃至第十條ニ違背シタル者ハ貳拾圓未満ノ科料ニ處ス

附則

第十三條 明治三十三年縣令第四十一號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●人工甘味質取締規則施行細則

（明治三十七年十月二十日）
縣令第四十三號

（明治四十二年二月縣令第三六號改正）

明治三十四年十月二十日內務省令第三十一號人工甘味質取締規則施行細則左ノ通り定ム

人工甘味質取締規則施行細則

●氷雪營業取締規則施行細則

（明治三十八年三月三十日）
縣令第十三號

（明治四十二年二月縣令第三三號、大正元年八月同第五號、同年一二月同第二八號、一五年八月同第一

一二號改正）

明治三十四年二月縣令第五號氷雪營業取締規則施行細則左ノ通り改正ス

氷雪營業取締規則施行細則

第一條 氷雪ヲ採取製造シテ販賣セムトスル者ハ左記各號ノ事項ヲ具シ知事ニ願出認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ營業所ヲ借受、讓受又ハ相續ニ依リ既ニ認可ヲ受クル事項ヲ變更セスシテ營業セムトスル者ハ第二號以下ヲ具スルヲ要セス

一 住所氏名生年月日、但シ法人又ハ組合ニ在リテハ其ノ代表者ヲ記載シ定款又ハ規約ヲ添付スヘシ

二 氷雪ノ種類（飲食用非飲食用ノ別並天然氷、製造氷ノ區別）

三 採取所、製造所、貯藏所ノ位置及其ノ附近ノ圖面（郡市町村大字小字地番地種目段別）

第一條 販賣ノ目的ヲ以テ治療上ノ目的ニ供スヘキ人工甘味質ヲ加味セル飲食物ヲ製造セムトスル者ハ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ飲食物ヲ製造シ又ハ販賣スル者ハ左記事項ヲ遵守スヘシ

一 人工甘味質受拂簿ヲ製シ製造仕入販賣授與ノ數量及年月日ヲ其都度記入スルコト

二 前項ノ帳簿及販賣授與ノ際受領シタル醫師ノ證明書ハ使用後三年間保存スルコト

三 飲食物ノ容器又ハ被包ニハ住所氏名製造年月日ヲ記載スルコト

第三條 人工甘味質取締規則第三條第三項ノ届書ハ所轄警察官署ヲ經由シテ差出スヘシ

第四條 警察官吏又ハ衛生技術員ニ於テ人工甘味質受拂簿及醫師ノ證明書ヲ検査セムトスルトキハ營業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五條 本則第二條第四條ニ違背シタル者ハ貳拾圓未満ノ科料ニ處ス

四 製造所、貯藏所ノ構造仕様書及圖面並貯藏所ノ容積
五 料水ノ種別並其ノ所在地地名番
六 人造氷ニ在リテハ製氷機械ノ種類、構造ノ大要ヲ記シ
タル仕様書並圖面、氷罐ノ品質、大サ及箇數、製造ノ
方法、一日ノ製造能力

七 工事落成期日

第二條 採收所製造所ノ構造ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

- 一 水池ハ深サ三尺以上トシ適當ノ排泄口ヲ設ケ其ノ周縁
ハ外部ノ地盤ヨリ五寸以上ノ高サトシ全部不滲透質ノ
材料ヲ以テ築造スルコト
- 二 水池ノ周圍ニハ汚水排除ニ必要ナル溝渠ヲ設ケルコト
- 三 料水ノ取入口ト水池トノ間ハ導水管ヲ用ヒ適當ナル裝
置ヲ以テ濾過シタル後水池ニ引入ルコト
- 四 製造所ノ床及内部ノ周壁ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造
シ排水溝ヲ設ケ且ツ適當ニ採光換氣ノ方法ヲ講シ塵埃
昆虫ノ侵入ヲ防クコト

第三條

貯藏所ハ衛生上障害ナキ地ヲ選ミ底部ハ不滲透質ノ
材料ヲ以テ布設シ適當ノ勾配ヲ附シ排水口ヲ設ケヘシ但シ
穴藏ヲ以テ貯藏所ニ充ツルモノハ不滲透質ノ材料ヲ以テ周
圍ヲ築造スヘシ

第四條 採收所製造所ハ人家公道傳染病院隔離病舎墓地火葬
場糞坑拾揚ヲ距ル六十間以上ニシテ衛生上障害ナキ地ニ非
サレハ設置スルコトヲ得ス但シ製造所ニ在リテハ本條ノ距
離制限ニ據ラサルコトヲ得ス

第五條 氷雪ノ卸賣營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ

- 一 所轄警察官署ニ願出認可ヲ受ケヘシ其ノ事項ヲ變更セムト
スルトキ亦同シ但シ營業所ヲ借受、讓受又ハ相續ニ依リ既
ニ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セスシテ營業セムトスル者ハ
第二號以下ヲ具スルヲ要セス
- 二 住所、氏名、生年月日但シ法人又ハ組合ニアリテハ其
ノ代表者ヲ記載シ定款又ハ規約ヲ添付スヘシ
- 三 氷雪ノ種類
- 四 貯藏所構造仕様書並圖面

第六條 第二條第三條ノ工事落成シタルトキハ知事ニ届出使

用ノ認可ヲ受ケヘシ

第七條 飲食用ノ氷雪ヲ採收製造シタルトキハ採收者又ハ製

造者ノ住所氏名並其ノ斤量ヲ具シ所轄警察署ニ届出當該官
吏ノ立會ヲ求メ現場ニ於テ二箇所ヨリ各氷塊一箇宛ヲ採取
シ封印ヲ受ケ知事ニ願出検査ヲ受ケヘシ

製造者又ハ卸賣者ノ住所氏名ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ヘ
シ其變更ノトキ亦同シ

第十五條 他管下ヨリ氷雪ヲ輸入販賣セムトスルトキハ斤量
ノ概數及貯藏所所在地並ニ採收者製造者卸賣者ノ住所氏名
ヲ到着地ノ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十六條 氷雪營業者ハ帳簿ヲ備ヘ其製造採收貯藏販賣買入
及卸賣ノ量日ヲ記入スヘシ但請賣及行商者ハ此限ニアラス

第十七條 氷雪營業者ハ結核病癩病梅毒疥癬傳染性皮膚病其
他傳染性疾患者ヲシテ氷雪ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十八條 氷雪營業者ニシテ其疾病ニ罹レルトキ亦同シ

第十九條 雇人其他業務上使役スル者ヲシテ氷雪ノ取扱ヲ爲
サシムルトキハ清潔ナル衣服ヲ着用セシムヘシ營業者自ラ
取扱ヲ爲ストキ亦同シ

第二十條 氷雪營業者住所氏名ニ變更ヲ生シ又ハ廢業シタル
トキハ營業者ヨリ其死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義
務者ヨリ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ但シ卸賣請賣行商者ニ
在テハ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第二十一條 氷雪營業者ハ氷雪ノ採收所製造所及貯藏所ニ破

- 他管下ノ採收製造ニ係ルモノハ到着地ノ所轄警察署ニ届出
本條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 検査未済ノ氷雪ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス人造氷ニ在リテ
ハ知事ノ認可ヲ受ケ第一項ノ手續ヲ省略スルコトヲ得
- 第八條 氷雪貯藏ニ用ユル木屑ハ極メテ清潔ナルモノヲ選フ
ヘシ
- 第九條 貯藏所ノ氷雪ヲ他ノ貯藏所ヘ移サムトスルトキハ運
搬前貯藏所所轄ノ警察官署ニ届出ヘシ
- 第十條 採收所又ハ製造所ヲ異ニスル氷雪ヲ同一ノ貯藏所ニ
貯藏セムトスルトキハ其採收所又ハ製造所ノ異ナル毎ニ適
當ノ區劃ヲ爲スヘシ
- 第十一條 飲食用以外ノ用ニ供スル氷雪ヲ貯藏セムトスルト
キハ採收所製造所及貯藏所ヲ詳記シ當廳ニ届出ヘシ
- 第十二條 氷雪營業者ハ氷ノ貯藏所並營業所ノ視見キ場所ニ
後ニ示ス雜形ノ看板ヲ掲出スヘシ
- 第十三條 飲食用以外ノ氷雪ハ左ノ規定ニ從フヘシ
 - 一 飲食用氷雪ト同一ノ貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ス
 - 二 飲食用氷雪ト同一店舗ニ於テ販賣スルコトヲ得ス
 - 三 請賣又ハ行商スルコトヲ得ス
- 第十四條 氷雪ノ請賣又ハ行商ヲ爲サムトスル者ハ其採收者

損ヲ生シタルトキハ速ニ修繕ヲ加ヘ採收所ハ採收毎ニ残水ヲ排除シ洗滌スヘシ

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ認可ヲ取消シ又ハ採收所製造所及貯藏所ノ移轉改造ヲ命シ若クハ其營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

- 一 正當ノ事由ナク落成期日ヲ經過シタルトキ
- 二 土地ノ狀況ニ依リ公害アリト認めタルトキ
- 三 採收所製造所及貯藏所ノ修繕改造若クハ掃除ヲ命セラレ之ニ應セサルトキ

第二十三條 本則ニ依リ知事ニ差出スヘシ願届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十四條 本則第六條乃至第二十一條ニ違背シタル者及採收所製造所貯藏所ノ修繕改造又ハ掃除ヲ命セラレ之ニ違背シタル者或ハ停止ヲ犯シテ業務ヲ營ミタル者ハ貳拾圓未満ノ料料ニ處ス

附則

第二十五條 從前認可ヲ受ケタル營業者ノ採收所製造所貯藏所ニシテ本則第二條第三條第四條ノ構造制限ニ抵觸スルモノハ本年十一月三十日迄ニ本則ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケヘシ認可ヲ受ケサルモノハ其效ヲ失フ

●飲用水ノ取締ニ關スル件

(明治三十四年六月二十四日) 訓示第七一號

附則

明治三十九年一月衛發第一八〇號改正

警察 署長 (同分署長)

飲用水ハ採取當時營業者ノ不注意ヨリ往々池壁又ハ地底ニ密接シタル部分ヲ混同貯藏スルヲ以テ貯藏届出ニ際シ飲料ニ適スル検査成績ヲ得ルモ多數氷塊中ニハ尙飲料不適ノ氷塊ヲ發見スルハ已往ノ實歴ニ徴シ明カニシテ之レカ直接取締ニ從事スルモノハ頗ル周到ナル注意ヲ以テ任セサル可ラス抑モ飲用適否ヲ決定スルハ氷塊ノ融解水ニ據ルヘキハ規則ノ明示スル處ナルモ肉眼検査上外觀粗シシテ氣泡多ク又ハ塵芥ヲ氷結シ著シク白色ヲ呈シ不透明ナルモノハ其融解水必ス氷雪營業取締規則第三條ノ規定量ヲ超過スルカ否ラサレハ不透明ニシテ結局飲料不適ナルヲ常トス故ニ之レカ取締ニ就テハ以上ノ諸點ニ注意シ若シ該當スル氷ヲ販賣又ハ貯藏スル小賣商行商等ヲ發見シタルトキハ本年縣令第二十一號ニ依リ相當處置シ(其數量ハ別表ヲ以テ毎月分ヲ取纏メ翌月五日限リ報告シ)卸賣請賣又ハ製氷業者ニシテ前段該當ノ氷塊ヲ販賣シ又ハ貯藏スルヲ認メタル時ハ其肉眼検査ノ狀況ヲ具シ即報シ指揮ヲ受

〇飲食用水(雜用水)營業	住所	氏名
二尺		
		寸五

●水製造所及貯藏所届出ノ件

(明治三十九年十一月二十九日) 梨衛發第一九〇號依命通牒

衛生課長ヨリ各署長(分署長)宛

水製造所ハ氷雪營業取締規則施行細則第二條ニ依リ其構造制限ヲ定メラレ候處右ハ飲食用水ニノミ適用シ非飲食用水ハ同則第十一條ニ依リ貯藏セントスル場合ニ於テ其採收所製造所貯藏所ヲ詳記シ縣廳へ届出シメ別ニ製造所ノ構造制限ニ標準ヲ置カサルノ旨趣ニ有之候條右ニ御了知御取扱相成度依命此段及通牒候也

●不良氷塊取締ニ關スル件

(明治三十五年一月十日) 衛發第四三號依命通牒

クテ處置シ以テ取締上遺憾ナキヲ期スヘシ

已往ノ實況ニ依レハ製氷營業者ハ塵芥ヲ夾雜シタルモノ又ハ著シク氣泡ヲ有スルモノモ貯藏期間中ニ於ケル融解スヘキ見込量トシテ貯藏所ノ周圍底部等ニ貯藏シ若クハ貯藏量ノ多量ナランコトヲ欲スルヨリ前述ノ如キ不良氷塊ヲ混同貯藏シタルカ爲メニ結局販賣季節ニ到リ適該不良氷塊ヲ除去検査セラレル等ニ依リ他ノ善良ナル氷塊ノ投棄ヲ命セラルルニ到リ甚シキハ其營業ヲ禁止セラルル等ノ厄ヲ被ムル次第ニ有之畢竟營業者ノ營利ヲ之レ主トスル罪ニ外ナラスト雖モ萬一之レヲ看過スルカ如キコト有之候テハ警察取締ノ不行届ハ勿論公眾衛生上甚タ恐ルヘキモノ有之候就テハ目下專ラ貯藏ノ季節ナルヲ以テ衛生検査所技衛員ヲシテ御部内各製氷池ノ所在ニ就キ各水池毎ニ水質試験ヲ遂ケシムル答ニ候間技衛員ニシテ貴署へ出頭ノ場合ハ貴職若クハ巡查部長ニ於テ同行水池ニ臨檢シ親シク結氷ノ狀況等取調爾後結氷貯藏了スル迄完全ナル取締ヲ遂ケ其貯藏水池中不良ノ水質ニ依リ製造シタル氷塊ナカラシムルハ勿論塵芥夾雜若クハ著シク氣泡多キ不良氷塊

ノ如キハ斷シテ貯藏セシメサル様營業者ニ嚴諭シ以テ販賣季節ニ際シ禁停止ヲ命セラルルカ如キコト無之様措置相成度依命此段及遵照候也

●牛乳營業取締規則施行細則

(明治四十三年十二月二十七日)
縣令第六十九號

大正元年八月縣令第三號、一〇年六月同第二九號改正

號改正

牛乳營業取締規則施行細則左ノ通之ヲ定ム

牛乳營業取締規則施行細則

- 第一條 牛乳營業取締規則第四條ニ依リ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出ヘシ但シ營業所ヲ借受、讓受又ハ相續ニ依リ既ニ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セスシテ營業セムトスル者ハ第二號以下ノ事項ヲ具スルヲ要セス
 - 一 住所、氏名、生年月日、但シ法人又ハ組合ニ在リテハ其ノ代表者ノ氏名ヲ記シ且定款又ハ規約ヲ添付スヘシ
 - 二 牛乳搾取所、牛舎、運動場、牛乳取扱所又ハ乳製品製造所ヲ設置スヘキ地名、地番、坪數及近接人家並飲用水トノ距離
 - 三 牛乳搾取所、牛舎、運動場、牛乳取扱所又ハ乳製品製

造所ノ構造仕様書及建物ノ坪數並建物ノ位置ヲ見ルニ足ルヘキ圖面

- 四 牛乳搾取營業者ニ在リテハ乳牛、種牛、犏牛、飼育豫定數
- 五 製造及設備落成期日
- 第二條 左ノ場所ニハ牛乳搾取所、牛舎、運動場ヲ設置スルコトヲ得ス
 - 一 人家稠密ノ場所
 - 二 社、寺、學校、病院、公園、河川、道路等ニ對シ公益上有害ナリト認ムル土地
- 第三條 牛乳請賣營業者ヲ爲サムトスル者又ハ牛乳搾取營業者ニシテ別ニ販賣店ヲ設ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ願出認可ヲ受ケヘシ但シ牛乳取扱所ヲ借受讓受又ハ相續ニ依リ既ニ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セスシテ營業セムトスル者ハ第三號ノ事項ヲ具スルヲ要セス
 - 一 住所、氏名、生年月日
 - 二 販賣店ノ所在地名

- 三 牛乳取扱所ノ位置、坪數並構造仕様書、圖面
- 四 牛乳請賣營業者ニ在リテハ牛乳搾取營業者ノ住所、氏名

第四條 牛乳營業者其ノ營業ニ關スル建物ヲ改修、増築、移

轉シ若ハ支所ヲ設ケ又ハ乳製品ノ種類、製造方法ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事項ヲ具シ知事ニ願出認可ヲ受ケヘシ

第五條 牛乳營業者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ但シ第六號ノ場合ハ戶籍法ニ依リ届出義務者ヨリ届出ヘシ

- 一 開業、廢業、又ハ二十日以上休業シタルトキ
- 二 請賣又ハ乳製品製造ニ供スル牛乳營業者ヲ變更シタルトキ
- 三 乳製品ノ種類ヲ變更シタルトキ
- 四 營業所ヲ貸渡シ又ハ讓渡シタルトキ
- 五 住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ
- 六 營業者死亡シタルトキ

第六條 牛乳搾取所、牛舎、運動場、牛乳取扱所、乳製品製造所ノ構造設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ當分ノ内牛舎ヲ

搾取所ニ兼用スルモ妨ケナシ

一 牛乳搾取所及牛舎ハ隣地境界トノ間ニ五間以上運動場

第十一編 警察 第八章 衛生 第八款 飲食物

ハ三間以上ノ空地ヲ存スルコト但シ隣地ノ狀況ニ依リ此ノ制限ニ依ラスシテ認可スルコトアルヘシ

- 二 牛乳取扱所及乳製品製造所ハ牛舎、汚水溜、汚物溜、運動場等ヲ距ル三間以上ニシテ圓圍等ニ接近セス且適當ナル用水ノ供給ヲ充分ナラシメ地盤ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ内壁ハ石、煉瓦又ハ厚板ヲ以テ高サ四尺以上ノ腰張トナシ採光並空氣ノ流通ヲ佳良ナラシメ且器具ノ洗滌場ヲ設ケ尙他ノ建物ト同舍内ナルトキハ完全ナル區劃ヲ爲スコト
- 三 牛乳搾取所及牛舎ハ空氣ノ流通ヲ佳良ナラシムル爲屋棟並周圍ニ適當ノ設備ヲ爲スコト
- 四 牛乳搾取所及牛舎ノ地盤ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ其ノ表面ニ厚板ヲ張り適宜ノ勾配ヲ付シ汚水溜ニ通スル溝ヲ設ケルコト
- 五 牛舎ハ高サ八尺以上トシ一頭毎ニ幅四尺以上奥行八尺以上ノ區劃ヲ爲シ前方四尺後方三尺以上ノ空地ヲ存スルコト
- 六 汚水溜及汚物溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ飲用水ヲ距ル三間以上牛舎ヲ離ル一間以上ノ地ニ之ヲ設ケ適當ノ覆蓋及雨除子付シ其ノ周圍地盤ヨリ高サ三寸以上ニ爲シ

雨水ノ流入ヲ防クコト

第七條 本則ニ依リ認可ヲ受ケタル構造及設備落成シタルトキハ使用前知事ニ届出検査ヲ受クヘシ改修、増築又ハ移轉ノトキ亦同シ

第八條 營業ニ使用スル建物破損シ又ハ地形ノ變更ニ依リ危険ヲ生シ若ハ衛生上有害ナリト認ムルトキハ之カ修理、改築又ハ移轉ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 牛乳營業者ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

- 一 牛乳取扱所及乳製品製造所ノ近傍ニ不潔物ヲ置カサルコト
- 二 汚水溜及汚物溜ハ充溢セサル様時々掃除ヲ爲スコト
- 三 牛舎ニハ乳牛、種牛及犢牛ノ外他ノ牛畜ヲ飼養セサルコト
- 四 牛室ニハ牛籍簿ニ符合スル名稱札ヲ掲クルコト
- 五 牛體ハ日々清潔ニ梳拭シ且適當ノ運動ヲ爲サシムルコト
- 六 牛乳搾取ノ際ハ豫メ鏝板、汚水溝ヲ洒掃シ清潔ナル白色ノ作業衣ヲ着用シ乳牛ノ乳房及其ノ周邊ヲ清潔ニ洗滌シ且拭淨スルコト
- 七 搾取シタル牛乳ハ直ニ牛乳取扱所ニ運搬シ清潔ナル白

布ノ類ヲ以テ濾過シタル後之ヲ配達容器ニ移シ又ハ覆

蓋アル容器ニ貯藏スルコト

八 牛乳取扱所ニハ土足ノ儘出入セサルコト

九 牛乳ノ容器、量器ハ使用ノ都度曹達水及熱湯ニテ洗滌シ且一定ノ場所ニ備置クヘキコト

十 乳製品製造ノ際ニハ乳汁ニ蚊、蠅其ノ他昆蟲類ノ糞集セサル爲白布其ノ他適當ノ防具ヲ設クルコト

十一 牛乳、乳製品若ハ其ノ容器、量器ヲ取扱フ者ノ身體被服ヲ清潔ニ爲サシムルコト

第十條 全乳ノ脂肪量ハ百分中三、〇分以上トス

第十一條 乳牛ハ其ノ胤種、産地、年齢、毛色及結核病検査證ノ番號又ハ特徴ヲ記シ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クルニアラサレハ搾乳スルコトヲ得ス但シ所轄警察官署ニ於テ從來引續キ縣内ニ於テ乳牛タリシコトノ證明ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニアラス

第十二條 乳牛ニハ検印ヲ受クヘシ

前項ノ検印ハ検査吏員ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ消除スルコトヲ得ス

第十三條 乳牛疾病ニ罹リタルトキハ速ニ獸醫ノ診断ヲ受ケ

牛乳營業取締規則第五條第一號及第二號ニ該當スルモノハ直ニ所轄警察官署ニ届出指揮ヲ受クヘシ其ノ事項止ミルタトキ亦同シ

第十四條 傳染性ノ疾病ニ罹リタル牛ヲ隔離セムトスルトキハ隔離セムトスル場所ヲ所轄警察官署ニ届出其ノ指揮ヲ受クヘシ

第十五條 傳染性ニアラサル疾病ニ罹リタル牛ト雖必要ト認ムルトキハ隔離セシムルコトアルヘシ

前項ノ隔離ニ關シテハ警察官吏又ハ衛生技術員ノ指揮ニ從フヘシ

第十六條 牛乳搾取營業者ハ別紙第一號、第二號様式ニ依リ牛乳請賣營業者並乳製品製造營業者ハ第二號様式ニ依ル帳簿ヲ備フヘシ

第十七條 牛乳營業者ハ牛乳、乳製品又ハ其ノ容器、量器ノ取扱ヲ爲サシムル者ヲ雇入レタルトキハ五日以内ニ被雇人ノ住所、氏名、生年月日ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

前項雇人ニシテ牛乳營業取締規則第十二條ニ掲クル疾病アリト認ムルトキハ醫師ノ診断ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第十八條 (削除)

第十九條 傳染病患者アル家ニ牛乳ヲ配達スル場合ハ其ノ容器ヲ區別シ使用ノ都度煮沸消毒ヲ行フヘシ

第二十條 乳製品製造營業者ハ乳製品ノ容器ニ其ノ氏名又ハ社名及營業所ノ所在並製造年月日ヲ標記スヘシ

第二十一條 知事ノ認可ヲ得タル殺菌裝置ニ依リ殺菌シタル牛乳ニアラサレハ消毒乳、殺菌乳又ハ之ニ類似セル名稱ヲ付シ販賣スルコトヲ得ス

第二十二條 前條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ機械ノ種類、設置場所並使用方法ヲ具シ届出ヘシ

第二十三條 牛乳搾取高及乳製品ノ種類並其ノ製造高ハ別紙第二號様式ニ準シ毎月分ヲ合算シ翌月十日迄ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第二十四條 知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ牛乳營業者ニ組合ヲ設ケシメ規約ノ認可ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第二十五條 左ノ場合ニ於テハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

一 正當ノ事由ナクシテ第一條ノ落成期日ヲ經過シタルトキ

二 第八條ノ命令ニ從ハサルトキ

ニ

三 一個年以上休業シ仍ホ開業ノ見込ナキトキ
 四 牛乳營業取締規則又ハ本則ニ違背シ處分ヲ受クルモ尙
 改悛ノ情ヲシト認メタルトキ

第二十六條 本則ニ依リ知事ニ差出スヘキ願届ハ所轄警察官
 署ヲ經由スヘシ

第二十七條 本則第三條乃至第五條、第七條、第九條第一號
 第三號第四號第六號第七號第八號第十號、第十一條乃至第
 十四條、第十六條、第十七條第一項、第十八條乃至第二十
 一條、第二十三條ニ違背シタル者及第十五條第二項ノ指示
 ニ從ハサル者又ハ第二十五條ノ停止中營業ヲ爲シタル者ハ
 拘留又ハ科料ニ處ス

第二十八條 牛乳營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ
 本則ニ依リ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ
 其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付
 テハ此ノ限りニアラス

牛乳營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其
 ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業ニ關シ本則ニ違背シタルトキ
 ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得
 ス
 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他從業者法人ノ業務ニ關シ

本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法
 人ニ適用ス法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以
 テ被告人トス

附則

第二十九條 本則施行ノ際既ニ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ構造
 設備本則第六條ノ制限ニ適セサルモノハ修繕又ハ改築ノ際
 本則ノ制限ニ從フヘシ

第三十條 本則施行ノ際現ニ牛乳請賣營業ヲ爲ス者又ハ牛乳
 搾取營業者ニシテ別ニ販賣店ヲ有スル者ハ本則第三條ニ依
 リ明治四十四年三月三十一日迄ニ知事ニ願出認可ヲ受ケヘ
 シ其ノ手續ヲナサル者ハ請賣營業ヲ爲シ又ハ販賣店ヲ設
 クルコトヲ得ス

第三十一條 本則ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行シ明
 治三十九年四月縣令第二十一號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止
 ス

第一號様式 (用紙美濃判)

檢印年月日	姓名	種	前所有者	備考
年 月 日	年 齡	胤 種	入 年 月 日 異 動 年 月 日	
毛 色	病 歴	結核病検査 又ハ特徴	産 地	轉 歸 年 月 日 轉 歸 年 月 日 由 處 置

本欄ハ美濃判紙半面二頭分ヲ設クルモノトス
 備考欄ニハ異動ノ事由、分娩、搾取禁止、使用廢止等ノ年月日及事項ヲ記入スルモノトス
 第二號様式 (用紙美濃判)

牛乳搾取(乳製品)明細簿

年 月 日	搾取頭數	乳 量	販 賣 量	差引殘高	配達人員	需用人員
		搾取高	卸 賣 小 賣			
		他店ヨリ 購入高				

脱脂乳ハ左側ニ朱記スヘシ

九 店頭又ハ道路ヨリ見透シ得ル場所ニ於テ鳥獸ヲ屠殺セサルコト

十 規定ノ檢印ハ其ノ肉片ヲ販賣シ終ルマテ保存スルコト

第八條 野獸肉ヲ買入レ又ハ縣外ヨリ食肉ヲ移入シタルトキハ其ノ種類斤量及買入先ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第九條 食肉運搬器及行商容器ハ清潔ナル蓋付ノモノヲ用ヒ其ノ下部ニハ洗滌ニ便ナル様受血器ヲ設ケ使用前所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

前項ノ運搬器ヲ使用セスシテ食肉ヲ他ニ輸送運搬セムトスルトキハ清潔ナル白布ヲ以テ包ミ更ニ衛生上支障ナキ被包ヲ爲スヘシ

第十條 所轄警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ食肉取扱従事者ノ健康ヲ診斷シ又ハ醫師ヲ指定シ診斷書ノ提出ヲ營業者ニ命スルコトアルヘシ

第十一條 營業所ニ破損ヲ生シ衛生上有害ト認ムルトキハ之カ修理改造ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 本則ニ定ムルモノノ外營業ニ關シ所轄警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ命令ヲ發スルコトアルヘシ

第十三條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ營業ヲ停止シ若ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一 正當ノ事由ヲクシテ第二條第一項第五號ノ落成期日ヲ經過シ又ハ一ケ年以上休業スルモ尙開業ノ見込ナキトキ

二 本則第十一條ノ命令ニ從ハサルトキ

三 本則ニ違反シ處分ヲ受クルモ尙改悛ノ情ナシト認ムルトキ

第十四條 販賣ノ用ニ供スル食肉及其ノ營業上使用スル器具ニ關シテハ明治三十三年法律第十五號第一條ニヨリ處分スルコトアルヘシ

第十五條 本則施行ニ關シテハ警察官吏又ハ衛生技術員ヲシテ明治三十三年法律第十五號第二條ノ職權ヲ行使セシムルコトアルヘシ

第十六條 海獸肉ノ販賣ニ關シテハ本則ヲ適用セス鳥肉ノ販賣ニ關シテハ第二條第一項第四號第五號第四條第六條第七條第五條第十號第八條ヲ適用セス

第十七條 本則第二條第三條第四條第二項第五條乃至第九條ニ違反シ第十條乃至第十二條ノ命令ニ從ハサルモノ又ハ第十三條ノ停止中營業ヲ爲シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十八條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニヨリ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營

業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニアラス

營業者又ハ管理人ハ家族雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カレルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ハ法人ニ適用ス法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附則

第十九條 明治三十五年縣令第四十七號食肉販賣營業取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十條 現ニ營業ヲ爲スモノハ本則施行ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ本則ニヨリ願出テ許可ヲ受クヘシ其ノ手續ヲ爲ササルモノハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

● 食肉營業取締規則施行手續

(大正十年五月二十六日)

(訓令甲第二十二號)

警察 署 (警察分署)

食肉營業取締規則施行手續左ノ通定ム

第十一編 警察 第八章 衛生 第八款 飲食物

第七九

食肉營業取締規則施行手續

第一條 食肉營業取締規則(以下單ニ規)第二條ノ營業願ヲ受理シタルトキハ規則第四條ノ事項ヲ調査シ許可ヲ決スヘシ

第二條 規則第二條ノ出願者ニシテ海獸ノ取扱及廢畜並野犬ノ撲殺ヲ爲ス者又ハ營業上不適當ト認ムル者ニハ營業ヲ許可スヘカラス

第三條 規則第四條第二項ノ届出テアリタルトキハ構造仕様書等ニ對照検査シ不都合ナシト認ムルトキハ使用セシムヘシ

第四條 規則第八條ノ届出テアリタルトキハ所屬獸醫ヲシテ検査ヲ爲サシムヘシ

第五條 規則第十二條ニヨリ命令シタル事項又ハ重要事項ト認ムルモノハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

第六條 規則第十三條ニヨリ營業ヲ停止シ又ハ許可ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ意見ヲ具シ稟議スヘシ

第七條 營業ヲ許可シタルトキハ諸營業者名簿ニ登載シ從業者雇入届ヲ受理シタルトキハ諸營業者雇人名簿ニ登載スヘシ

●食品市場取締規則

(明治三十年一月二十九日)
(縣令第四號)

食品市場取締規則左之通相定ム

食品市場取締規則

- 第一條 本則ニ於テ食品市場(以下市場ト稱スル)ハ營業者申合セ一定ノ日時場所ニ於テ公ニ魚鳥獸肉並蔬菜菓物類ノ賣買取引スル所ヲ謂フ
- 第二條 市場ヲ設立セントスル時ハ發起人又ハ總代人ヨリ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出允許ヲ受クヘシ
 - 一 市場設立ヲ要スル事由
 - 二 市場ノ位置及圖面
 - 三 商品ノ種類
 - 四 建物ヲ要スルモノハ其構造仕樣書及圖面
 - 五 市場組合規約書
- 第三條 允許ヲ得タル後前條第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セントスル時ハ前項ノ手續ニ依リ願出允許ヲ受クヘシ
- 第四條 市場組合規約書ニハ左ノ事項ヲ掲載スヘシ
 - 一 市場ノ名稱並市場及事務所ノ位置

- 二 商品ノ種類
 - 三 賣買取引ノ方法
 - 四 市場開閉ノ日時及休廢ニ關スル事項
 - 五 組合入退者ニ關スル事項
 - 六 會議ニ關スル事項
 - 七 組合役員ノ選舉及其任期並ニ權限ニ關スル事項
 - 八 市場經費ニ關スル事項
 - 九 違約者ニ關スル事項
- 其他市場組合ニ於テ必要トスル事項
- 第五條 市場設立ノ允許ヲ得タル日ヨリ正當ノ理由ナクシテ三ヶ月以内ニ開始セス又ハ開始スルモ六ヶ月以上休廢スル時ハ其期限經過ノ日ヲ以テ允許ノ效力失フモノトス
 - 第六條 市場ヲ開始休廢若クハ廢場セントスル時ハ其前日迄ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
 - 第七條 市場組合ニ於テ役員ヲ選舉シ又ハ改選シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ
 - 第八條 市場ハ一ケ年間組合員ノ取扱タル商品ノ種類數量價額表及組合經費ノ收支決算書ヲ調製シ翌年一月限り所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ
 - 第九條 市場ハ閉市後二時間以内ニ假設物ヲ撤去シ清潔ニ掃

除テ爲スヘシ

- 第十條 市場ハ場外ニ人ヲ出シ出品ノ強要ヲ爲スヘカラス
- 第十一條 市場ハ物品製作人又ハ物品所有人ノ行商ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲スヘカラス
- 第十二條 市場ノ通路ニ車馬其他ノ物件ヲ横ヘ又ハ商品ヲ羅列シ行通ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第十三條 魚腸等ノ如キ汚穢ノ物品ハ相當ノ容器ニ入レ臭氣ヲ發散セシメサル様密閉スヘシ
- 第十四條 市場ニ於テ不熟又ハ腐敗ニ傾キタル物品ヲ賣買取引スヘカラス
- 第十五條 警察官吏ニ於テ前條ニ該當スル物品ナリト認メタル時ハ其賣買取引ヲ差止メ且棄却ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十六條 市場ハ不正品ノ疑アル物品ト認メタル時ハ直ニ警察官吏ニ申告スヘシ
- 第十七條 本則ニ違背シ又ハ公共ノ安寧ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ
 - 一 市場ノ禁止、停止又ハ移轉
 - 二 市場役員ノ改選又ハ組合規約ノ變更
 - 三 市場營業人ノ營業禁止又ハ停止
- 第十八條 第十二條第十三條第十四條ヲ犯シタル時ハ其營業
- 第十一編 警察 第八章 衛生 第八款 飲食物

●食品市場取締規則執行心得

(明治三十年二月)
(示令第三號)

- 第一條 規則第二條ノ願書ヲ受理シタル時ハ同條ノ各項具備セルヤ否並ニ市場設立ノ要否其出願人ノ素行經歷財產前科ノ有無市場位置ノ適否及他ノ同品市場ニ對スル距離ヲ調査シ認否ニ關スル意見ヲ付シ五日以内ニ進達スヘシ規則第三條ノ願書ヲ受理シタル時亦同シ但規則第二條第二項ニ係ル場合ニ於テ意見ナキモノハ願書ニ署名印ヲ捺スヘシ
- 第二條 規則第五條第十九條ニ該當スルモノアル時ハ其事由ヲ報告スヘシ
- 第三條 規則第六條ノ届書ヲ受理シタルトキハ其届書ニ署名印ヲ捺シ進達スヘシ
- 第四條 規則第七條ノ届書ヲ受理シタル時ハ其當選者ノ素行

經歷財産及前科ノ有無並市場役員タルノ適否ヲ調査シ意見アルモノハ意見ヲ付シ五日以内ニ進達スヘシ

第五條 規則第八條ノ種類數量價額表及收支決算書ヲ受理シタル時ハ審査ノ上署印ヲ捺シ進達スヘシ

第六條 市場ニハ臨時警部若クハ巡查ヲ派シ規則第十二條乃至第十四條等ニ違反ノモノナキヤ否ヲ査察シ規則第十五條ノ處分ヲ爲シタル時ハ其事由ヲ報告スヘシ

第七條 規則第十七條ノ處分ヲ必要ト認ムル時ハ其事實理由ヲ具シ可成斷案ノ資料トナルヘキ證書類ヲ添付シ具申スヘシ

第九款 飲用水

●飲用水販賣營業取締規則

(明治三十五年八月十四日)
縣令第五十四號

第四節 明治四二年二月縣令第三〇號改正

飲用水販賣營業取締規則左ノ通定ム

飲用水販賣營業取締規則

第一條 飲用水販賣營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ第二第三ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 住所氏名

二 水ノ種別

三 汲水ノ場合

第二條 飲用水販賣營業者ハ前條第三號汲水場ヨリ汲取リタル水ニ非レハ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏スルコトヲ得ス

第三條 住所氏名ニ變更ヲ生シ又ハ廢業シタルトキハ營業者ヨリ其死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第四條 雇人ヲ使用シ又ハ之ヲ解雇シタルトキハ其住所氏名ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第五條 結核病、癩病、黴毒、傳染性皮膚病及其他ノ傳染性疾病ニ罹レル者ヲシテ飲用水販賣ノ業務ニ従業セシムルトコトヲ得ス飲用水販賣營業者ニシテ其疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第六條 雇人其他營業上使役スル者ヲシテ飲用水販賣ノ業務ニ従業セシムルトキハ清潔ナル作業衣ヲ着用セシムヘシ飲用水販賣營業者自ラ業務ニ従事スルトキ亦之ニ準ス

第七條 飲用水運搬器、容器ニハ覆蓋ヲ設クヘシ飲用水運搬器、容器、汲取器、量器、濾過器ハ所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ

第八條 汲水場ハ飲用水販賣營業者ニ於テ第一號様式ノ標杭ヲ建テ其運搬器ニハ第二號様式ノ標札ヲ付スヘシ

第九條 雇人其他業務上使役スル者ヲシテ飲用水販賣ノ業務ニ従事セシムルトキハ左ノ行爲ヲ爲サシムヘカラス飲用水販賣營業者自ラ業務ニ従事スルトキ亦之ニ準ス

一 一定約アル購買者ニ對シ定時ノ配達ヲ缺クコト
二 飲用水運搬器、容器、量器、濾過器等ヲ便所、芥溜其他不潔物ノ附近ニ置クコト

●飲用水路指定ノ件

(明治三十六年四月)
(告示第百三號)

本年縣令第十六號飲用水路取締規則ヲ適用スヘキ水路ハ左記ノ通り指定ス

左記

- 一 西山梨郡大宮村宇山宮宇羽黒字湯村千塚村宇鹽部相川村
- 宇和田ヲ經テ甲府市ニ至ル用水路

●市町村飲用水改良補助規程

(明治三十九年一月十五日)
(縣令第一號)

明治四四年一月縣令第五五號改正

市町村飲用水改良費補助規程左ノ通之ヲ定ム

市町村飲用水改良費補助規程

第一條 市町村ニ於テ飲用水改良ノ目的ヲ以テ明治二十三年法律第九號水道條例ニ依ラサル飲用水改良ヲ爲ストキハ本規程ニ依リ其工費ニ對スル六分ノ一ヲ補助ス但シ支出ニ伴フ收入金寄附金等アルトキハ支出額ヨリ控除シ其殘額ニ對スル六分ノ一ヲ補助ス

工事ノ狀況其他特別ノ事情アリト認ムルトキハ特ニ前項ノ

補助額ヲ増加スルコトアルヘシ

第二條 前條ノ飲用水ヲ改良セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ著手前當廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

一 飲用水路及井戸鑽水等種別

二 同上工事明細書及設計書

三 飲用水路人口

四 工事ノ模様並ニ附近ノ狀況ヲ見ルニ足ルヘキ平面圖

五 水質試驗成績表

六 起工並ニ竣工期限

第三條 飲用水改良工事落成シタルトキハ當廳ニ届出検査ヲ受クヘシ落成検査ヲ經サル工事費ニ對シテハ補助セズ

第四條 飲用水改良費過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其査定額ニ對シ補助スルコトアルヘシ

第五條 數個人共同經營ニシテ第二條ノ認可ヲ受ケタルモノハ本規程ニ依リ其工費ニ對シ補助スルコトアルヘシ

第六條 本規程ニ依ル願届ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

附則

第七條 本規程ハ明治三十九年四月一日ヨリ施行ス

第十款 獸醫及蹄鐵

工

●獸醫師法施行細則

(昭和二年十一月七日)
(縣令第五十七號)

獸醫師法施行細則左ノ通定ム

獸醫師法施行細則

第一條 獸醫師法施行規則(以下單ニ施行規則ト稱ス)第一條ノ申請書ニハ獸醫師法第二條及第三條ニ該當ノ有無ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添附スヘシ

第二條 施行規則第七條ノ届書ニハ左ノ各號ノ事項ヲ具スヘシ但シ縣内ニ於ケル變更ノ届書ニハ免許證寫ヲ省略スルコトヲ得

一 原籍、族籍、住所、氏名、生年月日

二 前住所在地

三 免許證寫

四 官公署ニ奉職スル者ハ其ノ官公署名

第十一編 警察 第八章 衛生 第十款 獸醫及蹄鐵工

第三條 施行規則又ハ本則ニ依リ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年山梨縣令第三十八號獸醫蹄鐵工開業試驗及免狀下附書換領届ニ關スル手續及明治三十四年山梨縣令第三十九號獸醫蹄鐵工開業及出張所設置並其ノ他異動届出規則中獸醫ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●獸醫師法施行規則取扱手續

(昭和二年十一月七日)
(訓令甲第四十五號)

獸醫師法施行規則取扱手續左ノ通定ム

獸醫師法施行規則取扱手續

第一條 獸醫師法施行規則(以下單ニ施行規則ト稱ス)第一條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一 獸醫師法第一條各號ノ規定ノ資格ヲ證スル爲本證書ト對照シ正當ナルモノト認定シタルトキハ申請書餘白ニ

資格證書對照簿ノ旨ヲ附記シ取扱者捺印スルコト

二 獸醫師法第二條、第三條ニ該當スル者ナルトキハ當該事實ヲ詳細シ許否ニ關スル意見ヲ具シ進達スルコト

第十一編 警察 第八章 衛生 第十款 獸醫及屠職工

七九二

第十條 獸醫師會ニ於テ會員ニ對シ業務ニ關スル規程ヲ設ケ

タルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

第十一條 財産及營造物ヲ處分セムトスル場合ハ其ノ處分方

法ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 獸醫師會總會ニハ當該官吏ヲ出席セシムルコトア

ルヘシ

第十三條 獸醫師會ハ獸醫師會令又ハ本則ニ依リ認可若ハ届

出ヲ要スルモノヲ除ク外總會ノ狀況及議決シタル事項ハ十

日以内ニ知事ニ報告スヘシ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表

第一號

昭和 年度何々獸醫師會收入豫算書

科	目	本年	前年	増比	備考
		豫算	高度		
計					

第二號

昭和 年度何々獸醫師會支出豫算書

科	目	本年	前年	増比	備考
		豫算	高度		
計					

第三號

昭和 年度何々獸醫師會收入決算書

科	目	決算	高度	増比	備考
計					

第四號

昭和 年度何々獸醫師會支出決算書

科	目	決算	高度	増比	備考
計					

第十一編 警察 第八章 衛生 第十款 獸醫及屠職工

七九三

●蹄鐵工開業試驗及免狀下付書換
願届ニ關スル手續

(明治三十四年九月九日)
縣令第三十八號

附則 明治三十五年四月縣令第二八號、大正一五年六月
同第六三號、同年七月同第一〇九號、昭和二年一
月同第五七號改正

蹄鐵工開業試驗及免狀下付書換願届ニ關スル手續左ノ通り定ム

蹄鐵工開業試驗及免狀下付書換願届ニ關スル
手續

第一條 左ニ掲クル願届書ハ市ノ在住者ハ市長ヘ町村在住者
ハ町村長ヘ差出スヘシ但登錄稅及手数料ヲ要スルモノハ各
其相當收入印紙ヲ貼付スヘシ貼付シタル印紙ハ當廳ニ於テ
消印ス

一 蹄鐵工開業試驗ニ關スル願届
一 蹄鐵工開業(假開業ヲ含ム)免狀下付又ハ書換願届返納届
第二條 前條各項ノ願届書ニハ別ニ甲號様式ノ進達願届ヲ添付
スヘシ

第三條 市町村長ニ於テ前條ノ書類ヲ受理シタルトキハ直チ

ニ當廳ヘ進達スヘシ

第四條 (醫術假開業免狀下付ヲ出願セントスルモノハ乙號
書式ニ依リ獸醫假開業免狀下付ヲ出願セントスルモノハ丙
號書式ニ依リ)蹄鐵工假開業免狀下付ヲ出願セントスルモ
ノハ丁號書式ニ據ルヘシ

附則

第五條 明治二十三年八月縣令第五十四號及同年九月縣令第
五十八號明治三十一年二月告示第三十三號同年三月告示第
三十九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

甲號書式 (用紙美濃紙)
進達願

原籍住所族稱

戶主又ハ長次男

氏 名

生年月日

右ハ別紙(醫術)開業試驗願届書(又ハ獸醫蹄鐵工開業試驗願届書
下付及書)其筋(御進達相成度此段奉願候也

年月日

右

知事宛

氏 名

乙號書式 (用紙美濃紙)

(醫術假開業免狀下付願)

原籍住所族稱

戶主(長次男兄弟)

氏 名

生年月日

私儀今般何郡市町村何番地ニ於テ何村ヲ限リ(醫術)開業仕リ度
候間免狀御下付被成下度別紙履歷書相添此段奉願上候也

年月日

右

内務大臣宛

氏 名

(市町村長ノ奥書ヲ要ス尙意見アル者ハ其書面
ヲ添付スルハ妨ナシ)

履歷書式 (用紙美濃紙)

履歷書

原籍住所族稱

戶主(長次男兄弟)

氏 名

年月日

右

私儀何郡市町村何番地ニ於テ獸醫開業仕度候間假開業免狀御下
附被成下度別紙履歷書相添此段奉願上候也

異動	
記事	

蹄鐵工假開業免狀下付願取扱手續ノ件

(明治三十四年九月十二日 衛第一六三三號依命通牒)

警部長ヨリ(各郡)市長宛

本年縣令第三十八號ニ依リ(醫術假開業免狀及獸醫)蹄鐵工假開業免狀下付願ヲ受理シタルトキハ左記各號ニ依リ調査御達相成度依命此段及通知候也

(左記)

〔醫術假開業免狀下付願取扱手續〕

- 一 市町村長ニ於テ醫術假開業免狀下付願ヲ受理シタル時ハ左ノ各項ヲ調査シ進達セラルヘシ
- 但必要ナシト認メタルトキハ單ニ其意見ヲ具シ進達セラルヘシ
- 一 開業セントスル區域地ノ郡村名一圓又ハ何村何組

- 二 同上區域内ノ戸數人口
- 三 同上區域内ノ廣狹東西何里南北何里何町
- 四 近傍開業醫師アル村落ニ至ル道路ノ種類交通上ノ險易及里程
- 五 出願者ハ斯業ニ相當經驗アリテ危險ノ虞ナキモノナルヤ否ヤ
- 六 開業セントスル地域内ノ人民ハ常ニ如何ナル方法ニ依リ治病シアリシヤ及其重ナル病症ノ種類員數
- 七 同上地域内ノ人民ハ醫師ノ移住ヲ希望スルヤ否ヤ
- 八 同上區域内ハ山間僻陬ノ地ニシテ到底本免狀ヲ有スル醫師移住ノ目途ナク萬止ムヲ得サル場所ナルヤ否ヤ
- 九 同上區域内ニ於ケル最近年内出生死亡者ノ員數
- 二 醫術假開業免狀下付願取扱手續
- 〔獸醫)蹄鐵工假開業免狀下付願取扱手續〕
- 一 市町村長ニ於テ獸醫又ハ蹄鐵工假開業免狀下付願書ヲ受理シタル時ハ左ノ各項ヲ調査進達セラルヘシ
- 一 開業セントスル區域地ノ郡村名一圓又ハ何村何組何組
- 二 同上區域内ノ地勢及道路險易ノ狀況

- 三 同上區域内ノ廣狹東西何里何町南北何里何町
- 四 同上區域内ノ牛馬頭數馬何頭牛何頭
- 五 出願者ハ斯業ニ相當ノ經驗ヲ有スルモノナルヤ否
- 六 營業年限
- 二 獸醫又ハ蹄鐵工假開業免狀下付セラレタル者ヨリ其開業區域ノ變更ヲ出願シタルトキハ其理由並前號各項ノ事實ヲ調査進達セラルヘシ

蹄鐵工開業及出張所設置其他異動届出規則

(明治三十四年九月十日 縣令第三十九號)

明治四〇年一月縣令第四號、大正一五年七月同第一〇九號、昭和二年一月同第五七號改正

- 蹄鐵工開業及出張所設置其他異動届出規則左ノ通定ム
- 蹄鐵工開業出張所設置其他異動届出規則
- 第一條 蹄鐵工ニシテ新ニ開業免狀ヲ受ケ若クハ開業シ又ハ他府縣ヨリ來往シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ三日以内ニ當廳ヘ届出ツヘシ
- 一 原籍族稱現住所氏名生年月日

- 二 前住居ノ地
- 三 免狀ノ寫
- 第二條 蹄鐵工ニシテ左記各號ノ異動ヲ生シタルトキハ亦前條ニ同シ但第四號ニ在テハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ之レヲ爲スヘシ
- 一 休業 復業 廢業
- 二 本籍族稱ノ變更改氏名
- 三 他ノ市町村ヨリ來住、一市町村内ノ轉居、他ノ市町村ヘ轉居、海外移住、海外旅行、歸朝
- 四 失踪ノ決定失踪ノ取消死亡
- 五 其他ノ異動
- 第三條 蹄鐵工ニシテ他府縣ヘ轉住スルトキハ轉居前ニ當廳ヘ届出ツヘシ
- 第四條 蹄鐵工ニシテ出張所ヲ設ケタルトキハ其場所及出張ノ期日ヲ明記シ三日以内ニ當廳ヘ届出ツヘシ其變更アリタルトキ亦同シ但他府縣居住ノ者ハ届書ヘ免狀寫ヲ添付スヘシ
- 第五條 出張所ニハ相當免狀ヲ有スル助手一名以上ヲ置キ其姓名ヲ三日以内ニ當廳ヘ届出ツヘシ其變更アリタルトキ亦同シ但出張日ノ外閉鎖スルモノハ助手ヲ置ケノ限ニアラス

第六條 本則ニ依リ當廳へ届出ツル書類ハ市町村長へ差出ス
ヘシ

前項ノ書類ハ市ニ在ツテハ直チニ町村ニ在ツテハ〔所轄郡
役所ヲ經由シテ〕當廳へ進達スヘシ

第七條 本則第一條乃至第五條ニ違反シタル者ハ壹圓九拾五
錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第八條 明治二十三年^{十二}月^三 縣令第七十三號及明治二十七年^三月^三
縣令第十四號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

蹄鐵工出張所ニ關スル件

(明治三十四年十一月二十七日)
(衛第一九三〇號)

衛生課長ヨリ〔各郡〕市

〔醫師藥劑師獸醫〕蹄鐵工出張所ハ本年縣令第三十九號〔醫師
藥劑師獸醫〕蹄鐵工出張所設置其他異動届出規則ニ依リ
助手ヲ置クカ然ラサルモノハ出張日以外ハ出張所ヲ閉鎖スヘ
キ答ニ有之然ルニ進達相成候該出張所届書中助手ヲ置カス期
日ヲ定メテ出張スルモノニシテ出張日之外閉鎖シ置クヘキ旨
付記無之爲メニ照會ヲ重ヌル事有之取扱上支障不尠候條爾今
出張日ノ外出張所ヲ閉鎖スルモノニ在ツテハ必ス届書中其旨

記載セシメラレ候様豫メ町村長等へ御指示置相成度此段及照
會候也

第十一款 傳染病豫

防、檢疫

及種痘

●傳染病豫防法施行細則

(大正十二年四月十四日)
(縣令第二十四號)

附則 大正十五年六月縣令第六一號改正

傳染病豫防法施行細則左ノ通之ヲ定ム

傳染病豫防法施行細則

第一條 傳染病豫防法第三條ノ届出ハ左記事項ヲ記載シタル
書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ便宜口頭ヲ以テ届出ツルコト
ヲ得

一 發生届出事項

- (一) 患者、死者又ハ病原體保有者ノ住所居所、氏名、
職業、年齢、男女別
- (二) 病名(病原體保有者ニ付テハ病原體名)

第十一編 警察 第八章 衛生 第十一款 傳染病豫防、檢疫及種痘

- (三) 發病年月日
 - (四) 初診年月日
 - (五) 診斷又ハ檢案年月日
- 二 轉歸届出事項
- (一) 住所、氏名
 - (二) 病名
 - (三) 轉歸種別
 - (四) 主要症狀消退年月日
 - (五) 轉歸年月日

第二條 傳染病豫防法施行規則第八條ニ依リ病原體有無ニ關
シ檢査ヲ請求セムトスル者ハ市町村長ニ申出ツヘシ

第三條 市町村長ハ其ノ市町村内ノ宅地家屋ノ所有者又ハ占
有者ヲシテ毎年四月一日ヨリ七月十日迄ノ期間内ニ於テ蠅
ノ發生ヲ防止スル方法及清潔方法ヲ施行セシムヘシ

第四條 市町村長ハ前條ノ期日ヲ定メタルトキハ施行期日七
日前ニ所轄警察官署長ニ通報スヘシ

第五條 「コレラ」、赤痢、腸「チフス」、「バラチフス」ノ患者
又ハ死者アリタル附近各戸ニ於テハ市町村長又ハ警察官
吏、檢疫委員ノ指示ニ從ヒ左ノ消毒方法ヲ施行スヘシ
一 上圖ノ都度便池ニ消毒藥ヲ投入スルコト